

2024年度

大 学 院

履修要項・講義要項



奈良大学

目 次

概 要	2024年度 学年暦及び行事予定表	2
	建学の精神／教学の理念	4
	教育研究上の目的	5
	学位授与の方針	6
	教育課程編成・実施の方針	7
	入学者受入の方針	10
履 修 要 項	履修・修了等について	11
	1. 履修	
	2. 学期・授業時間	
	3. 休講・補講	
	4. 試験	
	5. 課程修了要件	
	6. 学位論文	
	7. 最終試験	
	8. 課程の修了	
	修士論文提出要領	14
	修士論文審査基準	16
	奈良大学大学院文学研究科	18
	博士学位取得のためのガイドライン〔課程博士〕	
	専修免許状の取得について	21
	1. 専修免許状の種類	
	2. 基礎資格・所要単位数	
	3. 教科及び教科の指導法に関する科目の単位修得方法	
	G I S 専門学術士取得について	23
	1. 資格の性質	
	2. 取得に必要な科目	
	3. 申請手続き	
	専門社会調査士取得について	24
	1. 資格の性質	
	2. 取得に必要な科目	
	3. 申請手続き	
	学生生活	25
	1. 研究室の使用について	
	2. 教員のオフィスアワーについて	
	3. 複写機（大学院事務室）の使用について	
	4. 大学院図書・資料室の利用について	
講 義 要 項	科目ナンバリングについて	26
	文学研究科	27
	国文学専攻修士課程	28
	文化財史料学専攻博士前期課程	44
	文化財史料学専攻博士後期課程	85
	地理学専攻修士課程	91
	社会学研究科	107
	社会学専攻修士課程 社会文化研究コース	108
	社会学専攻修士課程 臨床心理学コース	117

2024年度 学年暦及び行事予定表

(3月30日現在。諸事情により変更する場合があります)

● 前 期

4 月	日 月 火 水 木 金 土	4/1 (月) 学年始
	1 2 3 4 5 6	4/2 (火) 入学式
	7 8 9 10 11 12 13	4/3 (水) 新入生・在学生ガイダンス、文学・社会学研究科教員ガイダンス
	14 15 16 17 18 19 20	4/3 (水) ~4/5 (金) 履修登録期間
	21 22 23 24 25 26 27	4/3 (水) ~4/15 (月) 修了予定者研究計画提出期間
	28 29 30	4/8 (月) 前期授業開始 4/10 (水) ~4/12 (金) 健康診断 4/28 (日) 創立記念日 4/30 (火) 休講日
5 月	日 月 火 水 木 金 土	5/1 (水)、5/2 (木) 休講日
	1 2 3 4	5/1 (水) ~5/10 (金) 論文博士予備審査申請書 前期受付期間
	5 6 7 8 9 10 11	
	12 13 14 15 16 17 18	
	19 20 21 22 23 24 25	
	26 27 28 29 30 31	5/6 (月) こどもの日 (祝日授業実施)
6 月	日 月 火 水 木 金 土	
	1	
	2 3 4 5 6 7 8	
	9 10 11 12 13 14 15	6/5 (水) ~6/7 (金) 修士論文・博士論文題目提出期間
	16 17 18 19 20 21 22	
	23 24 25 26 27 28 29 30	
7 月	日 月 火 水 木 金 土	
	1 2 3 4 5 6	
	7 8 9 10 11 12 13	7/3 (水) ~7/5 (金) 9月修了修士論文提出期間
	14 15 16 17 18 19 20	7/15 (月) 海の日 (祝日授業実施)
	21 22 23 24 25 26 27	7/27 (土) 前期授業終了 (平常授業最終日)
	28 29 30 31	
8 月	日 月 火 水 木 金 土	
	1 2 3	
	4 5 6 7 8 9 10	7/29 (月) ~8/3 (土) 前期補講期間
	11 12 13 14 15 16 17	8/5 (月) ~9/10 (火) 夏期休業
	18 19 20 21 22 23 24	8/20 (火) ~8/30 (金) 研究生 (10月入学生) 受付期間
	25 26 27 28 29 30 31	

● 後 期

9 月	日 月 火 水 木 金 土	9/2 (月) ~9/4 (水) 9月修了修士論文口述試問期間
	1 2 3 4 5 6 7	9/19 (木) 後期授業開始
	8 9 10 11 12 13 14	9/21 (土) 大学院 (秋季) 入学試験
	15 16 17 18 19 20 21	9/23 (月) 秋分の日 (祝日授業実施)
	22 23 24 25 26 27 28	9/30 (月) 9月修了学位記授与式
	29 30	

10 月	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			10/14 (月) スポーツの日 (祝日授業実施)							
日	月	火	水	木	金	土																																													
		1	2	3	4	5																																													
6	7	8	9	10	11	12																																													
13	14	15	16	17	18	19																																													
20	21	22	23	24	25	26																																													
27	28	29	30	31																																															
11 月	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	11/1 (金) ~11/9 (土) 論文博士予備審査申請書 後期受付期間 11/2 (土) 青垣祭前夜祭 11/3 (日)、11/4 (月) 青垣祭 11/2 (土)、11/5 (火)、11/13 (水)、11/14 (木) 休講日 11/23 (土) 勤労感謝の日 (祝日授業実施)							
日	月	火	水	木	金	土																																													
					1	2																																													
3	4	5	6	7	8	9																																													
10	11	12	13	14	15	16																																													
17	18	19	20	21	22	23																																													
24	25	26	27	28	29	30																																													
12 月	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>30</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					12/25 (水) 年内最終授業 12/26 (木) ~1/4 (土) 冬期休業							
日	月	火	水	木	金	土																																													
1	2	3	4	5	6	7																																													
8	9	10	11	12	13	14																																													
15	16	17	18	19	20	21																																													
22	23	24	25	26	27	28																																													
29	30	31																																																	
1 月	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>31</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		1/6 (月) 平常授業再開 1/8 (水) ~1/10 (金) 修士論文提出期間 1/14 (火) ~1/16 (木) 文学研究科博士論文提出期間 1/16 (木) 博士後期課程進学志望届提出締切日 1/17 (金) ~1/19 (日) 大学入学共通テスト (全日休講) 【学生構内立入禁止】 1/25 (土) 後期授業終了 (平常授業最終日) 1/21 (火) ~1/24 (金)、1/27 (月)、2/1 (土) 補講期間 1/30 (木) ~2/5 (水) 修士論文口述試問期間 1/30 (木) ~2/5 (水) 博士後期課程内部進学者選考日 (候補日)							
日	月	火	水	木	金	土																																													
			1	2	3	4																																													
5	6	7	8	9	10	11																																													
12	13	14	15	16	17	18																																													
19	20	21	22	23	24	25																																													
26	27	28	29	30	31																																														
2 月	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		2/5 (水) ~2/7 (金) 文学研究科課程博士論文口述試問・公聴会 (候補日) 2/6 (木) ~3/31 (月) 春期休業 2/18 (火) 大学院 (春季) 入学試験							
日	月	火	水	木	金	土																																													
						1																																													
2	3	4	5	6	7	8																																													
9	10	11	12	13	14	15																																													
16	17	18	19	20	21	22																																													
23	24	25	26	27	28																																														
3 月	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						3/15 (土) ~3/25 (火) 研究生 (4月入学生) 受付期間 3/19 (水) 学位記授与式 3/31 (月) 学年末
日	月	火	水	木	金	土																																													
						1																																													
2	3	4	5	6	7	8																																													
9	10	11	12	13	14	15																																													
16	17	18	19	20	21	22																																													
23	24	25	26	27	28	29																																													
30	31																																																		

建学の精神

努力が天才であるとする信念を以て心の光となし、

自己の願望を遂げさせるものは自分自身であるとする信念を以て心の力となす。

この光に照らされ、この力に勇みつつ、

明るい人生の中に自己を見出して、常に大望を見失わず、自信満々努力して倦まざるもの、

これが即ちたくましく正しきに強き健児の姿であり、建学の精神である。

教学の理念

1. つねに真理の探究につとめ、伝統と現代感覚の調和をはかりつつ、
学術文化の創造と進歩に寄与する。
2. ふれあいと対話の教育を基調にして、豊かな人間性を養い、
独立自由を尊ぶとともに、友情あつく協調性に富んだ人材を育成する。
3. 国際的視野に立つ開かれた大学として、地域社会との連帯を深めながら、
ひろく人類社会の平和と発展に貢献する。

教育研究上の目的

文学研究科

【国文学専攻】

日本語をめぐる諸現象を、古典文学・近現代文学・国語学の分野から実証的、分析的に研究する。日本語や日本文学に関する広範囲な知識を習得するとともに、文献やデータを的確に読み取り、論述する深い思考力をもった専門家、及び、アジアや世界の観点から日本文化を見つめることのできる多様性をもった人材を育成する。また、言葉に関係の深い専門分野である教諭専修免許状（中学・高校の国語科）、司書資格、学校図書館司書教諭資格等を取得できる人材の育成を目的とする。

【文化財史料学専攻】

文献史学、考古学、美術工芸史学、保存修復学の4分野からなる。いずれの分野も学際的見地に立ち、社会・文化・芸術などの問題を、物的資料と文字資料の両面から検討することにより、幅広くかつ専門的に教育と研究を行うことを目的とする。後期課程においては、より高度な専門的知識と能力をもつ専門職業人の養成を目的とする。

【地理学専攻】

地表をめぐる諸現象を、自然地理学、人文地理学、地誌学、GISの各分野の立場で科学的に研究し、広範な知識、高度な専門性を生かして地理的諸問題に対処し得る自立的な能力を錬成すると共に、地理学に関係の深い専門分野であるGISの専門資格、中学校（社会）・高等学校（地理歴史）教諭専修免許状等を取得できる人材の育成を目的とする。

社会学研究科

【社会学専攻】

「社会的存在」としての人間に関わる諸問題を深く捉えるための専門的知識と実践的技能の基礎を身につけた研究者、及び高度な専門職業人の養成を目的としている。さまざまな社会の課題に関係した調査を実施し、その分析・考察を通じて、よりよい社会を構想する専門家や、人間の心の苦悩や問題、病理に関する臨床心理学的な知識と援助技法を備えた専門家の育成に努める。

学位授与の方針

DP (ディプロマ・ポリシー)

文学研究科

修士・博士前期課程

所定の年限以上在学し、専攻の設定した授業科目を履修したことによって以下の優れた専門的知識、実践力、研究能力を身につけ、さらに修士論文の審査に合格した者に修士の学位を授与する。

1. 人文科学諸領域における学術研究を推進するうえで必要な知識と技能を十分に持ち、その知識を活用することができる。
2. 専門領域の研究状況を正しく理解し、自らの研究の目的・意義を正確に位置づけた上で、自らが解決すべき問題を発見し研究を推進することができる。
3. 研究に携わる者としての強い責任感と高い倫理性を持ち、自らの研究成果を広く社会に向けてわかりやすく発信・公表することができる。

博士後期課程【文化財史料学専攻】

所定の年限以上在学し、専攻の設定した授業科目を履修したことによって以下の優れた専門的知識、実践力、研究能力を身につけ、さらに博士論文の審査に合格した者に博士の学位を授与する。

1. 学術研究に携わる者としての強い自覚と探究心をそなえ、歴史学・文化財学に関わる広い視野と学際的知識を持っている。
2. 専門及び関連諸領域の研究状況を正しく認識して自らの研究の目的・意義を正確に位置づけ、独創的内容をもった研究を遂行することができる。
3. 高度な専門知識を有し、研究に携わる者としての強い責任感と高い倫理性を持って、自らの研究を推進し、学界及び社会に対して広く発信し、還元することができる。
4. 共同研究を推進できる協調性をもち、後進の指導にも積極的にあたることができる。

社会学研究科

修士課程

所定の年限以上在学し、専攻の設定した授業科目を履修したことによって以下の優れた専門的知識、実践力、研究能力を身につけ、さらに修士論文の審査に合格した者に修士の学位を授与する。

1. 「社会的存在」としての人間の諸問題を深く理解するための、高度な専門的知識
2. 現代社会や人間の心に関する諸課題に対応し、専門的知識を応用できる実践力
3. 専門の研究分野において問題解決に寄与し、その成果を適切に発信できる研究能力

教育課程編成・実施の方針

CP（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科

修士・博士前期課程

【国文学専攻】

- CP1. 日本語と日本文学にかかわる基礎的な知識を学び、それらを専門的な研究手法に応用する姿勢を身につける。
- CP2. 日本語と日本文学を広く文化現象と比較しながら考察してゆく学習方法を熟知し、体得する姿勢を身につける。
- CP3. 文献調査やフィールドワークによって、実証的に考察を進めてゆく学習方法を熟知し、体得する姿勢を身につける。
- CP4. 自らの思考や分析によって得た見解を、討論を通じてより論理的・客観的な研究へと高めてゆく姿勢を身につける。

CP1	上代文学特論、中古文学特論、中世文学特論、近世文学特論、書物特論、メディア文化特論、比較交流特論、和歌歌謡特論、近代小説特論、近代詩歌特論、現代文学特論、古典日本語特論、現代日本語特論、国文学特論、国語学特論
CP2	日本言語文化論、広域言語文化論、表象文化論
CP3	古典散文特殊講義（基礎）・（応用）、古典韻文特殊講義（基礎）・（応用）、近代文学論特殊講義（基礎）・（応用）、言語論特殊講義（基礎）・（応用）
CP4	上代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中古文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中世文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、近世文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、近代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、現代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、古典語国語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、現代語国語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

【文化財史料学専攻】

- CP1. 文献史学、考古学、美術工芸史学、保存修復学の基礎的な専門知識を補い、より高度な分析力に活用する。
- CP2. 多様な分野の学術的研究を幅広く学ぶことによって、国際的な視野と幅広い知識を獲得し、多角的な思考力を身につける。
科学的・実証的思考の基礎となる文献史料と実物資料を適切に分析できる力を身につける。
- CP3. 文化財（文化遺産）の調査・保存・修復・活用等に関する専門的な知識と技術を修得する。
- CP4. 研究発表と討論を通して、自ら思考し、分析する姿勢を身につける。

CP1	文献史学特論、考古学特論、美術工芸史学特論、保存修復学特論
CP2	文献史学（日本史）特殊講義A・B・C、文献史学（外国史）特殊講義、考古学特殊講義A・B・C、美術工芸史学特殊講義、保存修復学特殊講義、情報処理論特殊講義
CP3	考古学特殊講義A・B・C、美術工芸史学特殊講義、保存修復学特殊講義、情報処理論特殊講義、文化財史料学特殊講義、文化財修復実習
CP4	文献史学（日本史）演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、文献史学（外国史）演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、考古学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、美術工芸史学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、保存修復学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

【地理学専攻】

- CP1. 専門の基礎的知識を補い、また、専門と関わって研究上広い視野に立つことができる姿勢を身につける。
- CP2. 地理学が、系統地理学としての自然地理学分野と人文地理学分野、それらをかけつなぐ地誌学分野とが文理融合した総合的な性格を持つことを理解し、幅広く、諸現象の成因から、現実には生起する諸問題の解決に向けて取り組む能力を身につける。
- CP3. GISをはじめとする先端的な専門知識、巡検の計画を立案し遂行するための知識と、それらに対する技能を習得し、総合できる能力を身につける。
- CP4. 自らの思考によって解析した研究内容を、少人数教育における参加型授業で発表・議論し、研究指導を受ける。

CP1	自然地理学特論、人文地理学特論、地域・地誌学特論
CP2	自然地理学（地形）特殊講義、自然地理学（気候）特殊講義、自然地理学（環境）特殊講義、人文地理学（農村）特殊講義、人文地理学（歴史）特殊講義、人文地理学（文化）特殊講義、人文地理学（都市）特殊講義、地域・地誌学（日本）特殊講義、地域・地誌学（先進地域）特殊講義、地域・地誌学（発展途上地域）特殊講義
CP3	地理情報学特殊講義、国内巡検計画法Ⅰ・Ⅱ、外国巡検計画法Ⅰ・Ⅱ
CP4	自然地理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、人文地理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域・地誌学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

博士後期課程

【文化財史料学専攻】

1. 「特殊研究」は、以下のような目的と内容をもって開講し、その成果を口頭発表や学術論文として発表することを目的とする。
- ① 専門及び関連諸領域の研究状況を的確に把握し、自らの研究を独創的かつ高度な内容にまとめ上げる能力を身につける。
 - ② 文献資料の高度な読解力と文化財に関する幅広い知識を身につける。
 - ③ 研究を遂行する上で遵守すべき規範を理解し、研究者に必要な倫理観を身につける。
2. 「博士論文」は、原則として3年間の「特殊研究」における学修の成果をもとに、その間、学術雑誌等に発表した複数の研究成果を踏まえてまとめるものとする。

社会学研究科

修士課程

【社会学専攻】

- CP1. 社会・人間諸科学におけるさまざまな研究分野を学ぶための科目の修得を通じ、理論と実践を融合し、複眼的な視点からの研究活動に応用する姿勢を身につける。
- CP2. 社会文化研究コースにおいては、とくに社会学、文化人類学、社会心理学の理論と研究法、及び社会調査の専門的技法を中心に習得することで、研究者として実証的研究を遂行するための知識、技術、倫理観を身につける。
- CP3. 臨床心理学コースにおいては、とくに臨床心理学の理論と研究法、及び臨床実践の専門的技法を中心に習得することで、各種の臨床現場において高い倫理観と職業意識をもって活動できる心理臨床家としての能力を身につける。

社会文化研究コース

CP1	情報学特論Ⅰ、Ⅱ、経済学特論Ⅰ、Ⅱ、経営学特論Ⅰ、Ⅱ
CP2	社会文化研究演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、社会学特論Ⅰ、Ⅱ、文化人類学特論Ⅰ、Ⅱ、社会心理学特論Ⅰ、Ⅱ、応用社会学特論Ⅰ、Ⅱ、応用人類学特論Ⅰ、Ⅱ、応用社会心理学特論Ⅰ、Ⅱ、社会調査法特論、多変量解析法特論、質的調査法特論、統計解析法特論、学位論文

臨床心理学コース

CP1	社会心理学特論
CP3	臨床心理学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）、臨床心理査定演習Ⅱ、臨床心理基礎実習、臨床心理実習、臨床心理学特論Ⅰ、Ⅱ、臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）、臨床心理面接特論Ⅱ、臨床心理学研究法特論、心理統計法特論、発達心理学特論、教育心理学特論、犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）、障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）、精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）、心身医学特論、投映法特論、心理療法特論、心理実践実習Ⅰ・Ⅱ、学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）、グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）、心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）、学位論文

入学者受入の方針

AP（アドミッション・ポリシー）

文学研究科

修士・博士前期課程

奈良大学文学部における学位授与の方針（DP）で掲げている、①知識・技能の理解と活用、②問題発見・解決力、③多様性の理解、④コミュニケーション能力、⑤自律的で意欲的な態度、のいずれにも合致する能力を持ち、自らの研究を計画的に推進できる能力を持つ人材を受け入れる。以下、各専攻で定める能力をそなえていること。

【国文学専攻】

1. 日本文学・日本語及びそれらに関連する文化的諸領域について、基礎的な知識をもち、かつ主体的に研究していける人。

【文化財史料学専攻】

1. 歴史遺産に恵まれた奈良を拠点とし、自国の文化、さらには異文化へと、世界的に視野を広げ、歴史・文化を研究していける人。
2. 高度で専門的な知識と技術を習得することにより、具体的な所産である文化財を通して歴史や文化を研究していける人。
3. 文化財を継承していくことの大切さを十分に理解し、その保存・修復・活用に、より高度な科学的調査方法や研究能力を生かしていける人。

【地理学専攻】

1. 地表をめぐる諸現象のうち、自然地理学、人文地理学、地誌学、GISなどの分野の基礎的知識を持ち、かつ主体的に研究していける人。
2. 地理学に関係の深い分野であるGISに関する専門資格及び中学・高等学校教諭専修免許状を生かした活動を目指している人。

博士後期課程【文化財史料学専攻】

奈良大学大学院文学研究科博士前期課程における学位授与の方針（DP）に合致し、さらに研究目的及び研究計画が明確で、推進力が期待できる人材を受け入れる。

社会学研究科

修士課程

【社会学専攻】

社会学研究科創設以来の「リサーチ・オリエンテッド」の伝統に基づき、調査・実験・臨床の実践を通じて実証的な研究を継続して行う意志のある人材を求める。社会文化研究コースにおいては社会学、社会心理学、経済学、経営学、情報学から学際的かつ専門的な技能を獲得するために学ぶ意思を強く持ち、自律的に問題解決に取り組むことができると同時に、常に自身の学びと社会との繋がりを意識することができる人材を受け入れる。臨床心理学コースにおいては臨床心理学について深く探求し、自己と他者の心に寄り添うと同時に冷静な分析的視点を失わない姿勢を自ら育む意欲と、学修の成果を社会への貢献に繋げる意思を持つ人材を受け入れる。

履 修 要 項

【履修・修了等について】

1. 履修

授業を受けるにあたっては、予めどの科目を受講するかを決め、履修の登録を行う必要があります。

履修登録されていない科目の授業を受け、試験またはレポートを提出して評価が出されても単位は認定されませんので、必ず下記期間中に履修登録を済ませて受講するようにしてください。

本学大学院では、半期で授業が終了する Semester 制を導入していますが、履修登録は原則4月に行っていただきます。履修登録は、年間の履修計画を立て、1年間で受講する科目を全て登録してください。

4月のガイダンスで配付する「大学院履修登録申請書」により登録（大学院事務室へ提出）していただきますが、大学院での履修登録に際しては、指導教員との履修相談が必要です。「大学院履修登録申請書」には、指導教員の確認印が必要になります。必ず指導教員と履修相談を行い、履修登録期間内に登録をしてください。期間を過ぎての申請は出来ませんので、注意してください。

また、本年度で修了を予定している場合（修士・博士前期課程は2年次以上、博士後期課程は3年次以上）は、履修登録申請書と合わせ「研究計画書」の提出が必要です。登録期間内であれば履修登録申請書とは別に提出して差し支えありません。様式及び枚数は6月提出分と同様（ただし、提出部数は1部とします）ですので、【修士論文提出要領】（P14）を参照のこと。履修相談と合わせて、研究計画書の提出についても指導教員の指導・指示を受けてください。

なお、9月の履修登録は、4月の登録を集計して、本年度に開講することが決定した科目のうち、**後期から始まる科目のみ追加登録が出来ます**。なお、前期に登録した後期科目を、都合により履修を取り止めても、**登録科目の削除は行えません**ので、特に注意してください。

4月の履修登録期間

研究科・専攻・コース名	登録期間	登録方法
全研究科・全専攻・全コース	2024年4月3日(水)) 2024年4月5日(金)	指導教員との履修相談を行い、「大学院履修登録申請書」に記入後、指導教員の確認印を得て、大学院事務室へ提出。

期間・方法は変更する可能性があります。

9月の履修登録日

コース名	登録日	登録方法
全研究科・全専攻・全コース	2024年9月前半(予定)	4月の登録同様「大学院履修登録申請書」を大学院事務室へ提出。

期間・方法は変更する可能性があります。

2. 学期・授業時間

学期は、前期（15週）及び後期（15週）の2期。授業時間は次のとおり。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50

3. 休講・補講

(1) 休講

授業担当者が学会参加等のやむを得ない理由で講義を休講とする場合は、総合研究棟2Fの大学院掲示板（電子モニター）にて休講連絡をします。なお、授業開始時刻から25分が経過しても授業担当者が来ない場合は、大学院事務室に連絡のうえ、指示を受けてください。

(2) 補講

授業の補充（補講）が行われる場合も、総合研究棟2F大学院掲示板（電子モニター）にて連絡をします。

4. 試験

試験方法として筆記試験、口頭試験及び研究報告があります。特に研究報告の場合は、総合研究棟2F大学院掲示板（電子モニター）にて連絡をします。

○研究報告の提出について

必ず表紙（大学院事務室で配付）をつけて、提出場所、期限を間違えないよう提出をしてください。特に、大学院事務室提出の研究報告は、締切日を含め**3日間**しか受付できませんので、注意してください。

提出時間： 平日 8：30～16：30 **（最終日は15：00） 時間厳守**

5. 課程修了要件

- ・ 修士課程または博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、各専攻の授業科目について**32単位以上**を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。
- ・ 博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について**12単位以上**修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

6. 学位論文

- ・ 修士の学位論文は、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度な能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。
- ・ 博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、その他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足るものでなければなりません。

作成・提出にあたっては、次の事項及び「**修士論文提出要領**」(P14)、「**博士学位取得のためのガイドライン**」(課程博士)(P18)、『COLLEGE LIFE』「奈良大学学位規程」及び、「大学院生修了に伴う取扱要項」を参照してください。

○作成指導

論文を作成するためには、各専攻指導教員の指導を受けなければなりません。なお、指導を受けるにあたっては、4月の新入生ガイダンスで配付する「指導教員希望届」の提出が必要です。（「指導教員希望届」には、希望する教員の承認印が必要です。）

提出期間：4月3日（水）～4月6日（土） ※提出期間・方法は変更する場合があります。

提出先：大学院事務室（土曜日は12：30まで）

○提出資格

修士の学位論文を提出できる者は、修士課程または博士前期課程に1年以上在学し、各専攻の授業科目について20単位以上の修得が必要です。

博士の学位論文を提出できる者は、博士後期課程に2年以上在学し、既に所定の単位を修得した者または論文審査終了までに修得する見込みであることが必要です。

○題目提出

修士または博士の学位論文の提出予定者は、5月中旬から配付する「論文題目届」に**指導教員の承認印**を受けて、所定の期間（学年暦参照P2）に「論文題目届」と「研究計画書 3部」を大学院事務室へ提出してください。

※「論文題目」と「研究計画書」を提出しなかった場合は、論文の提出はできません。

○形式等

論文の形式等必要事項については、指導教員の指示に従ってください。

○提出

修士の学位論文は、「学位授与申請書」（大学院事務室で配付）と「論文要旨」を添えて、所定の期間（学年暦参照P3）に大学院事務室を経て当該研究科長に提出してください。

※学位論文は3部（2部は複写可）、論文要旨は4部（3部は複写可）を提出。

博士の学位論文は、「学位授与申請書」（大学院事務室にて配付）と「論文要旨」及び「履歴書」を添えて、所定の期間（学年暦参照P3）に大学院事務室を経て当該研究科長に提出してください。

※学位論文は4部（3部は複写可）、論文要旨は4部（3部は複写可）と履歴書1部を提出。

○審査

学位論文の審査は、指導教員を主査とし、論文に関連のある教員2名以上で構成され、当該研究科の審査委員会が行います。

7. 最終試験

提出論文を中心として、専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、口述または筆記による最終試験を行います。

可否の決定は、当該研究科委員会が行います。

8. 課程の修了

(1) 課程の修了の認定は、当該研究科委員会が行います。

(2) 修士課程または博士前期課程を修了した者には、次の学位を授与します。

文学研究科 修士（文学）

社会学研究科 修士（社会学）

(3) 博士後期課程を修了した者には、次の学位を授与します。

文学研究科 博士（文学）

【修士論文提出要領】

1. 論文題目及び研究計画の提出

(1) 修士論文題目

「修士論文題目」の用紙（5月中旬配付）を大学院事務室より受け取り、**指導教員の承認印**を受けて、下記の期間中に大学院事務室に提出すること。

(2) 研究計画

「研究計画」の表紙（5月中旬配付）を大学院事務室より受け取り、**正本1部、副本2部（複写可）、合計3部**を作成し、論文題目とあわせて大学院事務室に提出すること。

提出期日	全研究科	2024年6月5日(水)～2024年6月7日(金)
------	------	---------------------------

※**提出時間 8:30～16:30（時間厳守）**

2. 修士論文及び論文要旨の提出

(1) 修士論文

修士論文を提出する者は、大学院事務室で学位授与申請書を受け取り、**指導教員の承認印**を受けて、**正本1部、副本2部（複写可）、合計3部**の修士論文を下記の期間中に大学院事務室に提出すること。

(2) 論文要旨

「論文要旨」の表紙を大学院事務室で受け取り、**正本1部、副本3部（複写可）、合計4部**の論文要旨を作成し、修士論文とあわせて大学院事務室に提出すること。

提出期日	全研究科	9月修了	2024年7月3日(水)～2024年7月5日(金)
		3月修了	2025年1月8日(水)～2025年1月10日(金)

※**提出時間 8:30～16:30（時間厳守）**

3. 用紙・書式・提出枚数・綴じ方

次ページの表を参照のうえ作成すること。

4. 「奈良大学大学院研究年報」への論文要旨の掲載

修士論文が審査に合格し修了した者は、提出された論文要旨を「奈良大学大学院研究年報」に掲載しなければならない。ただし、本人の申し出があった場合は、論文要旨を書き改めることができる（体裁・枚数は同じものとする）。

なお、奈良大学大学院研究年報に掲載する最終の論文要旨は、口述試問の終了後、印刷したものと、そのデータを提出すること。提出方法等については、別途掲示で連絡する。

【修士論文・研究計画・論文要旨】＜用紙・書式・提出枚数・綴り方＞

※用紙は、コピー用紙可。

	【修士論文】		【研究計画】		【論文要旨】	
	提出枚数 表紙、目次、注、 参考文献は含まない	綴り方までの 完成原稿の作り方	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方
国文学専攻	提出枚数 25枚以上（本論のみ）	① 縦書きの場合 50字×16行 800字 ② 横書きの場合 40字×20行 800字	① 本学指定のフロッ トファイル（黄色） に綴ること。（本学 売店で販売）	6月の論文題目提出 時に提出	提出枚数	1月の論文提出時に 提出
	提出枚数 400字語原稿用紙換算 50枚以上（本論のみ）	① 縦書きの場合 40字×15行 600字 ② 横書きの場合 30字×15行 450字	② ファイルには、大 学院事務室より受け 取った所定の表紙及 び背表紙を貼り、年 度・論文題目（副題 目を含む）・研究科名・ 専攻名・指導教員名・ 学籍番号・氏名を明 記。	大学院事務室より 受け取った所定の表 紙に、研究科名、専 攻名、指導教員名、 学籍番号、氏名、論 文題目「○○（題目）」 を明記。	提出枚数、縦書きと ともに、2000字以内。 （注、参考文献を含 む）	大学院事務室より 受け取った所定の表 紙に、研究科名、専 攻名、指導教員名、 学籍番号、氏名、論 文題目「○○（題目）」 を明記。
文化財 史科学専攻	提出枚数 400字語原稿用紙換算 30枚以上（本論のみ）	① 縦書きの場合 50字×16行 800字 ② 横書きの場合 40字×20行 800字	注：6月に提出した 「論文題目」を1文字 でも変更した場合は、 大学院事務室で「題 目変更届」を受け取 り、指導教員の承認 印を受けて提出する こと。なお、サプタ イトルを追加した場 合の「題目変更届」 提出は不要。	提出枚数、縦書きと ともに、3枚以内。 （注、参考文献を含 む）	提出枚数	必要があれば本文 の最後に注を付ける。
	提出枚数 25枚以上（図表込み）	横書き 32字×25行 800字		必要があれば本文 の最後に注を付ける。	提出枚数	必要があれば本文 の最後に注を付ける。
地理学専攻	提出枚数 専攻の定めによる	横書き 40字×30行 1,200字		提出枚数	提出枚数	用紙の綴り方は、 縦書きは右綴じ、横 書きは、左綴じ。
社会学専攻						

文学研究科

社会学研究科

【修士論文審査基準】

文学研究科

審査体制

本研究科は、学位の申請に対し、学位論文の受理の可否を決定し、指導教員（主査1名）及び論文に関連のある教員（副査2名）による審査委員会を設け、審査を行う。

ただし、修士の学位の審査委員会については、当該研究科委員会が認める場合には副査を1名とすることができる。

審査内容

国文学専攻

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述による審査を行う。

文化財史料学専攻・地理学専攻

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述又は筆記による審査を行う。

審査基準

国文学専攻

1. 課題設定の妥当性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ・資料・作品・例文などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論理構成の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：論文全体が的確な文章によって執筆されており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関する体裁が整っていること。

文化財史料学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや史資料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ・史資料・作品・例文などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。

5. 論文作成の能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。

地理学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料、地図などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。

社会学研究科

審査体制

本研究科は、修士の学位申請に対し、学位論文の受理の可否を決定し、指導教員（主査1名）及び論文に関連のある教員（副査2名）による審査委員会を設け、審査を行う。

審査内容

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述による審査を行う。

審査基準

社会学専攻

1. テーマの明確性・適切性：問題意識が明確で、課題設定が適切であること。
2. 先行研究のレビューと位置づけ：研究テーマについての先行研究が十分に理解され、検討されていること。そしてその研究動向の中での位置づけ、意義が明確であること。
3. 研究方法の適切性：研究目的に対し、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。
4. 論文構成：論文構成が的確で、当該専攻分野における学術論文の標準的な体裁に則ったものであること。
5. 論理の一貫性と論述の明解さ：論理展開に整合性、一貫性があること。表現や用語が論文にふさわしいレベルに達していること。
6. 倫理的配慮の適切性：研究方法や研究対象に対する倫理的配慮がなされていること。

【奈良大学大学院文学研究科博士学位取得のための ガイドライン〔課程博士〕】

博士の学位論文の提出要件

1. 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、学長が認めた場合に限り、博士後期課程に1年（3年から博士前期課程の標準修業年限の2年を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。
2. 学位論文の提出時において、専門学会誌ないし学術誌に3本以上の論文を既に発表しており、かつ、その中にレフェリー付きの学会誌への掲載を含むこと。

研究指導

標準修業年限（3年）内に学位論文を提出し、論文審査に合格のうえ学位を取得できるよう、次のように研究指導を行う。

1年次

指導教員の「特殊研究」を履修し、修士論文の補完しながら研究計画を見直し、「研究計画書」を提出する。また、先行研究の動向把握をするとともに、自らの研究課題を整理し、資料収集と分析を行う。年度内に研究ノートなど1～2本を学会誌等（奈良大学大学院研究年報を含む）で公表する。

2年次

1年次に続き指導教員の「特殊研究」を履修し、前年度の研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出する。資料収集・分析を本格化させるとともに、明らかにされた研究成果（論文1～2本を目安）を学会誌（奈良大学大学院研究年報を含む）や学会等で公表する。年度末には、研究の中間報告をする。

3年次

引き続き指導教員の「特殊研究」を履修し、博士論文の提出に向け研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出する。前期には、論文題目を提出し、博士論文作成に向けて所定の手続きを進めるとともに、調査・研究を進め、学会誌等での論文の公表（1～2本）を行う。後期には、博士学位請求論文を完成させ、所定の期間に提出し、最終審査となる公開発表（口述試問・公聴会）を行う。

博士論文審査の基準

博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すること示すと認められるものであり、本研究科の博士論文として、相応の質・量・内容・水準を備え、以下の点を満たすものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 先行研究の精査
- (4) 実証的分析・理論的分析
- (5) 論旨の統合性と一貫性
- (6) 形式的要件

博士論文提出の手続き

1. 論文題目の提出

「博士論文題目」の用紙（5月中旬配付）を大学院事務室より受け取り、指導教員の承認印を受けて、所定の期間中に大学院事務室に提出する。

※提出時間 8：30～16：30

2. 博士論文、論文要旨及び履歴書の提出

(1) 博士論文

大学院事務室で学位授与申請書を受け取り、指導教員の承認印を受け、正本1部、副本3部（複写可）、合計4部の博士論文を所定の期間中に大学院事務室へ提出する。

(2) 論文要旨

「論文要旨」の表紙を大学院事務室で受け取り、正本1部、副本3部（複写可）、合計4部の論文要旨を作成し、博士論文とあわせて大学院事務室に提出する。

(3) 履歴書

大学院事務室で履歴書の作成要領を受け取り、学歴・職歴・研究歴を詳細に記入して、博士論文とあわせて1部を大学院事務室に提出すること。

※提出時間 8：30～16：30

3. 用紙・書式・提出枚数・綴じ方

次ページの表を参照のうえ作成すること。

博士論文の公表

審査に合格した博士論文は、論文要旨を「奈良大学大学院研究年報」に掲載する。（本人の申し出があった場合は、論文要旨を書き改めることができる。ただし、体裁・枚数は同じものとする。）

博士論文は、大学のリポジトリにより公表するため、論文をデジタル媒体で提出する。ただし、論文を出版刊行する等を理由に「博士学位論文インターネット公表留保申請書」を提出し、留保が認められた場合には、論文の要約（8,000字程度）及びその内容をデータ媒体で提出する。

※3年を超えて在学し、且つ所定の単位を修得した者で、博士の学位論文の審査及び最終試験のみを残す者については、指導教員の了解を得た上で、所定の期日以外に下記日程での学位授与の申請が出来るものとする。

題目提出	: 4月8日～4月12日
学位授与申請（論文の提出）	: 5月22日～5月24日
論文審査（公聴会・口述試問）	: 8月29日もしくは8月30日
学位授与	: 9月30日

【博士論文・研究計画・論文要旨】＜用紙・書式・提出枚数・綴り方＞

※用紙は、コピー用紙可。

※論文提出時に添付する履歴書の作成については、別途指示する。

	用紙	書式	【博士論文】	【研究計画】		【論文要旨】	
			提出枚数 表紙、目次、注、 参考文献は含まない	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方
文化財史科学専攻	《史学系》 B5判 (縦書き、横書きは自由)	①縦書きの場合 40字×15行 600字	400字詰原稿用紙換算 200枚以上	6月の論文題目提出時 に提出	1月の論文提出時に提出	提出枚数	1月の論文提出時に提出
		②横書きの場合 30字×15行 450字					
文学研究科	《文化財系》 A4判 (縦書き、横書きは自由)	①縦書きの場合 50字×16行 800字 ②横書きの場合 40字×20行 800字					

【専修免許状の取得について】

1. 専修免許状の種類

本大学院で教員免許状を取得できる研究科・専攻及び免許状の種類・教科は、次の通りです。ただし、当該免許教科についての中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の所要資格を取得している者でなければなりません。

研究科	専攻	教育職員免許状の種類	教科
文学研究科	国文学	中学校教諭専修免許状	国語
		高等学校教諭専修免許状	
	文化財史料学	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史
	地理学	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史

2. 基礎資格・所要単位数

本大学院における専修免許状取得のための基礎資格及び教科及び教科の指導法に関する科目の所要単位数は、次の通りです。

教育職員免許状の種類	基礎資格	教科	教科及び教科の指導法に関する科目の最低単位数
中学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること	国語	24
高等学校教諭専修免許状		社会	
		国語 地理歴史	

3. 教科及び教科の指導法に関する科目の単位修得方法

次の一覧表に掲げる「教科及び教科の指導法に関する科目」の中から、既取得中学校・高等学校教諭一種免許状に係る専門科目の単位を、合計24単位以上修得しなければなりません。

(1) 「国語」の教科及び教科の指導法に関する科目

<国文学専攻>

授業科目名	単位	授業科目名	単位	履修上の注意事項
日本言語文化論	2	表象文化論	2	4単位以上※
広域言語文化論	2			
上代文学演習Ⅰ	2	近代文学演習Ⅰ	2	4単位以上※
上代文学演習Ⅱ	2	近代文学演習Ⅱ	2	
中古文学演習Ⅰ	2	現代文学演習Ⅰ	2	
中古文学演習Ⅱ	2	現代文学演習Ⅱ	2	
中世文学演習Ⅰ	2	古典語国語学演習Ⅰ	2	
中世文学演習Ⅱ	2	古典語国語学演習Ⅱ	2	
近世文学演習Ⅰ	2	現代語国語学演習Ⅰ	2	
近世文学演習Ⅱ	2	現代語国語学演習Ⅱ	2	
古典散文特殊講義(基礎)	2	近代文学論特殊講義(基礎)	2	8単位以上※
古典散文特殊講義(応用)	2	近代文学論特殊講義(応用)	2	
古典韻文特殊講義(基礎)	2	言語論特殊講義(基礎)	2	
古典韻文特殊講義(応用)	2	言語論特殊講義(応用)	2	

※は修了に必要な単位数

(2) 「社会」「地理歴史」の教科及び教科の指導法に関する科目

<文化財史科学専攻>

授業科目名	単位	履修上の注意事項	
文献史学(日本史)演習Ⅰ	2	4単位以上※	左記単位を含めて合計24単位以上
文献史学(日本史)演習Ⅱ	2		
文献史学(外国史)演習Ⅰ	2		
文献史学(外国史)演習Ⅱ	2		
考古学演習Ⅰ	2		
考古学演習Ⅱ	2		
美術工芸史学演習Ⅰ	2		
美術工芸史学演習Ⅱ	2		
保存修復学演習Ⅰ	2		
保存修復学演習Ⅱ	2		
文献史学(日本史)特殊講義A	2	16単位以上※	
文献史学(日本史)特殊講義B	2		
文献史学(日本史)特殊講義C	2		
文献史学(外国史)特殊講義	2		
考古学特殊講義A	2		
考古学特殊講義B	2		
考古学特殊講義C	2		
美術工芸史学特殊講義	2		
保存修復学特殊講義	2		

※は修了に必要な単位数

<地理学専攻>

授業科目名	単位	履修上の注意事項	
自然地理学演習Ⅰ	2	4単位以上※	左記単位を含めて合計24単位以上
自然地理学演習Ⅱ	2		
人文地理学演習Ⅰ	2		
人文地理学演習Ⅱ	2		
地域・地誌学演習Ⅰ	2		
地域・地誌学演習Ⅱ	2		
自然地理学(地形)特殊講義	2	2単位以上※	
自然地理学(気候)特殊講義	2		
自然地理学(環境)特殊講義	2		
人文地理学(農村)特殊講義	2	2単位以上※	
人文地理学(歴史)特殊講義	2		
人文地理学(文化)特殊講義	2		
人文地理学(都市)特殊講義	2		
地域・地誌学(日本)特殊講義	2	2単位以上※	
地域・地誌学(先進地域)特殊講義	2		
地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義	2		
地理情報学特殊講義	2		

※は修了に必要な単位数

【GIS専門学術士取得について】

1. 資格の性質

【GIS学術士】（見込み）、【GIS学術士】（学部卒）、【GIS専門学術士】（大学院修了）はGISに関する資格で、GIS学術士資格実績証明団体（奈良大学を含む認定された大学）において所定の資格認定科目を修得し、日本地理学会に申請すると認められます。ただし、GIS専門学術士は、GIS学術士の資格を有する者のみが申請できます。GIS学術士を取得し、大学院でGIS専門学術士の資格科目を修得した者が、日本地理学会に申請した場合に取得できる資格です。

詳しくは、日本地理学会資格専門委員会のWEBサイト <http://ajg-certi.jp/>を参照してください。

4月の地理学専攻オリエンテーションでも案内する予定です。

資格取得希望者は、遅くとも入学時の履修ガイダンスの際までに教員に申し出て、必要な科目について相談してください。

2. 申請手続き

資格取得希望者は、申請書に必要事項を記入し、単位修得・修士修了を証明する書類、修士論文と論文要旨を添えて、日本地理学会GIS学術士資格委員会へ申請をしてください。手数料（認定審査手数料）22,000円（税込）は郵便振替となります。 ※振込金受領書のコピーを申請書の裏面に貼付。

【払込先（郵便局）】

振替口座：00130-0-413143

加入者名：（社）日本地理学会GIS学術士資格委員会

* 払込金受領書の「ご依頼人」の欄に、住所、氏名（大学名・学籍番号）を記入してください。

【専門社会調査士取得について】

1. 資格の性質

専門社会調査士とは、「多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有する人材」（一般社団法人社会調査協会）に与えられる資格である。

専門社会調査士資格は、すでに社会調査士資格を取得した人を対象に、一般社団法人社会調査協会がこれを認定する。以下の科目の単位を修得し、社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆した上で、修士課程修了後に認定審査手数料33,000円を添えて申請する。

なお、社会調査士をまだ取得していない者が専門社会調査士資格を取得するには、奈良大学社会学部の科目等履修生として社会調査士の認定科目（奈良大学履修要項社会調査士の項参照）の中から必要な科目（A・B・C・Dは必修、E／Fは選択、Gは不要）を単位修得した上で、認定審査手数料44,000円を添えて申請しなければならない。他大学の社会調査士認定科目を聴講生等で単位修得した者も認められる。

2. 取得に必要な科目

標準カリキュラム	対応する本大学院の科目	科目区分
H. 調査企画・設計に関する演習（実習）科目	社会調査法特論	必修
I. 多変量解析に関する演習（実習）科目	多変量解析法特論	必修
J. 質的調査法に関する演習（実習）科目	質的調査法特論	必修

3. 申請手続き

資格取得希望者は、申請書・履歴書に必要事項を記入した上で、単位修得・修士修了を証明する書類、研究論文（2部）、研究論文概要説明書及び認定審査手数料を添えて、奈良大学大学院の連絡責任者に提出し、認定機構に申請する。なお、申請にあたっては、事前に指導教員ならびに連絡責任者（大学院事務室にて問い合わせること）と相談の上で準備をすすめることが望ましい。

【学 生 生 活】

1. 研究室の使用について

研究活動の一助として、研究室を設けています。使用に際しては、次の「注意事項」を遵守し、有効に活用してください。なお、貴重品は各自で管理してください。

注 意 事 項

1. 所属の研究室以外の実験室に無断で入室しないこと。
2. 他の院生に迷惑がかかる行為は慎むこと。特に大声での雑談は禁止する。
3. 整理整頓を心がけ、清潔を保持すること。
4. 研究室内のロッカー・机等は、丁寧に使用すること。ロッカーの鍵は、年度当初に大学院事務室より貸与する。（修了時に、返却すること。）
5. 添え付けのコンピュータは、独占することなく院生間で協議のうえ利用すること。
6. 備品は、許可なく移動及び設置してはならない。
7. その他、使用にあたっては大学院事務室の指示に従うこと。

2. 教員のオフィスアワーについて

専任の教員は、それぞれオフィスアワーを設定しています。各教員のオフィスアワーは、各年度の「教員プロフィール」にて確認してください。非常勤講師への質問や相談は、担当授業の前後の時間に行うようにしてください。

3. 複写機（大学院事務室）の使用について

講義時に配布する資料については、大学院事務室の複写機を利用することができます。なお、使用に際しては、次の「注意事項」を厳守してください。

注 意 事 項

1. 複写機の利用については、講義時配布資料（発表用レジュメ等）のみとします。
（個人の研究や、学術論文に関するものについては、福利厚生棟1階ラウンジに設置の複写機を利用すること）
2. 院生全体での年間利用可能枚数が決まっています。院生全員が平等に利用できるよう協力をお願いします。
3. 複写機の利用時間は、以下のとおりです。

平日	8：30～16：30
土曜日	8：30～12：15

4. 大学院図書・資料室の利用について

大学院図書・資料室は、総合研究棟の3階にあります。資料は、基本的に図書館でも配架しています。そのため、ここでは閲覧のみで室外への持ち出しはできません。

『COLLEGE LIFE』にも学生生活に関する規則等の詳細が記載されています。
併せて参照してください。

- 学籍について（在学期間など）
- 図書館の利用について（図書館紹介ページ参照）
- 情報処理センターについて
（奈良大学情報処理センタースタートアップガイド参照）

講 義 要 項

この『講義要項』には、本年度の開講科目について、科目名や担当教員名、授業のテーマや到達目標、授業概要、評価方法・基準及び履修上の注意事項等を掲載しています。ただしこの冊子の掲載内容は、全体的な内容ではなく、一部を抜粋した内容となっています。また、内容は、この冊子の印刷時点から更新される場合があります。最新の内容については必ずWeb上のシラバスで確認してください。

Webシラバスの使用方法は、入学時に配付するCampusPortal操作手引書を参照してください。

科目のナンバリングについて

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。本大学院の授業科目においても、授業内容・レベル等に応じて特定の記号や数字を付与し、各専攻の開講科目一覧表に示しています。履修の際の参考にしてください。なお、ナンバリングコードの構成は以下のとおりです。

◆ナンバリングコードの意味・名称



◆大分類

国文学専攻	JL	地理学専攻	GE
文化財史料学専攻	CH	社会学専攻	SO

◆中分類

	分類名称	記号		分類名称	記号		分類名称	記号
	国文学専攻	言語系		LT	文化財史料学専攻 博士前期課程		日本史系	JH
	古典系	CL		外国史系	WH		考古学	AR
	近代文学系	ML		文献史学	HD		美術史	AH
	文化表現系	CE		考古学	AR		史料学	HS
	学位論文	DT		美術史	AH		保存科学	PS
				史料学	HS		国際史料	IH
				保存科学	PS		学位論文	DT
				情報学	IS			
				文化財史料学	CA			
				学位論文	DT			
地理学専攻	自然地理学	PH	社会学専攻 社会文化研究コース	社会学	SO	社会学専攻 臨床心理学コース	発達心理	DP
	人文地理学	HG		文化人類学	SA		社会心理	SP
	地誌学	TS		情報学	SB		臨床心理	CP
	共通	CO		経済学	SC		医学	ME
	学位論文	DT		経営学	SD		統計学	SE
				社会調査法	SR		学位論文	DT
				社会心理学	SP			
				学位論文	DT			

◆レベル

500番台	大学院 (修士・博士前期) 専門科目 (基礎的な内容の科目)
600番台	大学院 (修士・博士前期) 専門科目 (発展的な内容の科目・研究指導科目)
700番台	大学院 (博士後期) 専門科目 (研究指導科目)

◆授業形態

講義	L	実践形式 (フィールドワーク・インターンシップ)	P
演習	S	研究指導	G
実習	T	その他	O

文学研究科

※各科目の担当者のうち、担当者名の前に★のついている担当者は、非常勤講師です。また、「聴講等可否」欄に▲印のついている科目については、担当者の許可が必要です。

国文学専攻修士課程

履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、次頁の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に次頁の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。
2. ①「日本語文化論」「広域言語文化論」「表象文化論」の3科目中2科目4単位を履修すること。
3. ②演習は、4科目8単位を履修すること。
研究指導は、指導教員が担当する演習において行うので、指導教員が担当する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必ず履修すること。
4. ③「特殊講義」は4科目8単位を履修すること。
5. ④「特論」（4科目8単位まで履修できるが、履修に際しては事前に指導教員と相談すること。）
6. 残りの6科目12単位は、①・②・③で選択した以外の科目及び④から履修すること。ただし、指導教員以外の演習は事前に担当教員の了解を得ること。文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる（2科目4単位まで）。なお、①・③の科目については、担当者の変更があれば同一科目を重複履修した場合も、単位を認定する。
7. 履修に際しては、修士論文提出要領（P14）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。
8. 教員免許状の「専修免許状」の取得希望者は、P21「専修免許状の取得について」を確認すること。

2024年度 国文学専攻 開講科目一覧表

曜日 時限	科目名	担当者 ★は非常勤講師	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項	
金・4 月・3 金・4	日本言語文化論 広域言語文化論 表象文化論	鈴木 喬 ★岸江 信介 木田 隆文	前期 後期 後期	1・2 1・2 1・2	2 2 2	○ ○ ○	JLLT-501L JLLT-502L JLCE-501L	① 2科目 4単位必修	
月・4 月・4 月・4 月・4 水・2 水・2 水・2 水・2 ※ ※ ※ ※	上代文学演習Ⅰ 上代文学演習Ⅱ 上代文学演習Ⅲ 上代文学演習Ⅳ 中古文学演習Ⅰ 中古文学演習Ⅱ 中古文学演習Ⅲ 中古文学演習Ⅳ 中世文学演習Ⅰ 中世文学演習Ⅱ 中世文学演習Ⅲ 中世文学演習Ⅳ	鈴木 喬 鈴木 喬 鈴木 喬 鈴木 喬 穴井 潤 穴井 潤 穴井 潤 穴井 潤 — — — —	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 — — — —	1・2 1・2 2 2 1・2 1・2 2 2 1・2 1・2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ — — — —	JLCL-510S JLCL-511S JLCL-601S JLCL-602S JLCL-512S JLCL-513S JLCL-603S JLCL-604S JLCL-514S JLCL-515S JLCL-605S JLCL-606S		② 4科目 8単位必修
金・2 金・2 金・2 金・2 火・5 火・5 火・5 火・5 火・5 火・5 火・5 水・2 水・2 水・2 水・2 水・3 水・3 水・3 水・3	近世文学演習Ⅰ 近世文学演習Ⅱ 近世文学演習Ⅲ 近世文学演習Ⅳ 近代文学演習Ⅰ 近代文学演習Ⅱ 近代文学演習Ⅲ 近代文学演習Ⅳ 現代文学演習Ⅰ 現代文学演習Ⅱ 現代文学演習Ⅲ 現代文学演習Ⅳ 古典語国語学演習Ⅰ 古典語国語学演習Ⅱ 古典語国語学演習Ⅲ 古典語国語学演習Ⅳ 現代語国語学演習Ⅰ 現代語国語学演習Ⅱ 現代語国語学演習Ⅲ 現代語国語学演習Ⅳ	中尾 和昇 中尾 和昇 中尾 和昇 中尾 和昇 光石亜由美 光石亜由美 光石亜由美 光石亜由美 木田 隆文 木田 隆文 木田 隆文 木田 隆文 山田 昇平 山田 昇平 山田 昇平 山田 昇平 ★岸江 信介 ★岸江 信介 ★岸江 信介 ★岸江 信介	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	1・2 1・2 2 2 1・2 1・2 2 2 1・2 1・2 2 2 1・2 1・2 2 2 1・2 1・2 2 2 1・2 1・2	2 2	▲ ▲	JLCL-516S JLCL-517S JLCL-607S JLCL-608S JLML-506S JLML-507S JLML-601S JLML-602S JLML-508S JLML-509S JLML-603S JLML-604S JLLT-508S JLLT-509S JLLT-601S JLLT-602S JLLT-510S JLLT-511S JLLT-603S JLLT-604S		
水・4 水・4 月・1 月・1 月・2 月・2 金・3 金・3	古典散文特殊講義(基礎) 古典散文特殊講義(応用) 古典韻文特殊講義(基礎) 古典韻文特殊講義(応用) 近代文学論特殊講義(基礎) 近代文学論特殊講義(応用) 言語論特殊講義(基礎) 言語論特殊講義(応用)	中尾 和昇 中尾 和昇 穴井 潤 穴井 潤 光石亜由美 光石亜由美 山田 昇平 山田 昇平	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	2 2 2 2 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	JLCL-506L JLCL-507L JLCL-508L JLCL-509L JLML-504L JLML-505L JLLT-506L JLLT-507L		
月・3 金・4 月・3 水・1 火・3 月・3 金・3 火・3 水・1 水・2 金・3 金・4 月・4 月・3 月・3 月・3 集中	上代文学特論 中古文学特論 中世文学特論 近世文学特論 書物特論 メディア文化特論 比較交流特論 和歌歌謡特論 近代小説特論 近代詩歌特論 現代文学特論 古典日本語特論 現代日本語特論 国文学特論 国語学特論 学位論文	鈴木 喬 ★溝端 悠朗 穴井 潤 中尾 和昇 ★安藤 友里 木田 隆文 ★金岡 直子 ★北井 佑実子 光石亜由美 ★二木 晴美 ★金岡 直子 山田 昇平 ★岸江 信介 ★高木 彬 ★岸江 信介 共 同	前期 前期 後期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 前期 前期 後期 前期 前期	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	JLCL-501L JLCL-502L JLCL-503L JLCL-504L JLCE-502L JLCE-503L JLCE-504L JLCL-505L JLML-501L JLML-502L JLML-503L JLLT-503L JLLT-504L JLCE-505L JLLT-505L JLDT-601G	④ 4科目 8単位まで 履修可	

【注】

※本年度開講せず

【注】①②③④の中から6科目12単位選択履修すること。ただし、2科目4単位については、文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる。

科目名	日本語文化論		期間	前期	
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	万葉集の長歌をよむ。				
到達目標	①文学史的展開の諸相を把握し、自らの研究課題に沿って応用できる。②古辞書を用いつつ、訓詁註釈をおこなえるようになる。③万葉歌について、理解することができる。				
授業概要	「文芸学」「民俗学」「文献学」など、さまざまな学史や研究方法を通じ、万葉集の長歌をよむ。具体的には巻13・16の訓詁註釈を行う。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（作品の読解力・問題点の独自性を総合的に評価する）、レポート30%（論理性、分析力を評価する）				
履修上の注意事項等	コメントシートおよびGoogleformを適宜使い、授業内容に反映していく。また受講者全員の課題として考えていく。レポートは適宜フィードバックする。最初の授業は必ず出席すること。当該科目に関係する諸事項について、つねに関心を持ち、自分なりの視点でものが考えられるように努力してほしい。				
テキスト	万葉集講義 一最古の歌集の素顔一 上野誠 中央公論新社 2020年 萬葉集 訳文篇 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之 塙書房 1972年 978-4827300222				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	広域言語文化論		期間	後期	
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	関西弁を学ぶ				
到達目標	関西弁をさまざまな角度から取り上げ、その特色について学ぶ。関西弁でキーワードとなる用語についてその内容を掘り下げて考えるとともに関西弁の実態を知る。				
授業概要	関西弁として知られている関西各地の方言を取り上げながら関西弁を多方面から学ぶ。京都・大阪のことばの違いをはじめ、関西各地の方言について知る。関西弁のキーワードを『関西弁事典』をもとに探りながら理解を深める。				
評価方法・基準	平常点30点（講義中の質問など、授業に対する積極的な態度、コメントシートの内容を重視）、学習到達度確認70%（小テストやレポートなど）を規準とする。				
履修上の注意事項等	期間内にレポートを課し、期間内に公表する。学習到達度確認の答えはGoogle Classroomを通じ、コメントを添えて返却する。基本的に毎回、資料を配付する。なお、テキストとは別に論文を提示する予定である。				
テキスト	関西弁事典 真田信治監修 ひつじ書房 2018 978-4894768482 地図で学ぶ関西のことば 岸江信介・中井精一編 昭和堂 2022 978-4812221167				
参考書	方言文法全国地図 https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-pdf_index.html 国立国語研究所のホームページ 日本語地図 https://mmsrv.ninjal.ac.jp/laj_map/ 国立国語研究所のホームページ				

科目名	表象文化論		期間	後期	
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	南へのまなざし—日本の南洋幻想				
到達目標	(1) 文学を隣接する表象分野とのかかわりから考えることができる。 (2) 日本と南洋の歴史的関係性を知ることができる。 (3) 外地の文芸文化の研究方法の一端を学ぶことができる。				
授業概要	本講義は、昭和期を中心とする日本の美術・文学などから南洋をめぐる表現を取り上げ、日本人が抱いた南洋イメージを確認するものである。進め方としては、まず日本と南洋の歴史的関係を概説し、その後、美術や文学作品の実例を確認しながら、日本人がいかに南洋を表現／認識したのかを検討してゆく。また各回ともテーマとなる美術作品や小説に対して受講生から意見を求め、その後意見に基づく議論や補足説明を行うかたちで進めてゆく。				
評価方法・基準	平常(20%) 小課題(20%) 期末レポート(60%)の総合評価。レポート・小課題は独創的な視点があるもの、精密な資料調査を踏まえたものを高く評価する。				
履修上の注意事項等	課題・レポートについてはコメントを付し返却する。最初の講義(ガイダンス)で配布される要項を熟読すること。国文学専攻以外の受講希望者は、必ず登録前に履修相談に来ること。				
テキスト	プリント配布				
参考書	随時指示する				

科目名	上代文学演習Ⅰ		期間	前期	
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『万葉集』の基礎的知識を前提のもと、「東歌」を読む。歌ことばの表現性と東歌の特異性を読み解く。				
到達目標	万葉集の東歌を理解することができる。万葉歌表現の特性を見出す力を身につけ、注釈作業の具体的な方法を学び、諸注を批判的に検証しながら、新見を導き出す方法を身につけることができる。				
授業概要	万葉集研究の基礎知識や方法(索引の使い方、研究方法)を学び、「東歌」の表現の特性とは何かを考えてゆく。そのために、ただ歌を鑑賞するのではなく、一首一首、一語一語、一文字一文字、丁寧に注釈を行い、他の歌の比較や、また歌表現としての位置づけ(抽象化)を行う。また作品は作品だけで成立しているものではない。歴史的、社会的背景をもっている。				
評価方法・基準	平常点20%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。発表40%（レジュメの内容、課題に対する取り組み）。レポート40%（問題発見と問題解決への取り組み）。				
履修上の注意事項等	発表内容については、その場で講評し、重要な質疑については授業内容に展開してゆく。レポートは、添削の上オフィスアワー等で返却する。初回は必ず出席すること。また発表者は、発表日を守り、責任をもって発表に臨むこと。				
テキスト	万葉集 訳文篇 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著 塙書房 1972年				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	上代文学演習Ⅱ		期間	後期	
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『万葉集』の基礎的知識を前提のもと、巻15を読解し、その作品世界を読み解く。				
到達目標	万葉集の構造論、作品論を通じて理解することができる。万葉歌表現の特性を見出す力を身につけ、注釈作業の具体的な方法を学び、諸注を批判的に検証しながら、新見を導き出す方法を身につけることができる。				
授業概要	万葉集研究の基礎知識や方法(索引の使い方、どのような研究方法があるのか)を学び、歌表現の特性とは何かを考えてゆく。ただ歌を鑑賞するのではなく、一首一首、一語一語、一文字一文字、丁寧に注釈を行い、他の歌の比較や、また歌表現としての位置づけ(抽象化)を行う。また作品は作品だけで成立しているものではない。歴史的、社会的背景をもっている。社会背景や、具体的な事象を踏まえながら、前期で学習した内容をもとに読み解く。				
評価方法・基準	平常点20%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。発表40%(レジュメの内容、課題に対する取り組み)。レポート40%(問題発見と問題解決への取り組み)。				
履修上の注意事項等	発表内容については、その場で講評し、重要な質疑については授業内容に展開してゆく。レポートは、添削の上オフィスアワー等で返却する。初回は必ず出席すること。また発表者は、発表日を守り、責任をもって発表に臨むこと。				
テキスト	万葉集 訳文篇 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著 塙書房 1972年				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	上代文学演習Ⅲ		期間	前期	
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	2
テーマ	上代文学について自分の関心にそって問題点を見つけ、考察し、卒業論文を作成する。				
到達目標	修士論文を作成するとともに、研究課題を発見し、答えを論理的に導出する力を養う。論文を批判的によむ力を養う。修士論文作成のために研究方法の総括を行ない、その研究方法を実践するための応用力を身につける。				
授業概要	各自の選んだテーマや研究の方法論に従いながら個人で発表を行い、修士論文を作成していく。前期においては修士論文の柱となるテーマや研究課題を見つけることを目的とする。後期からはより絞り込んだテーマ設定で発表を行い、修士論文の執筆を進めていく。個別指導において、各自のテーマに必要な指導を行う。また他者の発表を聞くことにより、他者の研究「問い」と「答え」の導出)を観察し、自身の研究テーマに還元する。				
評価方法・基準	平常点30%(授業中の質疑応答による積極性)。発表70%(問題発見と問題解決への取り組み、発表に対する取り組み、等)。				
履修上の注意事項等	発表やその後の質疑応答についてはその場で講評する。また発表・執筆に関する相談は適宜応じる。具体的な注意点は適宜提示する。4年間の成果であることを意識し、こまめに研究室を訪ねること。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	上代文学演習Ⅳ		期間	後期	
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	2
テーマ	身につけた研究の基礎知識、考察力を駆使し、学術論文、修士論文を作成する。				
到達目標	修士論文を作成するとともに、研究課題を発見し、答えを論理的に導出する力を養う。修士論文作成のために研究方法の総括を行ない、その研究方法を実践するための応用力を身につける。				
授業概要	各自の選んだテーマや研究の方法論に従いながら個人で発表を行い、修士論文を作成していく。前期においては修士論文の柱となるテーマや研究課題を見つけることを目的とする。後期からはより絞り込んだテーマ設定で発表を行い、修士論文の執筆を進めていく。個別指導において、各自のテーマに必要な指導を行う。また他者の発表を聞くことにより、他者の研究「問い」と「答え」の導出)を観察し、自身の研究テーマに還元する。				
評価方法・基準	平常点30%(授業中の質疑応答による積極性)。発表70%(問題発見と問題解決への取り組み、発表に対する取り組み、等)。				
履修上の注意事項等	発表やその後の質疑応答についてはその場で講評する。また発表・執筆に関する相談は適宜応じる。具体的な注意点は適宜提示する。4年間の成果であることを意識し、こまめに研究室を訪ねること。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	中古文学演習Ⅰ		期間	前期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	修士論文執筆のための準備① 古典文学研究方法を理解する				
到達目標	具体的な作品を通して、文学研究の方法を理解することができる。特に先行研究の調査、工具書の利用法、伝本の把握など、古典文学研究に必要な手続きを理解できる。				
授業概要	藤原清輔『奥義抄』を題材に、古典文学の研究方法を学ぶ。毎回、授業内で調査ないし読解を行う。読解の回では『奥義抄』釈部における三代集の注を扱う。自分が修士論文で扱いたい作品について、どのように応用できるかを考えながら授業に臨むこと。				
評価方法・基準	各回の小課題を含めた授業態度(40%)、レポート課題の内容(60%)によって判断する。				
履修上の注意事項等	授業前に文献を読んできてもらうか、事前に図書館で調査をしてきてもらう。それについて授業内で解説する。後半の読解回では、授業中に考察する時間を確保し、その内容についてディスカッションする。授業前ないし授業中に必ず課題を出す。また、各種の工具書の利用法についても説明する。レポートの調査に必須の知識となるので、よく復習すること。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	中古文学演習Ⅱ		期間	後期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	修士論文執筆のための準備② 全体の構想と先行研究の整理				
到達目標	修士論文の構成を固め、目次を作成できる。対象の作品に関する先行研究を網羅し、必要な論点を抽出できる。				
授業概要	この授業では修士論文の目次案を完成させることを第一目標としている。そのため、授業では大きく分けて①対象作品の分析、②先行研究の整理、③全体の構想の三点について、参加者に発表を行ってもらおう。その際、適宜修正点を指摘するので、再調査や分析を深めることを授業時間外に行う必要がある。対象作品の先行研究を網羅し、必要な論の要点を整理するところまで到達してほしい。				
評価方法・基準	三回の発表を中心とした授業参加度（75%）、第14回の目次案・先行研究の整理の内容（25%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	発表内容については授業内で講評し、資料作成・再調査に関する相談は研究室等で適宜受け付ける。具体的な研究方法や工具書の利用法については中古文学演習Ⅰで扱っているため、その知識を前提とした指導を行う。極力休まず出席すること、特に発表担当回は理由なく欠席した場合は評価対象外となる可能性がある。				
テキスト	なし				
参考書	対象作品によって適宜紹介する				

科目名	中古文学演習Ⅲ		期間	前期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の執筆① 第一章の完成と目次案の再検討				
到達目標	自分の研究テーマを確立し、執筆を始めることができる。論を立てるために必要なデータ・資料を収集できる。状況に応じて構想を修正できる。				
授業概要	この授業では修士論文執筆を開始し、第一章を完成させることを目標としている。中古文学演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえ、自分の研究テーマを確定した上で対象作品を分析し、論を立てる作業に移る。具体的なテーマは受講者によって異なるが、データや資料の収集が中心となることを想定している。その結果として、全体の構想について検討の必要があれば、前期のうちに修正する。骨組みの部分完成させて、後期は「執筆→修正」のサイクルに入れるようにしたい。				
評価方法・基準	第一章を中心とした発表内容（75%）、作業の状況報告を中心とした授業参加度（25%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	発表内容については授業内で講評し、資料作成・再調査に関する相談は研究室等で適宜受け付ける。具体的な研究方法や工具書の利用法については中古文学演習Ⅰ・Ⅱで扱っているため、その知識を前提とした指導を行う。極力休まず出席すること、特に発表担当回は理由なく欠席した場合は評価対象外となる可能性がある。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	中古文学演習Ⅳ		期間	後期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の執筆② 修士論文の完成				
到達目標	自説と先行研究との差異について論理的に説明できる。計画的に執筆を行い、規定の期間内に修士論文を提出することができる。				
授業概要	この授業では修士論文を完成させることを目標としている。進捗は受講者によって異なるが、夏期休業中までに基礎的なデータや資料の収集は終了していることを想定している。「執筆→修正」のサイクルに入り、適宜再調査を行うことで、計画的に執筆してほしい。内容だけでなく、注・参考文献・体裁といった点にも注意すること。				
評価方法・基準	第一章を中心とした発表内容（75%）、作業の状況報告を中心とした授業参加度（25%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	発表内容については授業内で講評し、資料作成・再調査に関する相談は研究室等で適宜受け付ける。具体的な論文執筆の取り組み方については中古文学演習Ⅲで扱っているため、その知識を前提とした指導を行う。極力休まず出席すること、特に発表担当回は理由なく欠席した場合は評価対象外となる可能性がある。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	近世文学演習Ⅰ		期間	前期	
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	近世文学に関する修士論文作成のための演習 準備編Ⅰ				
到達目標	①自身の研究分野および作者・作品を確定させる。②作品・資料を正しく理解する。③作品・資料の問題点を抽出する。				
授業概要	近世文学に関する修士論文作成の準備として、まずは研究分野および作者・作品を確定させる。そのうえで、作品・資料を徹底的に精読し、文体・構成・典拠等の観点から問題点を見出す。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（資料の完成度・作品の読解力・指摘した点の独自性を評価する）、レポート40%（精確性・客観性・論理性・独自性）を評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表に関しては、担当教員がその場でコメントし、課題を与える。レポートに関しては、添削した後に個別に指導をおこなう。近世文学はこれまでの古典文学の集積地である。近世以前（上代・中古・中世）の文学作品についても、おおよその内容を理解しておくことが肝要である。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	近世文学演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	近世文学に関する修士論文作成のための演習 準備編Ⅱ				
到達目標	①自身の研究テーマを確定させる。②作品・資料を正しく理解する。③先行研究を客観的に分析する。				
授業概要	自身が研究対象とする作品を取り上げながら、研究テーマの確定および研究能力の修養を目指す。具体的には、前期で見出した作品の問題点と先行研究と突き合わせつつ、独自の視点を獲得する。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（資料の完成度・先行研究の客観的な分析を評価する）、レポート40%（精確性・客観性・論理性・独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	授業中の発表に関しては、担当教員がその場でコメントし、課題を与える。レポートに関しては、添削した後に個別に指導をおこなう。近世文学はこれまでの古典文学の集積地である。近世以前（上代・中古・中世）の文学作品についても、おおよその内容を理解しておくことが肝要である。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	近世文学演習Ⅲ			期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	2
テーマ	近世文学に関する修士論文作成のための演習 作成編Ⅰ				
到達目標	①修士論文の全体構成を確定させる。②修士論文の序論・第1章・第2章を完成させる。				
授業概要	近世文学に関する修士論文の全体構成（目次）を確定させるとともに、序論から第2章までを完成させる。具体的には、研究テーマをもとに問題提起をおこない、論証すべき事柄を立てる（章立て）。そのうえで、各章において具体的な論証をすすめていく。				
評価方法・基準	平常点70%（論文執筆に対する取り組み方を評価する）、構想発表30%（テーマ設定・論旨・論証方法の妥当性を評価する）。				
履修上の注意事項等	構想発表・個人指導などの場を通して、教員が適宜コメントをし、修士論文完成に向けての課題を与える。高い水準の研究論文を作成するためには、作品・資料・先行研究と真摯に向き合うことが求められる。また、指導教員の指示を待つのではなく、自身の考えのもとに能動的に進めていくことが肝要である。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	近世文学演習Ⅳ			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	2
テーマ	近世文学に関する修士論文作成のための演習 作成編Ⅱ				
到達目標	①修士論文の第3章・結論を完成させる。②口述試問における質疑応答の技術を習得する。				
授業概要	近世文学に関する修士論文の第3章・結論を執筆し、完成させる。完成後は口述試問に向けた対策として、質疑応答の技術を習得する。				
評価方法・基準	平常点80%（論文執筆に対する取り組み方を評価する）、修士論文発表20%（テーマ設定・論旨・論証方法・結論の妥当性を評価する）。				
履修上の注意事項等	構想発表・個人指導などの場を通して、教員が適宜コメントをし、修士論文完成に向けての課題を与える。高い水準の研究論文を作成するためには、作品・資料・先行研究と真摯に向き合うことが求められる。また、指導教員の指示を待つのではなく、自身の考えのもとに能動的に進めていくことが肝要である。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	近代文学演習Ⅰ			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本近代文学を中心とする修士論文作成のための演習				
到達目標	1. 設定したテーマについて、先行研究や参考資料を調査する。 2. 修士論文作成のための文献リストを作成し、先行論文の要約を作成する。 3. 論文作成の基礎的な知識を獲得する。				
授業概要	・報告会による発表、個人指導を通じて、修士論文を作成するための基礎作業を行う。 ・履修者の自主的なテーマに従って、文献の検索方法、調査方法、論文の構成、論文の書き方など基本的な指導を行う。				
評価方法・基準	発表会への参加 40%（発表レジュメを作成し、プレゼンテーション、質疑応答をする。発表レジュメの充実度、プレゼンテーション・質疑応答の態度で総合的に評価する）、レポート点 60%（発表レジュメを文章化したものを4回提出。論理性、独創性を中心に、文章能力を評価する）				
履修上の注意事項等	発表に関しては、報告会の場でコメントする。またレポートに関しては、授業後に添削して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	近代文学演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本近代文学を中心とする修士論文作成のための演習				
到達目標	1. 設定したテーマについて、論文の構想を作成する。 2. 論文作成の基本的な技術をマスターする。 3. 修士論文の構想をまとめる。				
授業概要	・報告会による発表、個人指導を通じて、修士論文を完成させる。 ・履修者の自主的なテーマに従って、文献の検索方法、調査方法、論文の構成、論文の書き方など基本的な指導を行う。				
評価方法・基準	発表会への参加 40% (発表レジュメを作成し、プレゼンテーション、質疑応答をする。発表レジュメの充実度、プレゼンテーション・質疑応答の態度で総合的に評価する)、レポート点 60% (発表レジュメを文章化したものを4回提出。論理性、独創性を中心に、文章能力を評価する)				
履修上の注意事項等	報告発表についてはそのつど授業内にコメントする。まだ、小レポートについては、次回の授業以降にコメントをつけたうえ、返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	近代文学演習Ⅲ			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本近代文学を中心とする修士論文作成のための演習				
到達目標	設定したテーマについて、修士論文の序論と本論1、2章を完成する。				
授業概要	・報告会による発表、個人指導を通じて、修士論文を完成させる。 ・履修者の自主的なテーマに従って、目次の立て方、論文の書き方など基本的な指導を行う。				
評価方法・基準	発表会への参加 40% (発表レジュメを作成し、プレゼンテーション、質疑応答をする。発表レジュメの充実度、プレゼンテーション・質疑応答の態度で総合的に評価する)、レポート点 60% (発表レジュメを文章化したものを4回提出。論理性、独創性を中心に、文章能力を評価する)				
履修上の注意事項等	発表に関しては、報告会の場でコメントする。またレポートに関しては、授業後に添削して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	近代文学演習Ⅳ			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本近代文学を中心とする修士論文作成のための演習				
到達目標	1. 設定したテーマについて、修士論文の本論3章と結論を完成する。 2. 口頭試問にむけて質疑応答の方法をマスターする。				
授業概要	・報告会による発表、個人指導を通じて、修士論文を完成させる。 ・履修者の自主的なテーマに従って、修士論文を完成させるための指導を行う。				
評価方法・基準	発表会への参加 40% (発表レジュメを作成し、プレゼンテーション、質疑応答をする。発表レジュメの充実度、プレゼンテーション・質疑応答の態度で総合的に評価する)、レポート点 60% (発表レジュメを文章化したものを4回提出。論理性、独創性を中心に、文章能力を評価する)				
履修上の注意事項等	報告発表についてはそのつど授業内にコメントする。まだ、小レポートについては、次回の授業以降にコメントをつけたうえ、返却する。"				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	現代文学演習Ⅰ			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	研究課題の模索と基礎調査の完成1 ― 修士論文を見据えて				
到達目標	(1) 自己の研究テーマの確定・深化を行うことができる。 (2) 研究文献・資料の整備を行うことができる。 (3) 多様な文献を読むことで、広範な研究的視点を養うことができる。				
授業概要	本講義では、受講生個人が修士課程で研究するテーマの確定と、それを深化させるための多様な研究的視点の獲得を目指す。そのため、特定の作家・テキストを取り上げることはせず、個々の受講生の関心に即したものを取り上げる。 進め方は、まず受講生個々が構想している研究テーマと現在までの到達度を報告し、その研究的可能性をディスカッションで深める。その後、文献リストの作成や基礎的な研究情報の整備を行い、修士論文作成の基礎固めを行うこととしたい。				
評価方法・基準	講義内課題、発表報告、平常態度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	提出課題についてはコメントを付して返却し、また個々に口頭で指導を行う場合もある。また返却を受けたものは各自修正・再提出を行い、論文の書き方やルールを徹底的に身に付けてゆく。発表はその場で講評する。				
テキスト	適宜指示する				
参考書	適宜指示する				

科目名	現代文学演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	研究課題の模索と基礎調査の完成2 ― 修士論文を見据えて				
到達目標	(1) 自己の研究テーマの確定・深化を行うことができる。 (2) 研究文献・資料の整備を行うことができる。 (3) 多様な文献を読むことで、広範な研究的視点を養うことができる。				
授業概要	本講義は、現代文学演習Ⅰで確定した受講生個々の研究課題をさらに深め、同時に多様な研究文献を読み進めることで、広範な研究的視点の獲得を目指す。そのため、特定の作家・テキストを取り上げることはせず、個々の受講生の関心に即したものを取り上げる。 講義ではまず受講生個々の研究課題に応じた論文や関連文献を読み進め、研究上の問題点の克服や新たな視点の獲得を目指す。また論文の構成(目次)を考えることで、修士論文の具体的なイメージの把握と、次年度の研究の基礎固めを行いたい。				
評価方法・基準	講義内課題、発表報告、平常態度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	提出課題についてはコメントを付して返却し、また個々に口頭で指導を行う場合もある。また返却を受けたものは各自修正・再提出を行い、論文の書き方やルールを徹底的に身に付けてゆく。発表はその場で講評する。				
テキスト	適宜指示する				
参考書	適宜指示する				

科目名	現代文学演習Ⅲ			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	2
テーマ	近現代文学およびその隣接領域にかかわる修士論文の作成				
到達目標	(1) 修士論文作成に必要な資料収集を徹底する。 (2) 先行研究・研究史の整理・批判を行う。 (3) これまでの水準を乗り越える視点を持った修士論文の完成を目指す。				
授業概要	講義時の報告および個別指導を交え、修士論文のテーマを練り上げてゆく。				
評価方法・基準	修士論文の内容および、完成までの研究的態度を総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	提出課題についてはコメントを付して返却する。また個別指導の際にも口頭でコメントをつける。 現状報告をこまめに行うこと。				
テキスト	なし				
参考書	適宜指示する				

科目名	現代文学演習Ⅳ			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	2
テーマ	近現代文学およびその隣接領域にかかわる修士論文の作成				
到達目標	(1) 修士論文作成に必要な資料収集を徹底する。 (2) 先行研究・研究史の整理・批判を行う。 (3) これまでの水準を乗り越える視点を持った修士論文の完成を目指す。				
授業概要	講義時の報告および個別指導を交え、修士論文のテーマを練り上げ、完成させる。				
評価方法・基準	修士論文の内容および、完成までの研究的態度を総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	提出原稿についてはコメントを付し、個別指導において口頭で細部の説明を行う。 現状報告をこまめに行うこと。				
テキスト	なし				
参考書	適宜指示する				

科目名	古典語国語学演習Ⅰ			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	修士論文のテーマ構想				
到達目標	・修士論文のテーマを考える ・研究テーマの考え方について学ぶ				
授業概要	修士論文作成を見据え、具体的なテーマや方向性を考える。また、この作業を通して、研究テーマを考える方法を学ぶ。				
評価方法・基準	・各回の発表 60% (内容の理解度、資料のわかりやすさ) ・各回の議論 40% (的確で生産的な議論が出来ているか)				
履修上の注意事項等	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。 進行度合いはこまめに報告すること				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	古典語国語学演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	修士論文執筆の基礎力の構築				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文のテーマに関する知識を深める ・調査・考察の方法に習熟する 				
授業概要	修士論文作成を見据え、テーマに関する知識を深める。また、この作業とともに、実際の調査や考察の方法について深く理解する。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の発表 60% (内容の理解度、資料のわかりやすさ) ・各回の議論 40% (的確で生産的な議論が出来ているか) 				
履修上の注意事項等	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。 進行度合いはこまめに報告すること				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	古典語国語学演習Ⅲ			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の執筆				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の執筆計画を立てる ・修士論文の執筆を行う 				
授業概要	自ら設定した研究テーマに基づき、具体的な研究計画を立て、実践する。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の発表 60% (内容の理解度、資料のわかりやすさ) ・各回の議論 40% (的確で生産的な議論が出来ているか) 				
履修上の注意事項等	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。 進行度合いはこまめに報告すること				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	古典語国語学演習Ⅳ			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の執筆				
到達目標	修士論文を執筆し、提出する				
授業概要	自ら執筆したテーマに基づいて、修士論文を執筆する。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の発表 60% (内容の理解度、資料のわかりやすさ) ・各回の議論 40% (的確で生産的な議論が出来ているか) 				
履修上の注意事項等	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。 進行度合いはこまめに報告すること				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	現代語国語学演習Ⅰ			期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	「国語学」領域の修士論文作成指導				
到達目標	各受講生が各自の興味にもとづき、追求してみたいテーマを見出す。決定後、テーマに関連した先行研究を読む。同時に研究テーマに必要な分析の方法や技術を習得し、修士論文着手にむけて準備を始める。				
授業概要	現代日本語・方言に関する分野のテーマ設定を歓迎し、各自の自由な発想を尊重する。先行論文を徹底して収集し、できるだけ多くの文献資料に目を通す。研究テーマを設定し、関連分野のデータ資料を収集するための方法を練り、予備調査を実施する。データの整理方法について文字化、グラフ化、地図化など、いろいろなアウトプットに応じて学ぶことができる。				
評価方法・基準	平常点 30 点 (修士論文のとりくみに対する積極的な態度を重視)、レポート点 50 点、中間発表点 20 点。				
履修上の注意事項等	毎回の授業において口頭発表、提出物など全体のコメントをする。各受講生のレポートはオフィスアワーに研究室にて返却する。 調査は、夏期休業中に集中して行えるよう、計画を立てるのが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	現代語国語学演習Ⅱ	期間	後期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	「国語学」領域の修士論文作成指導		
到達目標	各受講生が各自の興味にもとづき、追求してみたいテーマを見出す。決定後、テーマに関連した先行研究を読む。同時に研究テーマに必要な分析の方法や技術を習得し、修士論文着手にむけて準備を始める。		
授業概要	現代日本語・方言に関する分野のテーマ設定を歓迎し、各自の自由な発想を尊重する。先行論文を徹底して収集し、できるだけ多くの文献資料に目を通す。研究テーマを設定し、関連分野のデータ資料を収集するための方法を練り、予備調査を実施する。データの整理方法について文字化、グラフ化、地図化など、いろいろなアウトプットに応じて学ぶことができる。		
評価方法・基準	平常点30点（修士論文のとりくみに対する積極的な態度を重視）、レポート点50点、中間発表点20点。		
履修上の注意事項等	毎回の授業において口頭発表、提出物など全体のコメントをする。各受講生のレポートはオフィスアワーに研究室にて返却する。適宜、授業で指示する。		
テキスト	なし		
参考書	なし		

科目名	現代語国語学演習Ⅲ	期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	「国語学」領域の修士論文作成指導		
到達目標	受講生自らが設定した各テーマにもとづき、調査法や分析に必要な技術、研究方法を学ぶ。分析・記述の仕方等を教授し、論文を完成させる。		
授業概要	現代日本語・方言に関する分野のテーマ設定を歓迎し、各自の自由な発想を尊重する。先行論文を徹底して収集し、できるだけ多くの文献資料に目を通す。研究テーマを設定し、関連分野のデータ資料を収集するための方法を練り、予備調査を実施する。データの整理方法について文字化、グラフ化、地図化など、いろいろなアウトプットに応じた技術を学ぶ。		
評価方法・基準	平常点30点（修士論文のとりくみに対する積極的な態度を重視）、レポート点50点、中間発表点20点。		
履修上の注意事項等	毎回の授業において口頭発表、提出物など全体のコメントをする。各受講生のレポートはオフィスアワーに研究室にて返却する。適宜、授業で指示する。		
テキスト	なし		
参考書	なし		

科目名	現代語国語学演習Ⅳ	期間	後期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	「国語学」領域の修士論文作成指導		
到達目標	受講生自らが設定した各テーマにもとづき、調査法や分析に必要な技術、研究方法を学ぶ。分析・記述の仕方等を教授し、論文を完成させる。		
授業概要	現代日本語・方言に関する分野のテーマ設定を歓迎し、各自の自由な発想を尊重する。先行論文を徹底して収集し、できるだけ多くの文献資料に目を通す。研究テーマを設定し、関連分野のデータ資料を収集するための方法を練り、予備調査を実施する。データの整理方法について文字化、グラフ化、地図化など、いろいろなアウトプットに応じて学ぶことができる。		
評価方法・基準	平常点30点（修士論文のとりくみに対する積極的な態度を重視）、レポート点50点、中間発表点20点。		
履修上の注意事項等	毎回の授業においてコメントする。レポートはオフィスアワーに研究室にて返却するが、修士論文は後日開かれる口述試問で、講評・解説をする。適宜、授業で指示する。		
テキスト	なし		
参考書	なし		

科目名	古典散文特殊講義（基礎）	期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	十返舎一九の合巻『東男連理緒』を原本でよむ		
到達目標	①くずし字を解読する能力を身に付ける。②十返舎一九の創作手法を理解する。		
授業概要	十返舎一九の合巻『東男連理緒（あずまおとこれんりのいとぐち）』（文化6年〔1809〕刊）は、江戸本町二丁目の糸屋の娘小糸と、その店の手代である左七との情話を描いた浄瑠璃『糸桜本町育』（安永6年〔1777〕初演）を主要典拠とする。一九は浄瑠璃を合巻化するにあたり、作品内容や人物像を大きく改変しているが、そこには彼の小説観が大きく関わってくる。この授業では、くずし字で書かれた原本を解読し、作品内容を理解する。そのうえで、典拠の改変からうかがえる一九の創作手法に迫りたい。		
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、口頭発表70%（資料の完成度・作品や資料の読解力・指摘した問題点の独自性を評価する）。		
履修上の注意事項等	授業中の発表に関しては、担当教員がその場でコメントし、課題を与える。くずし字で書かれた文献を解読する能力は、古典文学のみならず、近現代文学や国語学の領域においても求められる場合がある。これを機に、スキルアップを目指してほしい。なお、古典散文特殊講義（応用）との連続受講がのぞましい。		
テキスト	くずし字用例辞典 普及版 児玉幸多編 東京堂出版 1993年 9784490103335		
参考書	浄瑠璃作品要説〈7〉 江戸作者篇 国立劇場芸能調査室編 国立劇場 1993年 叢書江戸文庫⑤ 江戸作者浄瑠璃集 田川邦子校訂 国書刊行会 1989年 9784336020963 十返舎一九研究 中山尚夫 おうふう 2002年 9784273032357		

科目名	古典散文特殊講義（応用）		期間	後期	
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『糸桜本町育』と短編合巻				
到達目標	①山東京伝の創作手法を理解する。②十返舎一九の創作手法との違いについて理解する。				
授業概要	山東京伝の合巻『糸桜本朝文粹（いとざくらほんちょうぶんずい）』（文化7年[1810]刊）は、一九作の『東男連理緒（あずまおとこれんりのいとぐち）』（同6年[1809]刊）と同じく、浄瑠璃『糸桜本町育（いとざくらほんちょうそだち）』（安永6年[1777]初演）を主要典拠とする。京伝も一九と同様、作品内容や人物像を大きく改変しているが、そこには彼の小説観が深く関わってくる。この授業では、京伝合巻の作品内容を理解したうえで、一九の創作手法との違いに迫りたい。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、口頭発表70%（資料の完成度・作品や資料の読解力・指摘した問題点の独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	授業中の発表に関しては、担当教員がその場でコメントし、課題を与える。 古典散文特殊講義（基礎）との連続受講がのぞましい。				
テキスト	なし				
参考書	叢書江戸文庫⑤ 江戸作者浄瑠璃集 田川邦子校訂 国書刊行会 1989年 9784336020963 十返舎一九研究 中山尚夫 おうふう 2002年 9784273032357 山東京傳全集 第八巻 山東京傳全集編集委員会編 ベリカン社 2002年 9784831510129				

科目名	古典韻文特殊講義（基礎）		期間	前期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	平安後期和歌を読む - 崇徳院とその歌壇 -				
到達目標	「歌壇」「定数歌」といった和歌研究上重要な概念を把握し、百首歌が和歌史に及ぼした影響を理解できる。また、崇徳院およびその歌壇内の和歌活動について理解できる。				
授業概要	この授業では崇徳院の和歌活動について講義し、『久安百首』の輪読を行う。古典文学を専門的に学ぶためには作品の背景に存在する状況を理解する必要がある。中世和歌に関していえば、題詠・歌合・定数歌といった詠歌様式や、歌壇ないし和歌サークル的な詠歌の〈場〉が、それに相当する。前期では、そうした〈場〉の具体例として、崇徳院およびその歌壇について解説する。保元の乱の敗者として紹介されることの多い崇徳院がどのような活動を行ったのかを学ぶことで、中世和歌の詠歌状況を学んでほしい。				
評価方法・基準	各回の小課題を含めた授業態度（40%）、レポート課題の内容（60%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	授業前に文献を読んできてもらい、その内容について解説する。あるいは、授業中に考察する時間を確保し、その内容についてディスカッションする。授業前ないし授業中に必ず課題を出す。また、各種の工具書の利用法についても説明する。レポートの調査に必須の知識となるので、よく復習すること。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	久安百首 校本と研究 平安末期百首和歌研究会 笠間書院 1991 978-4-305-10243-0 谷山茂著作集二 藤原俊成 谷山茂 角川書店 1982 978-4-045-61802-4 その他、適宜紹介する				

科目名	古典韻文特殊講義（応用）		期間	後期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	平安後期和歌を読む - 勅撰集と歌道家 -				
到達目標	「勅撰集」「歌道家」といった和歌研究上重要な概念を把握し、平安後期における歌学の影響を理解できる。また、六条家および注釈活動について理解できる。				
授業概要	この授業では『詞花和歌集』（以下、『詞花集』）の講義を中心としつつ、歌学書を参照しながら和歌を読解する。和歌に関心がない限り「歌学」は聞き馴染みのない語と思われるが、院政期以降の和歌を学ぶ上で避けて通れない概念である。平安後期以降の勅撰集編纂者は歌学に習熟した専門家系「歌道家」の出身者に限られていた。後期では歌道家の具体例として六条家を取り上げる。藤原顕輔が編んだ『詞花集』を、その猶子である顕昭の注を参照しつつ読むことで、歌道家についての理解・関心を深めてほしい。				
評価方法・基準	各回の小課題を含めた授業態度（40%）、レポート課題の内容（60%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	授業前に文献を読んできてもらい、その内容について解説する。あるいは、授業中に考察する時間を確保し、その内容についてディスカッションする。授業前ないし授業中に必ず課題を出す。また、各種の工具書の利用法についても説明する。レポートの調査に必須の知識となるので、よく復習すること。				
テキスト	詞花和歌集（岩波文庫） 工藤重矩（校注） 岩波書店 2020 978-4-003-00319-0 資料を配付する				
参考書	貴重典籍叢書 文学篇二 勅撰集二 国立歴史民俗博物館蔵史料編集会（編） 臨川書店 2000 978-4-653-03564-4 日本歌学大系 別巻四 久曾神昇（編） 風間書房 1980 978-4-7599-0533-5 その他、適宜紹介する				

科目名	近代文学論特殊講義（基礎）		期間	前期	
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	奈良県の戦後の文芸雑誌『大和文芸』を読む				
到達目標	①奈良県の戦後文芸雑誌の特徴を把握する ②書誌学の方法を習得する ③注釈のつけ方を習得する				
授業概要	占領期の日本において、様々な地方雑誌が発行された。奈良県も数十冊の雑誌が刊行されている。戦後の紙不足、GHQによる検閲等の困難な状況の中、戦後復興の位置役を担った雑誌を読むことで、戦後の文化史、文学史に地域が果たした役割を考える。				
評価方法・基準	授業内での発表 60%（発表レジュメの充実度を重視し、その次にプレゼンテーション、質疑応答の対応を評価する）、レポート 40%（課題に対して適切に問題提起が行われているか、問題提起への取り組み、文章の論理性を評価する）				
履修上の注意事項等	発表については授業内でコメントする。 またレポートに関しては添削して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	近代文学論特殊講義（応用）		期 間	後期	
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	奈良県の戦後の文芸雑誌『玄想』を読む				
到達目標	①奈良県の戦後文芸雑誌の特徴を把握する ②書誌学の方法を習得する ③注釈のつけ方を習得する				
授業概要	占領期の日本において、様々な地方雑誌が発行された。奈良県も数十冊の雑誌が刊行されている。戦後の紙不足、GHQによる検閲等の困難な状況の中、戦後復興の位置役を担った雑誌を読むことで、戦後の文化史、文学史に地域が果たした役割を考える。				
評価方法・基準	授業内での発表 60%（発表レジュメの充実度を重視し、その次にプレゼンテーション、質疑応答の対応を評価する）、レポート 40%（課題に対して適切に問題提起が行われているか、問題提起への取り組み、文章の論理性を評価する）				
履修上の注意事項等	発表については授業内でコメントする。またレポートに関しては添削して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	言語論特殊講義（基礎）		期 間	前期	
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	中世日本語の研究				
到達目標	・日本語史における中世の位置づけを明確に学ぶ ・中世資料を日本語史的視点から読む事が出来るようになる				
授業概要	中世期は、古代からの日本語が大きく変化した時代である。当該時期には、それまでより豊富な文献が残され、当時の日本語を知るための様々な資料がある。本講義では、文献資料に見られる日本語と、文献資料の扱いを述べた、亀井孝ら編『日本語の歴史』巻4を教科書とし、各回ごとに分担の上、内容の報告・議論とそれに対する解説を行い、中世日本語の研究方法について学ぶ。				
評価方法・基準	・各回の報告 60%（内容の理解度、資料のわかりやすさ） ・各回の議論 40%（的確で生産的な議論が出来るか）				
履修上の注意事項等	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。 ・進行方法は履修者との相談で変更することがある。 ・教科書は重版未定につき、毎回の授業で次回の担当箇所のみをコピーし、配布する。				
テキスト	授業中に必要箇所のコピーを配布する				
参考書	なし				

科目名	言語論特殊講義（応用）		期 間	後期	
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	中世日本語の研究				
到達目標	・日本語史における中世の位置づけを明確に学ぶ ・近世資料を日本語史的視点から読む事が出来るようになる				
授業概要	中世期は、古代からの日本語が大きく変化した時代である。当該時期には、それまでより豊富な文献が残され、当時の日本語を知るための様々な資料がある。本講義では、前期に引き続き亀井孝ら編『日本語の歴史』巻4を教科書とし、各回ごとに分担の上、内容の報告・議論とそれに対する解説を行い、中世日本語の研究方法について学ぶ。				
評価方法・基準	・各回の報告 60%（内容の理解度、資料のわかりやすさ） ・各回の議論 40%（的確で生産的な議論が出来るか）				
履修上の注意事項等	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。 進行方法は履修者との相談で変更することがある。				
テキスト	授業中に必要箇所のコピーを配布する				
参考書	なし				

科目名	上代文学特論		期 間	前期	
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	古代日本神話の特性や神話の伝承というものが如何になされてきたのか、『古事記』を通じて考えてゆく。				
到達目標	『古事記』における神話を通じて、「歴史」「文学」「民俗」など多角的な視点で考察する力を養うことができる。授業内で得た知識を専門とする分野に還元でき、分析力を身に付けることができる。				
授業概要	「神」や「神話」とはなにか、「伝承」とはなにか。そのような概念規定から、7世紀から8世紀の<神話>の歴史を考え、また現代の我々にとって「神話」とは「古事記」とは何かを考えてゆく。				
評価方法・基準	平常点 20%（コメントシートや作業、等の取り組み）、最終授業時に実施する学習到達度確認 80%（筆記等による学力確認）による。				
履修上の注意事項等	コメントシートおよび Googleform を適宜使い、授業内容に反映していく。また受講者全員の課題として考えていく。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う。テキストや配布プリントを読み込んで出席すること。当該科目に関係する諸事項について、つねに関心を持ち、自分なりの視点でものが考えられるように努力してほしい。				
テキスト	神話伝承論ノート 神話伝承論学習の会 書肆アルス 2013				
参考書	適宜紹介する。 古事記学センター http://kojiki.kokugakuin.ac.jp/kojiki/ 古事記の注釈や解説などが提示されており、予習や授業の復習をするうえで有益。				

科目名	中古文学特論		期間	前期	
担当教員	★溝端 悠朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	平安和歌を読む				
到達目標	古典文学、特に和歌文学を読むための基礎知識と研究方法を理解する。文学研究（特に表現研究）にあたっての基本的な作業を習得し、自身の研究へ反映・援用する。				
授業概要	前近代、特に平安時代において、文学の中心は和歌であった。その和歌を番えて優劣を競い合う催しが歌合である。本講義では、和歌文学について基本的な知識と研究方法を学ぶとともに、代表的な歌人とその和歌を取り上げて、平安和歌史を通覧しつつ読解する。これらを通じて、文学作品の表現を精読する研究方法を身につける。授業では毎回コメントシートの提出を求める。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト80%（最終授業時に行い、授業内容を理解できているかを評価する）+平常点20%（コメントシートの内容により、授業に対して積極的に取り組んでいるかを評価する）				
履修上の注意事項等	コメントシートの内容・質問等については、次回の授業冒頭で応答し、必要があれば補足説明を行う。学習到達度確認テストについては解答例と講評をポータルサイトで公開する。事前配付のプリントを読み込んだうえで授業に臨むこと。なお、古語や古典文法については、すべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書（電子辞書可、携帯電話・スマートフォンは不可）や文法書を持ち込んでかまわない。				
テキスト	なし				
参考書	和歌史 万葉から現代短歌まで 島津忠夫ほか 和泉書院 1985 9784870881525 和歌史を学ぶ人のために 鈴木健一・鈴木宏子ほか 世界思想社 2011 9784790715337 和歌史 なぜ千年を越えて続いたか 渡部泰明 KADOKAWA 2020 9784047036536				

科目名	中世文学特論		期間	後期	
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	平安後期和歌を読む				
到達目標	定数歌という概念を把握し、百首歌が和歌史に及ぼした影響を理解できる。また、崇徳院およびその歌壇内の和歌活動について理解できる。				
授業概要	この授業では崇徳院の和歌活動について講義する。中世和歌を理解するためには題詠・歌合・定数歌といった概念を理解する必要がある。その具体例として、保元の乱の敗者として紹介されることの多い崇徳院およびその歌壇について解説する。崇徳院歌壇の理解を通して、中世和歌の読解方法を学んでほしい。				
評価方法・基準	各回の小課題を含めた授業態度（40%）、レポート課題の内容（60%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	授業前に文献を読んできてもらい、その内容について解説する。あるいは、授業中に考察する時間を確保し、その内容についてディスカッションする。授業前ないし授業中に必ず課題を出す。また、各種の工具書の利用法についても説明する。レポートの調査に必須の知識となるので、よく復習すること。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	近世文学特論		期間	前期	
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	上田秋成『雨月物語』をよむ				
到達目標	①『雨月物語』の小説作法を把握する。②上田秋成の和歌・和文と『雨月物語』の関係について理解する。				
授業概要	「歌道之達人」-京都の西福寺に眠る上田秋成の過去帳に記された、彼を評する言葉である。この評言からうかがえるように、秋成は和歌・和文に精通した文人であった。現代においては、怪異小説『雨月物語』の作者という認識が一般的であるが、彼自身、この作品に対して何事も語っていない。だからこそ、さまざまな解釈が生まれ、議論がなされてきたのである。この授業では、『雨月物語』の全話を通して読むことで、秋成の文学観を理解したい。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、ミニレポート30%（独自性を評価する）、期末レポート40%（精確性・客観性・論理性・独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	ミニレポートについては、Google Classroom等を通してコメントする。期末レポートについては、提出後にコメントを付して返却する。『雨月物語』全話を一通り読んだうえで授業にのぞむこと。欠席は5回までとし、それより多く欠席した者には単位を認めない。				
テキスト	雨月物語 長島弘明校注 岩波書店 2018年 9784003022030				
参考書	上田秋成研究事典 秋成研究会編 笠間書院 2018年 9784035079091 三弥井古典文庫 雨月物語 田中康二ほか編 三弥井書店 2009年 9784838270705 新編日本古典文学全集78 中村幸彦ほか校注訳 小学館 1995年 9784096580783				

科目名	書物特論		期間	後期	
担当教員	★安藤 友里	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	書物の歴史や制作の流れ、流通の仕組みを知り、その存在意義を考察する。				
到達目標	1. 書物が果たしてきた役割について理解し、未来の書物の在り方を想像することで自身の研究の深化に役立てる。 2. 「もの」として本の価値を認識し、制作者側の知識を深めることで書物の多角的な検証に役立てる。				
授業概要	情報伝達的手段として本は読み継がれてきたが、現在のようない紙に印刷され大量生産されるようになるまでには長い歴史がある。印刷技術の発展やデジタル化などの経緯を学ぶとともに、本が装丁や質感全てを含めた「もの」であり、電子書籍やweb上の情報とは異なる。また、本の出版に関わる仕事は多岐にわたり、それぞれの立場によって本に対する意識は違ってくる。そのような相違点を理解し流通の仕組みも理解したうえで、書物を読むだけでなく広い視野で捉える機会としたい。				
評価方法・基準	平常点（授業時のレポートや発表）40% 期末レポート（課題提示）60%				
履修上の注意事項等	・授業時のレポートについては、次回以降の授業時にフォローやアドバイスを共に返却。・発表については、その場で講評を行う。・質問には内容に応じて、全体に紹介しつつ答えるか個別に回答する。 書物の内容だけでなく、幅広いジャンル・形態の書物に関心を持ることが望ましい。				
テキスト	本ができるまで 岩波書店編集部 岩波書店 2003 9784005004409				
参考書	編集者の仕事 本の魂は細部に宿る 柴田光滋 新潮社 2010 9784106103711				

科目名	メディア文化特論		期間	前期	
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	漫画表象と歴史性—生活文化史の観点から				
到達目標	(1) 漫画の持つ歴史・文化資料としての可能性を考察することができる (2) 文化研究の基礎的な方法を学ぶことができる (3) 戦後日本の生活史を理解することができる				
授業概要	本講義は長谷川町子「サザエさん」を事例に、漫画の歴史表象のあり方を考察する。 具体的には毎時作品内に現れる歴史的事象(特に生活史)を1つとりあげ、その表現方法について歴史的背景とともに考察する。こうした事例研究を積み重ねることで、漫画を歴史資料としてとらえなおす視点や手法、問題点を確認してゆきたい。				
評価方法・基準	平常点(10%)、小課題(30%)、期末試験(60%)の総合評価。 平常は毎時の授業参加度を、小課題・期末試験は講義内容の理解度と、独自の解釈の有無を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	小課題については次回授業で批評を行い、また授業の検討内容として全員に還元する。期末試験については解答例の解説を行う。▼この講義は歴史的な予備知識と表現の読解を要求する。また課題提出がかなり多いので、それを覚悟のうえで受講すること。▼課題提出にGoogle クラウドルームを利用する。事前にポータルサイトの指示に従って登録のこと。				
テキスト	プリントで配布				
参考書	戦後日本の大衆文化 鶴岡正樹・他編 昭和堂 2000 4-8122-0003-2 昭和・平成家庭史年表 下川歌史 河出書房新社 2001 4-309-22370-2				

科目名	比較交流特論		期間	後期	
担当教員	★金岡 直子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	異質な人びと 国や文化、言語といった境界を越えた人びとの物語について、文学や映画を用いながら考察する。				
到達目標	文学や映画の発想・文化的背景を客観的に分析できる読解力、考察する力 以上の力を身につけるとともに、自らの考えを他者に伝えることができること				
授業概要	移民、故郷喪失者、思想の対立など、何らかの事情で元の居場所に帰れない人びとの姿を文学から追いかけてみます。新たな居場所に順化していく過程や、表面化しづらい排除にも目を凝らしていきます。どの時代にも、世界中のどこにも散在し得る事態に対して理解を深めることで、自身のなかにある生きる力や心理的バイアスをみつめていくことにもつながっていきます。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 30% (授業内容の理解度を重視)、授業に対する積極性 20% (授業中の質問、アクティブラーニングへの参加度を重視)、期末レポート 50% (参考文献を用いて、論理的に自分の考えを伝えられるかを評価)				
履修上の注意事項等	小レポートや課題は e-learning を通じて実施し、合わせて評価・講評を行う。テキストについては e-learning 上で配布。PC やスマホで e-learning にアクセスできるように準備しておくこと。詳細は初回授業で説明します。利用可能な OS Windows 利用するソフトウェア word2019 ~、PDF (開ければ OK、Mac ユーザーも PDF で提出可能)				
テキスト	プリントを配付				
参考書	使用しない				

科目名	和歌歌謡特論		期間	前期	
担当教員	★北井 佑実子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『古今和歌集』を読む				
到達目標	『古今和歌集』の和歌を部立ごとに読み、平安時代に活躍した歌人やその和歌について考える。さらに、和歌文学の基礎的事項を学ぶ。				
授業概要	『古今和歌集』の和歌を部立ごとに読み、和歌の特徴や歌集全体の構成についても考える。学期末には、各自でテーマを定めてレポートを作成する。				
評価方法・基準	平常点 20% (授業への参加度) 小レポート 40% (授業中の課題) 最終レポート 40%				
履修上の注意事項等	小レポートのフィードバックは、次回の授業で取り上げる。最終レポートは、個別にフィードバックする。毎回授業時の小レポートを重視する。				
テキスト	古今和歌集 佐伯梅友校注 岩波文庫 1981 4-00-300121-4				
参考書					

科目名	近代小説特論		期間	後期	
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	ジェンダーと文学				
到達目標	①ジェンダー理論について理解する。 ②文学とジェンダー、言葉とジェンダーの力学を理解する。 ③ジェンダーという切り口から、歴史・社会・文化を考える。				
授業概要	ジェンダー理論を踏まえた上で、文学作品の読解する。性別役割分業、異性愛主義など、現代のジェンダーにまつわる規範は、その多くが近代に起源をもつ。ジェンダーの歴史・文化を検討しながら、文学作品を通じて、多様な生き方の重要性を考えてゆきたい。 講義の方法： 対面形式				
評価方法・基準	レポート点 40% (講義内での課題の提出、レポートは講義の内容を理解した上で論じられているかを重視する)、平常点 60% (講義内で出された課題についての提出状況を重視する)				
履修上の注意事項等	課題へのコメント、授業への質問・意見については、次回授業内、もしくは、google classroom のストリームを通じて、返答します。講義で扱う作品については、抄録したものを配布するが、あらかじめ全集や文庫本などで読んでおくことがのぞましい。				
テキスト	なし				
参考書	ジェンダー×小説 ガイドブック 飯田祐子・小平麻衣子編 ひつじ書房 2023 978-4-8234-1192-2				

科目名	近代詩歌特論		期間	前期	
担当教員	★二木 晴美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	続・中原中也の作品からみた、日本の近代詩歌についての考察。				
到達目標	昨年度に引き続き、近代日本を代表とする詩人中原中也の作品を通して、それぞれの作品を味わいながら、かつ関東大震災以降の日本の近代詩における課題について考えていくことを目標とする。				
授業概要	昨年度に引き続き、新発見資料から読み解かれた佐々木幹郎著『中原中也 沈黙の音楽』（岩波新書）をテキストにし、その内容に沿って、本文中に取り上げられた中也詩を読み味わいながら新しい中也像に迫ると同時に、関東大震災以降の日本の近代詩に内包する課題について順次検討していく予定である。				
評価方法・基準	平常点（授業での音読や質問など積極的な態度を評価）30%。試験に替わるレポート課題（課題に沿った必要な情報を適宜収集し、自分なりの考えを論理的に展開できているかを評価）70%。				
履修上の注意事項等	コメントシートにて提示された疑問質問等は、授業にて適宜紹介し反映していく。期間内に課した課題は講評し、添削したうえで希望者へ返却予定。この科目は実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	中原中也 沈黙の音楽（岩波新書） 佐々木幹郎 岩波書店 2017 978-4-00-431673-2				
参考書	新編中原中也全集全5巻・別巻1 大岡昇平・佐々木幹郎他3名編 角川書店 2000～04 4-04-574001-5～4-04-574006				

科目名	現代文学特論		期間	前期	
担当教員	★金岡 直子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	エッセイ／随筆とは何か 日本におけるエッセイ／随筆を追いかけ、現代文学の幅広さを学ぶ。エッセイ執筆・講評も行う。				
到達目標	エッセイに含まれる観察眼や文化的背景を読解する力、考察する力 以上の力を身につけるとともに、自らの考えを他者に伝えることができること				
授業概要	文学の愉しみは奇想天外なフィクションの物語だけにあるのでしょうか。この疑問を解消すべく、エッセイ／随筆から、作家の観察眼と筆力によって日常が全く違うものに変化することを学んでいきます。明治時代から戦後、現代のエッセイを幅広く扱い、作家たちの工夫や苦心を感じつつ、自分自身でもエッセイを書いてもらいます。アカデミックライティングとは違った文章を書いてみて、書く楽しさにも触れていきます。				
評価方法・基準	授業中の小レポート30%（エッセイの完成度、授業内容の理解度を重視）、授業に対する積極性20%（授業中の質問、アクティブラーニングへの参加度を重視）、期末レポート50%（参考文献を用いて、論理的に自分の考えを伝えられるかを評価）				
履修上の注意事項等	小レポートや課題はe-learningを通じて実施し、合わせて評価・講評を行う。テキストについてはe-learning上で配布。PCやスマホでe-learningにアクセスできるように準備しておくこと。詳細は初回授業で説明します。利用可能なOS Windows利用するソフトウェア word2019～、PDF（開ければOK、MacユーザーもPDFで提出可能）				
テキスト	プリントを配付				
参考書	日本エッセイ小史 人はなぜエッセイを書くのか 酒井順子 講談社 2023 978-4065310069 苦手から始める作文教室 津村記久子 筑摩書房 2022 ?978-4480251381				

科目名	古典日本語特論		期間	前期	
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本語音韻史研究の方法				
到達目標	①日本語音韻史の基礎知識を身に着ける ②日本語音韻史研究の基本的な方法を理解できる ③①②をベースとして、資料に対する読解・批判ができるようになる ④①②をベースとして、さまざまなデータに解釈を加えることができるようになる				
授業概要	日本語史研究の諸分野において、音韻史分野はもっとも進んだ分野と言え、様々な成果がある。そして、そこで培われた方法論は言語史研究全体の基礎となるものである。またこれは、資料や理論に基づいた説得力のある議論や論理的な思考法を身に着けるためにも、有益なものである。この授業では、このような問題意識から、音韻史研究の基礎知識やこれまでの研究などを学び、その方法論・思考法に習熟することを目的とする。				
評価方法・基準	・最終レポート80%（内容の論理性。音韻史研究の観点からの妥当性。出典の明示などの形式。） ・コメントの質20%（出席点ではない。毎回の授業内容の理解を確認する。）				
履修上の注意事項等	・毎回の課題での質問などへは授業中に回答する。・最終試験に関わる解説などは、オフィスアワーに個別に受け付ける。・情報共有や課題提出などにGoogle Classroomを利用する。・クラスコードは初回授業においてポータルサイト上で公開する。・国語学概論I、IIおよび日本語の歴史I、IIを履修していることが望ましい。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	シリーズ日本語史1 音韻史 高山倫明ら 岩波書店 2016				

科目名	現代日本語特論		期間	後期	
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	関西方言の多様性について方言地図から学ぶ。				
到達目標	関西方言の地理的分布に焦点をあて、方言の多様性について考察する。関西方言の地理的分布の成立について考えるとともに関西方言の歴史的な変遷を辿る。				
授業概要	全国を対象とした言語地図のほかに関西地方の言語地図を紹介しながら関西の方言について多方面から学ぶ。まずは言語地図を取り上げ、方言分布について知る。方言の地理的分布から方言の地域差を理解するとともにこのような地域差が生じるに至った原因のほか、どういうメカニズムが働いたかについて理解する。さらに言語地図の地理的解釈について言語変化の視点からその方法を学ぶ。				
評価方法・基準	平常点30点（講義中の質問など、授業に対する積極的な態度、コメントシートの内容を重視）、学習到達度確認70%（小テストやレポートなど）を規準とする。				
履修上の注意事項等	小課題の解答を含め、次回、授業の冒頭で紹介し、説明を行う。期間内にレポートを課し、期間内に公表する。学習到達度確認の答えはGoogle Classroomを通じ、コメントを添えて返却する。この授業はWEB授業の形式で行う。基本的に毎回、テキストとは別に論文を提示するのでそれをよく読んで課題に答えるという形式だが、月に一度程度、録画形式の授業を行う予定である。				
テキスト	地図で学ぶ関西のことば 岸江信介・中井精一編 昭和堂 2022 978-4812221167				
参考書	新日本言語地図 大西拓一郎編 朝倉書店 2016 978-4254510515 日本の方言地図 徳川宗賢編 中央公論新社 1979 978-4121005335 方言の地図帳 佐藤亮一編 講談社 2019 978-4065166796 方言文法全国地図 https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-pdf_index.html 国立国語研究所のホームページ 日本語地図 https://mmsrv.ninjal.ac.jp/laj_map/ 国立国語研究所のホームページ				

科目名	国文学特論		期間	前期	
担当教員	★高木 彬	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文芸出版のモダニズム				
到達目標	モダニズム文学と書物・雑誌デザインとの協働の様相を検討することで、近代以降の文学作品と出版文化との関係性について理解する。				
授業概要	文学作品は、「物語」である以前に、一個の「物」である。たとえば近代以降の文学作品は、書物や雑誌といったかたちをとって市場に流通した。出版文化は、そうした「物」としての文学を考えるにふさわしいテーマである。本講義では、文芸出版の大衆化のエポックとなった1920-30年代のモダニズム文学を対象として、「物」としての文学がどのように編集・デザインされ、書物・雑誌として流通していたのかを検討したい。そうすることで、文学作品と出版文化との相互作用のメカニズムを浮き彫りにしたい。				
評価方法・基準	平常点：100%（出席、コメントペーパー（小レポート）の内容によって評価）				
履修上の注意事項等	講義中に課すコメントペーパーの内容を次回の講義時に適宜取り上げてフィードバックを行う。 ・毎回出席を取る。3分の2以上の出席を単位認定の必要条件とする。 ・30分以上の遅刻者には入室を認めない。 ・不正行為（代筆、剽窃など）をした者には単位認定しない。 ・受講者の理解度に応じて講義の進捗や内容を調整することがある。 ・オンライン授業になる可能性があるためポータルに注意しておくこと。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	国語学特論		期間	前期	
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	言葉の東西対立				
到達目標	方言の東西対立をはじめ、二音節名詞アクセントの系統樹などを理解し、日本の方言の成立についてこれまでの学説を学ぶ。				
授業概要	明治時代、標準語を制定しようとした国語調査委員会による全国調査の結果、東西で方言が対立する事実が判明した。これ以後、現代までに全国調査を含めて数々の調査が行われてきた。これらの調査結果の研究成果をはじめ、物の東西対立に関わる文献を読み、どのような対立がみられるのかについて探る。課題として方言や物の東西対立について受講生が調べ、報告する。				
評価方法・基準	平常点50点（講義中の質問など、授業に対する積極的な態度を重視）、学習到達度確認50%（方言の東西対立の理解と解釈、アクセント変化を系統的に正しく理解している、言語地理学における分布の法則などを正しく理解できるなど）				
履修上の注意事項等	コメントシートの内容・質問等については、次回の授業冒頭で紹介し、説明を行う。課題等については毎時、授業で取り上げ、コメントする。期間内にレポートを課し、期間内に公表する。学習到達度確認の答えはオフィスアワーに研究室にて返却する。授業で分からなかった点や質問があれば遠慮なく、メールで問合わせて頂きたい。授業での配付資料のほか、Google Classroom上で資料の閲覧ができるようにするのでその都度、チェックして頂きたい。				
テキスト	方言の地図帳 佐藤亮一編 講談社 2019 978-4065166796				
参考書	本語の歴史1—方言の東西対立— 柳田征司 武蔵野書院 2010 978-4-8386-0422-7 日本の方言地図 徳川宗賢編 中央公論社 1979 978-4121005335 地図で学ぶ関西のことば 岸江信介・中井精一編 昭和堂 2022 978-4812221167				

文化財史料学専攻博士前期課程

履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、次頁の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に次頁の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。
2. ①演習は、4科目8単位を履修すること。
*研究指導は、指導教員が担当する演習の中で行うので、指導教員が担当する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必ず履修すること。
3. ②特殊講義は、8科目16単位を選択履修すること。
4. ③「特論」（4科目8単位まで履修できるが、履修に際しては事前に指導教員と相談すること。）
4. 残りの4科目8単位は、指導教員以外の演習（事前に担当教員の了解を得ること。単位として認定する。）、特殊講義及び特論（特殊講義、特論とも同一科目の複数年にわたる重複履修はできない。担当者の変更があれば認定する。）から選択履修できる。うち、2科目4単位については、文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる。
5. 履修に際しては、修士論文提出要領（P14）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。
6. 専修免許状「社会」「地理歴史」を希望する学生は、P21「専修免許状の取得について」を確認すること。

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(一)	期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	日本古代史料の研究		
到達目標	修士論文作成のための能力を養い、史料読解力を磨く。		
授業概要	<p>受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。</p> <p>以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に治部省式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。</p>		
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。授業中の発表については、その都度その場でコメントします。		
履修上の注意事項等	日本古代史専攻の大学院生を対象とします。文献史学(日本史)演習Ⅰ(一)は、文献史学(日本史)演習Ⅲ(一)と合同で授業を行います。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(一)	期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	日本古代史料の研究		
到達目標	修士論文作成のための能力を養い、史料読解力を磨く。		
授業概要	<p>受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。</p> <p>以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に玄蕃寮式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。</p>		
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。		
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントします。日本古代史専攻の大学院生を対象とします。文献史学(日本史)演習Ⅱ(一)は、文献史学(日本史)演習Ⅳ(一)と合同で授業を行います。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(一)	期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	日本古代史料の研究		
到達目標	修士論文作成のための能力を養い、史料読解力を磨く。		
授業概要	<p>受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。</p> <p>以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に治部省式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。</p>		
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。		
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントします。日本古代史専攻の大学院生を対象とします。文献史学(日本史)演習Ⅲ(一)は、文献史学(日本史)演習Ⅰ(一)と合同で授業を行います。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(一)	期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	日本古代史料の研究		
到達目標	修士論文作成のための能力を養い、史料読解力を磨く。		
授業概要	<p>受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。</p> <p>以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に玄蕃寮式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。</p>		
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。		
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントします。日本古代史専攻の大学院生を対象とします。文献史学(日本史)演習Ⅳ(一)は、文献史学(日本史)演習Ⅱ(一)と合同で授業を行います。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(二)		期間	前期	
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財史学の諸問題				
到達目標	自己の研究テーマの設定方法の修得と論点整理				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。				
評価方法・基準	発表内容(40%)期末のレポート(60%)。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。				
履修上の注意事項等	発表の都度、指導する。レポートにコメントを付し、返却する。漢文史料を読解できることが必要である。文献史学(日本史)演習Ⅱ(二)と合わせて履修することが望ましい。発表は1回に1人が発表担当者となる。履修者数により若干のスケジュールの調整もありうる。履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(二)		期間	後期	
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財史学の諸問題				
到達目標	自己の研究テーマの設定と論点整理				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。				
評価方法・基準	発表内容(40%)期末のレポート(60%)。修士論文提出者は、発表内容100%とする。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。				
履修上の注意事項等	発表の都度、指導する。レポートにコメントを付し、返却する。漢文史料を読解できることが必要である。文献史学(日本史)演習Ⅰ(二)と合わせて履修することが望ましい。発表は1回に1人が発表担当者となる。履修者数により若干のスケジュールの調整もありうる。履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(二)		期間	前期	
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財史学の諸問題				
到達目標	自己の研究テーマの確立と論点整理				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。				
評価方法・基準	発表内容(40%)期末のレポート(60%)。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。				
履修上の注意事項等	発表の都度、指導する。レポートにコメントを付し、返却する。漢文史料を読解できることが必要である。文献史学(日本史)演習Ⅳ(二)と合わせて履修することが望ましい。発表は1回に1人が発表担当者となる。履修者数により若干のスケジュールの調整もありうる。履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(二)		期間	後期	
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財史学の諸問題				
到達目標	自己の研究テーマの課題解決				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。				
評価方法・基準	発表内容(40%)期末のレポート(60%)。修士論文提出者は、発表内容100%とする。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。				
履修上の注意事項等	発表の都度、指導する。レポートにコメントを付し、返却する。漢文史料を読解できることが必要である。文献史学(日本史)演習Ⅲ(二)と合わせて履修することが望ましい。発表は1回に1人が発表担当者となる。履修者数により若干のスケジュールの調整もありうる。履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(三)		期 間	前期	
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	鎌倉幕府裁許状を読む				
到達目標	誰が、何をめぐって争い、それぞれどのような論拠を用意して幕府法廷に臨んだのか。幕府はどのような判決を下し、判決理由はどのように説明されたのか。中世の法観念、法慣習、法廷闘争の諸相を理解すること。				
授業概要	鎌倉幕府裁許状を読解し、相論にかかる具体的争点と裁定の根拠について議論していく。なお、授業期間中に修士論文作成に向けた研究報告を各自に課す。				
評価方法・基準	平常点(史料講読については史料を的確に読解し、歴史情報としての意義を理解しているかを評価する)と研究報告の充実度により成績評価する。				
履修上の注意事項等	研究報告、史料読解にかかる評価は授業中におこなう。質疑は授業中、オフィス・アワーで対応する。研究者としてのプライドを授業のなかで示してほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参 考 書					

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(三)		期 間	後期	
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	鎌倉幕府裁許状を読む				
到達目標	前期文献史学演習に続き、誰が、何をめぐって争い、それぞれどのような論拠を用意して幕府法廷に臨んだのか。幕府はどのような判決を下し、判決理由はどのように説明されたのか。中世の法観念、法慣習、法廷闘争の諸相をさらに高度に理解すること。				
授業概要	鎌倉幕府裁許状を読解し、相論にかかる具体的争点と裁定の根拠について議論していく。なお、授業期間中に修士論文作成に向けた研究報告を各自に課す。				
評価方法・基準	平常点(史料講読については史料を的確に読解し、歴史情報としての意義を理解しているかを評価する)と研究報告の充実度により成績評価する。				
履修上の注意事項等	研究報告、史料読解にかかる評価は授業中におこなう。質疑は授業中、オフィス・アワーで対応する。研究者としてのプライドを授業のなかで示してほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参 考 書	授業中に紹介する				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(三)		期 間	前期	
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	2
テ ー マ	鎌倉幕府裁許状を読む				
到達目標	誰が、何をめぐって争い、それぞれどのような論拠を用意して幕府法廷に臨んだのか。幕府はどのような判決を下し、判決理由はどのように説明されたのか。中世の法観念、法慣習、法廷闘争の諸相を理解すること。				
授業概要	鎌倉幕府裁許状を読解し、相論にかかる具体的争点と裁定の根拠について議論していく。なお、授業期間中に修士論文作成に向けた研究報告を各自に課す。				
評価方法・基準	平常点(史料講読については史料を的確に読解し、歴史情報としての意義を理解しているかを評価する)と研究報告の充実度により成績評価する。				
履修上の注意事項等	研究報告、史料読解にかかる評価は授業中におこなう。質疑は授業中、オフィス・アワーで対応する。研究者としてのプライドを授業のなかで示してほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参 考 書					

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(三)		期 間	後期	
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	2
テ ー マ	鎌倉幕府裁許状を読む				
到達目標	前期文献史学演習に続き、誰が、何をめぐって争い、それぞれどのような論拠を用意して幕府法廷に臨んだのか。幕府はどのような判決を下し、判決理由はどのように説明されたのか。中世の法観念、法慣習、法廷闘争の諸相をさらに高度に理解すること。				
授業概要	鎌倉幕府裁許状を読解し、相論にかかる具体的争点と裁定の根拠について議論していく。なお、授業期間中に修士論文作成に向けた研究報告を各自に課す。				
評価方法・基準	平常点(史料講読については史料を的確に読解し、歴史情報としての意義を理解しているかを評価する)と研究報告の充実度により成績評価する。				
履修上の注意事項等	研究報告、史料読解にかかる評価は授業中におこなう。質疑は授業中、オフィス・アワーで対応する。研究者としてのプライドを授業のなかで示してほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参 考 書	授業中に紹介する				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(四)		期間	前期	
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本中世史の諸問題				
到達目標	日本中世史の諸問題を学び、各自のテーマにかかわる研究成果の報告および文章化をめざす。				
授業概要	日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけだし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	研究報告の内容(100%、発表内容の充実度を重視)				
履修上の注意事項等	授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。査読誌などへの投稿を目標とする内容をそなえた研究報告がもとめられる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(四)		期間	後期	
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本中世史の諸問題				
到達目標	日本中世史の諸問題を学び、各自のテーマにかかわる研究成果の報告および文章化をめざす。				
授業概要	日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけだし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	研究報告の内容(100%、発表内容の充実度を重視)				
履修上の注意事項等	授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(四)		期間	前期	
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本中世史の諸問題				
到達目標	日本中世史の諸問題を学び、各自のテーマにかかわる研究成果の報告および文章化をめざす。				
授業概要	日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけだし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	研究報告の内容(100%) (報告内容の充実度を重視する)				
履修上の注意事項等	授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。査読誌などへの投稿を目標とする内容をそなえた研究報告がもとめられる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(四)		期間	後期	
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本中世史の諸問題				
到達目標	日本中世史の諸問題を学び、各自のテーマにかかわる研究成果の報告および文章化をめざす。				
授業概要	日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけだし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	研究報告の内容(100%) (報告内容の充実度を重視する)				
履修上の注意事項等	授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。査読誌などへの投稿を目標とする内容をそなえた研究報告がもとめられる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(五)	期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	新しい日本史と世界史を考える		
到達目標	修論の作成に向けて、独自の研究視角・問題意識の探究と、先行研究と関連史料への幅広い目配りに努める。		
授業概要	受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。		
評価方法・基準	平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博捜と分析が十分できているか如何で評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表時に、教員がコメントし、アドバイスをほどこす。レポートの講評を面談にておこなう。		
テキスト	なし		
参考書	適宜紹介		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(五)	期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	新しい日本史と世界史を考える		
到達目標	修論の作成に向けて、独自の研究視角・問題意識の探究と、先行研究と関連史料への幅広い目配りに努める。		
授業概要	受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。		
評価方法・基準	平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博捜と分析が十分できているか如何で評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表時に、教員がコメントし、アドバイスをほどこす。レポートの講評を面談にておこなう。		
テキスト	なし		
参考書	適宜紹介		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(五)	期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	新しい日本史と世界史を考える		
到達目標	修論の作成に向けて、独自の研究視角・問題意識の探究と、先行研究と関連史料への幅広い目配りに努める。		
授業概要	受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。		
評価方法・基準	平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博捜と分析が十分できているか如何で評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表時に、教員がコメントし、アドバイスをほどこす。レポートの講評を面談にておこなう。		
テキスト	なし		
参考書	適宜紹介		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(五)	期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	新しい日本史と世界史を考える		
到達目標	修論の作成に向けて、独自の研究視角・問題意識の探究と、先行研究と関連史料への幅広い目配りに努める。		
授業概要	受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。		
評価方法・基準	平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博捜と分析が十分できているか如何で評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表時に、教員がコメントし、アドバイスをほどこす。レポートの講評を面談にておこなう。		
テキスト	なし		
参考書	適宜紹介		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(六)		期間	前期	
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本近世・近現代文化史の諸問題の研究				
到達目標	日本近世・近現代文化史のなかから各自のテーマを選び、研究成果の整理をし、修士論文の作成をする。				
授業概要	日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の作成にむけた研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する 受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する				
履修上の注意事項等	授業中の発表については担当教員がその場でコメントをし評価する。無断欠席は厳禁とする。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(六)		期間	後期	
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本近世・近現代文化史の諸問題の研究				
到達目標	日本近世・近現代文化史のなかから各自のテーマを選び、研究成果の整理をし、論文作成をする。				
授業概要	日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の作成にむけた研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する 受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントをし評価する。無断欠席は厳禁とする。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(六)		期間	前期	
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本近世・近現代文化史の諸問題の研究				
到達目標	日本近世・近現代文化史のなかから各自のテーマを選び、研究成果の整理をし、修士論文の執筆の実作業にむけた準備をする。				
授業概要	日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の作成にむけた研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する 受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する				
履修上の注意事項等	授業中の発表については担当教員がその場でコメントをし評価する。無断欠席は厳禁とする。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(六)		期間	後期	
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本近世・近現代文化史の諸問題の研究				
到達目標	日本近世・近現代文化史のなかから各自のテーマを選び、研究成果の整理をし、論文作成をする。				
授業概要	日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の実作業を進めるための研究指導をおこなう。				
評価方法・基準	演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する 受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントをし評価する。無断欠席は厳禁とする。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(七)	期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	日本近代史研究の到達点と課題について		
到達目標	幕末・維新时期から大正初期にかかわる複数の研究テーマを取り上げ、それぞれの現段階における到達点と課題を把握する。		
授業概要	幕末・維新时期から大正初期に関する近年の研究論文を精読し、他の受講者や担当教員と論議しながら研究の到達点と課題を確認していく。		
評価方法・基準	各回の授業における報告や議論の発言内容などをもとに評価する(20%)。中間と期末にレポートの提出を求め、自身の選んだ課題についてアクチュアルな問題意識をもっているか、関係史料や先行研究を読み込んでいるかなどについて評価する(80%)。		
履修上の注意事項等	レポートは添削してオフィスアワーに研究室で返却する。修士論文の完成をめざして意欲的に取り組んでほしい。		
テキスト	担当者から資料を配付する。		
参考書	授業中に適宜示す。		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(七)	期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	日本近代政治史の重要史料の研究		
到達目標	幕末・維新时期から大正初期における政治史上の重要史料を読み解き、その歴史的意義などについて考察する力を深める。		
授業概要	幕末・維新时期から大正初期における政治史の重要史料を取り上げ、これを解読するとともに、その歴史的意義について議論を通じて理解を深める。		
評価方法・基準	授業における報告や議論の発言内容などをもとに評価する(20%)。中間と期末にレポートの提出を求め、日本近代の政治史に関する問題意識や、関係史料を読み込みについて評価する(80%)		
履修上の注意事項等	レポートは添削してオフィスアワーに研究室で返却する。修士論文の完成をめざして意欲的に取り組んでほしい。		
テキスト	担当者から資料を配付する		
参考書	授業中に適宜示す。		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(七)	期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	日本近代史上の重要課題についての研究		
到達目標	高度な学問的レベルを有するとともに、社会的意義のあるすぐれた修士論文の完成をめざして課題を整理し、その解決に向けて研究を深める。		
授業概要	修士論文の完成をめざし、関係論文を博捜するとともに、各論文の意義と限界について議論のなかから明らかにする。これと並行して史料を読み込み、その歴史的意義について考察を深める。		
評価方法・基準	報告の内容、議論への参加態度などにより総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	報告や議論の内容について授業内や、オフィスアワーなどで指導する。修士論文の完成に向けて全力を尽くしてほしい。		
テキスト	担当者から資料を配付する。		
参考書	適宜示す。		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(七)	期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	日本近代史上の重要課題についての研究		
到達目標	高度な学問的レベルを有するとともに、社会的意義のあるすぐれた修士論文を完成させる。		
授業概要	より完成度の高い修士論文の提出に向けて、史料の解釈や論の立て方など細部にわたって議論してゆく。		
評価方法・基準	授業中の報告や議論の内容から総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	報告や議論の内容について、授業中やオフィスアワーに指導する。修士論文の完成に向けて全力で取り組んでほしい。		
テキスト	なし		
参考書	適宜示す。		

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅰ(八)		期間	前期	
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史のテーマに関する発表				
到達目標	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史のテーマでの研究を予定している学生を念頭において、研究史の整理・検討と史料の調査・読解の能力を高める。				
授業概要	受講生が各自で設定したテーマと問い・論点について、先行研究の検討と史料調査の発表を重ねていく。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度 20%、発表内容 50%、レポート 30%を総合して評価する。発表とレポートともに、研究史の把握度、史料の調査状況、収集史料と読解・分析の妥当性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	日々の授業では教員が受講生の発表にコメントするとともに、個別に関連図書・論文および史料を紹介する。特別な理由とそれを示す文書がない欠席、事前連絡のない欠席は、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業の性格上なし。				
参考書	授業中に適宜指示する。				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅱ(八)		期間	後期	
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史のテーマの調査発表				
到達目標	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史に関するテーマで受講生が調査・発表を重ねた上で、修士論文の執筆構想を具体化させる。				
授業概要	受講生が各自で設定したテーマと問いについて、先行研究の整理・検討、史料調査・読解にもとづく考察内容を発表する。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度 30%、発表内容 70%を総合して評価する。発表については、先行研究の把握状況と理解度、史料の調査・収集状況、史料の利用・読解の妥当性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	日々の授業では教員が受講生の発表にコメントするとともに、個別に関連図書・論文および史料を紹介する。特別な理由とそれを示す文書がない欠席、事前連絡のない欠席は、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業の性格上なし。				
参考書	授業中に適宜指示する。				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅲ(八)		期間	前期	
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史のテーマでの研究発表				
到達目標	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史上のテーマで調査・研究に取り組む受講生が修士論文の執筆を目指す。				
授業概要	受講生が各自で設定したテーマと問いについて、先行研究の検討と史料調査の発表をする。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度 30%、発表内容 70%を総合して評価する。発表については、先行研究の把握状況と理解度、史料の調査・収集状況、史料の利用・読解と分析の妥当性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	日々の授業では教員が受講生の発表にコメントするとともに、個別に関連図書・論文および史料を紹介する。特別な理由とそれを示す文書がない欠席、事前連絡のない欠席は、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業の性格上なし。				
参考書	授業中に適宜指示する。				

科目名	文献史学(日本史)演習Ⅳ(八)		期間	後期	
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史のテーマで修士論文を仕上げている				
到達目標	日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史のテーマで研究する受講生が、修士論文の執筆に取り組み、完成させる。				
授業概要	受講生が各自で設定したテーマと問いについて、先行研究の整理・検討、史料調査・読解にもとづく考察内容を発表する。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度 30%、発表内容 70%を総合して評価する。発表については、先行研究の把握状況と理解度、史料の調査・収集状況、史料の利用・読解と分析の妥当性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	日々の授業では教員が受講生の発表にコメントするとともに、個別に関連図書・論文および史料を紹介する。特別な理由とそれを示す文書がない欠席、事前連絡のない欠席は、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業の性格上なし。				
参考書	授業中に適宜指示する。				

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅰ(一)		期間	前期	
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東洋史演習				
到達目標	東洋史の文献を、自分の関心にしながら網羅的に収集・読解し、修士論文作成の基礎を築く。				
授業概要	修士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅱ(一)		期間	後期	
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東洋史演習				
到達目標	東洋史の文献を、自分の関心にしながら網羅的に収集・読解し、修士論文作成の基礎を築く。				
授業概要	修士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅲ(一)		期間	前期	
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	2
テーマ	東洋史修士論文作成				
到達目標	東洋史の修士論文を作成する。				
授業概要	修士論文の完成を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅳ(一)		期間	後期	
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	2
テーマ	東洋史修士論文作成				
到達目標	東洋史の修士論文を作成する。				
授業概要	修士論文の完成を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅰ(二)		期間	前期	
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	修士論文で取り組むテーマ・問題を見つけ、問題解決のために必要な史料・文献を収集し、それらの内容を理解する。				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： 1 受講者による研究発表 2 研究発表を踏まえた議論 3 関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的に英語やフランス語など、外国語で書かれたものの中から選定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等	発表、および資料・文献の講読については、必要に応じて授業中に助言を与えます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅱ(二)		期間	後期	
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	修士論文で取り組むテーマ・問題を見つけ、問題解決のために必要な史料・文献を収集し、それらの内容を理解する。				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： 1 受講者による研究発表 2 研究発表を踏まえた議論 3 関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的に英語やフランス語など、外国語で書かれたものの中から選定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等	発表、および資料・文献の講読については、必要に応じて授業中に助言を与えます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅲ(二)		期間	前期	
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	2
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	修士論文の執筆にむけて、必要な史料・文献を収集し、それらの内容を理解する。				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： 1 受講者による研究発表 2 研究発表を踏まえた議論 3 関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的にフランス語など、英語以外の外国語で書かれたものの中から選定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等	発表、および資料・文献の講読については、必要に応じて授業中に助言を与えます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅳ(二)		期間	後期	
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	2
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	修士論文の完成				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： 1 受講者による研究発表 2 研究発表を踏まえた議論 3 関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的にフランス語など、英語以外の外国語で書かれたものの中から選定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等	発表、および資料・文献の講読については、必要に応じて授業中に助言を与えます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅰ(三)		期間	前期	
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	西洋史の研究				
到達目標	西洋史に関して各人が研究を行い、その分野での学界の標準的水準に到達することを目標とする。具体的には次年度の修士論文作成が到達目標。				
授業概要	専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。西洋史においては、各時代と地域に応じて先行研究も史料も多岐にわたる外国語文献を要求される。研究を進めるにはまず語学力を養成し、つぎに文献にアクセスする道筋を知らなければならない。本講義ではこの二点を重視しながら、毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力の育成を目指す。				
評価方法・基準	史料・先行研究を十分に収集・分析し、修士論文作成に向けた準備ができていくかどうか。				
履修上の注意事項等	毎回の発表後ディスカッションし、次の課題を明らかにする。また期末レポートについてはチェックの上修正して返却、評価と今後の課題を明示する。西洋史にかかわる演習である。参考となる文献は授業時に指示する。				
テキスト	とくに用いない。				
参考書	授業中に指示する。				

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅱ(三)		期間	後期	
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	西洋史の研究				
到達目標	西洋史に関して各人が研究を行い、その分野での学界の標準的水準に到達することを目標とする。具体的には次年度の修士論文の作成。				
授業概要	前期の演習Ⅰに引き続き、修士論文作成を目標としながら研究を続け、専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。各時代と地域に応じた先行研究と史料の収集を継続する。毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力を高めていく。				
評価方法・基準	史料・先行研究を十分に収集・分析し、修士論文作成に向けた準備ができていくかどうか。				
履修上の注意事項等	毎回の発表後ディスカッションし、次の課題を明らかにする。また期末レポートについてはチェックの上修正し、評価と今後の課題を明示する。西洋史にかかわる演習である。参考となる文献は授業時に指示する。				
テキスト	とくに定めない。				
参考書	授業中に指示する。				

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅲ(三)		期間	前期	
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	2
テーマ	西洋史の研究				
到達目標	西洋史に関して各人が研究を行い、その分野での学界の標準的水準に到達することを目標とする。具体的には後期における修士論文作成の準備。				
授業概要	専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。西洋史においては、各時代と地域に応じて先行研究も史料も多岐にわたる外国語文献を要求される。研究を進めるにはまず語学力を養成し、つぎに文献にアクセスする道筋を知らなければならない。本講義ではこの二点を重視しながら、毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力の育成を目指す。				
評価方法・基準	史料・先行研究を十分に収集・分析し、修士論文作成に向けた準備ができていくかどうか。				
履修上の注意事項等	毎回の発表後ディスカッションし、次の課題を明らかにする。また期末レポートについてはチェックの上修正し、評価と今後の課題を明示する。西洋史にかかわる演習である。参考となる文献は授業時に指示する。				
テキスト	とくに用いない。				
参考書	授業中に指示する。				

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅳ(三)		期間	後期	
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	2
テーマ	西洋史の研究				
到達目標	西洋史に関して各人が研究を行い、その分野での学界の標準的水準に到達することを目標とする。具体的には本学学期における修士論文の作成。				
授業概要	前期の演習Ⅲに引き続き、修士論文作成を目標としながら研究を続け、専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。各時代と地域に応じた先行研究と史料の収集を継続する。毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力を高めていく。				
評価方法・基準	史料・先行研究を十分に収集・分析し、現在の研究動向に即して修士論文作成に向けて取り組むことができたかで、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回の発表後ディスカッションし、次の課題を明らかにする。修士論文については原稿執筆を念頭においた発表を行ったうえで原稿を修正し、評価と今後の課題を明示する。西洋史にかかわる演習である。参考となる文献は授業時に指示する。				
テキスト	とくに定めない。				
参考書	授業中に指示する。				

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅰ(四)	期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	西洋近現代史の諸問題		
到達目標	修士論文作成に向けての研究を推進できるようになる。		
授業概要	修士論文作成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。		
評価方法・基準	レポートによって評価する。講義で取り上げた論文作成におけるポイントをどの程度、反映できているかで評価する。		
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。		
テキスト	なし。		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅱ(四)	期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	西洋近現代史の諸問題		
到達目標	修士論文作成に向けての研究を推進できるようになる。		
授業概要	修士論文作成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。		
評価方法・基準	レポートによって評価する。その評価基準は学会誌論文の水準に照らし合わせたものとする。		
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。		
テキスト	なし。		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅲ(四)	期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	西洋近現代史の諸問題		
到達目標	修士論文完成に向けての研究を推進できるようになる。		
授業概要	修士論文完成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。		
評価方法・基準	レポートによって評価する。講義で取り上げた論文作成におけるポイントをどの程度、反映できているかで評価する。		
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。		
テキスト	なし。		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅳ(四)	期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	西洋近現代史の諸問題		
到達目標	修士論文完成に向けての研究を推進できるようになる。		
授業概要	修士論文完成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。		
評価方法・基準	レポートによって評価する。その評価基準は学会誌論文の水準に照らし合わせたものとする。		
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅰ(六)	期 間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	西洋現代史の諸問題		
到達目標	修士論文作成のための基本的な計画と構想を作る。		
授業概要	修士論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした修士論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。		
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかを評価する(30%)		
履修上の注意事項等	レポートは添削して、オフィスアワーに返却する。テーマの修正・変更などの相談も行う。		
テキスト	シカゴ・スタイル ケイト・L・トゥラビアン 慶應義塾大学出版会 2012 ISBN 978-4-7664-1977-1 公文書は誰のものか? : 公文書管理について考える入門書 榎澤 幸広 現代人文社 2019 9784877987244 歴史学で卒業論文を書くために 村上紀夫 創元社 2019 978-4-422-80041-7		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅱ(六)	期 間	後期
担当教員	高橋 博子	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	西洋現代史の諸問題		
到達目標	修士論文作成のための基本的な計画と構想を作る。		
授業概要	修士論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習では、受講者は修士論文にむけての報告を行い、基本的な知識を習得し、レポートを作成する。		
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかを評価する(30%)		
履修上の注意事項等	レポートは添削して、オフィスアワーに返却する。テーマの修正・変更などの相談も行う。		
テキスト	シカゴ・スタイル ケイト・L・トゥラビアン 慶應義塾大学出版界 2012 ISBN 978-4-7664-1977-1 公文書は誰のものか? : 公文書管理について考える入門書 榎澤 幸広 現代人文社 2019 9784877987244		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅲ(六)	期 間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	西洋現代史の諸問題		
到達目標	修士論文作成のための基本的な計画と構想を作る。		
授業概要	修士論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした修士論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。		
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかを評価する(30%)		
履修上の注意事項等	レポートは添削して、オフィスアワーに返却する。テーマの修正・変更などの相談も行う。		
テキスト	シカゴ・スタイル ケイト・L・トゥラビアン 慶應技術大学出版会 2012 ISBN 978-4-7664-1977-1 公文書は誰のものか? : 公文書管理について考える入門書 榎澤 幸広 現代人文社 2019 9784877987244		
参考書			

科目名	文献史学(外国史)演習Ⅳ(六)	期 間	後期
担当教員	高橋 博子	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	西洋現代史をめぐる諸問題		
到達目標	修論論文作成のための基本的な計画と構想を作る。		
授業概要	修論論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。		
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかを評価する(30%)		
履修上の注意事項等	レポートは添削して、オフィスアワーに返却する。テーマの修正・変更などの相談も行う。		
テキスト	歴史学で卒業論文を書くために 村上紀夫 創元社 2019 978-4-422-80041-7 公文書は誰のものか? : 公文書管理について考える入門書 榎澤 幸広 現代人文社 2019 9784877987244		
参考書			

科目名	考古学演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古資料による日本歴史及び文化財保護の基礎的研究				
到達目標	修士論文の作成に向けた基礎形成				
授業概要	この演習（M1）は、考古学や文化財に関する分野の修士論文を作成するために必要な基礎を形成するための研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員が成果と課題についてコメントする。適宜、学外授業を行う。毎時間、各自1回以上は発言すること。発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	特になし。				

科目名	考古学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古資料による日本歴史及び文化財保護の実践的研究				
到達目標	修士論文の作成に向けた実践的研究を行う				
授業概要	この演習（M1）は、考古学や文化財に関する分野の修士論文を作成するために必要な実践的な研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員が成果と課題についてコメントする。適宜、学外授業を行う。毎時間、各自1回以上は発言すること。発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	特になし。				

科目名	考古学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	考古資料による日本歴史及び文化財保護の発展的研究				
到達目標	修士論文の作成に向けた発展的研究を行う				
授業概要	この演習（M2）は、考古学や文化財に関する分野の修士論文を作成するために必要な発展的な研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員が成果と課題についてコメントする。適宜、学外授業を行う。毎時間、各自1回以上は発言すること。発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	特になし。				

科目名	考古学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	考古資料による日本歴史及び文化財保護の総括的研究				
到達目標	修士論文の完成				
授業概要	この演習（M2）は、考古学や文化財に関する分野の修士論文を完成するために必要な総括的な研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員が成果と課題についてコメントする。適宜、学外授業を行う。毎時間、各自1回以上は発言すること。発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	特になし。				

科目名	考古学演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする				
到達目標	考古学的手法を用いた研究さらにその先にある論文作成をめざし、自分の研究主題を多角的にとらえる				
授業概要	大学院では、これまでの大学生活や卒業論文作成を通じて生まれたそれぞれの研究テーマをさらに発展させ、より大きな視点に基づいて問題点を解決し、論理的な文章と図版による論文という形で具現化することをめざします。この演習（博士前期課程1年生）では、これまでの研究を振り返り、それまでの成果を俯瞰し、多角的に把握することを目的とします。それぞれの発表やそれを踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料を中心とした文化財への理解もさらに深めます。				
評価方法・基準	学習到達度 60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点 40%（演習への積極性）で評価する。				
履修上の注意事項等	授業での発表や議論のなかで適宜問題点や課題などコメントします。レポートにはコメントをつけて返却します。履修人数によっては合間に講義や学外講義が追加されることもあります。発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし。				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする				
到達目標	考古学的手法を用いた研究さらにその先にある論文作成をめざし、自分の研究主題を深く掘り下げるだけでなく、なぜそれを研究するのかという研究の意義をアウトプットする。どのように研究を進めるか方向性を模索し、修士論文の作成に備える。				
授業概要	この演習（1年生）では、考古学演習Ⅰ（二）での成果を踏まえ、自身のテーマについての研究の現状や問題点を深く把握することを目的とします。自分の課題についてプレゼンテーションをおこない、それをふまえて教員および学生全員で議論することを繰り返し、自分のテーマを掘り下げていきましょう。同時に、自分の知識や思考を他者に明確に伝えるプレゼンテーションや資料についてのブラッシュアップもさらに目指します。また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料を中心とした文化財への理解もさらに深めます。				
評価方法・基準	学習到達度 60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点 40%（演習への積極性）で評価する。				
履修上の注意事項等	授業での発表や議論のなかで適宜問題点や課題などコメントします。レポートにはコメントをつけて返却します。履修人数によっては合間に講義や学外講義が追加されることもあります。発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし。				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする				
到達目標	考古学的手法を用いた研究を進め、修士論文の制作にとりかかる				
授業概要	この演習（2年生）では、1年次に履修した考古学演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ、修士論文のテーマを設定し、その現状の課題と自身の着眼点を絞ることをめざします。それぞれの発表やそれを踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料への理解もさらに深めていきます。				
評価方法・基準	学習到達度 60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点 40%（演習への積極性）で評価する。				
履修上の注意事項等	授業での発表や議論のなかで適宜問題点や課題などコメントします。レポートを課した場合にはコメントをつけて返却します。履修人数によっては合間に講義や学外講義が追加されることもあります。発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし。				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする				
到達目標	考古学的手法を用いた研究を進め、修士論文を完成させる				
授業概要	この演習（2年生）では、1年次に履修した考古学演習Ⅰ・Ⅱおよび2年次前期考古学演習Ⅲでの成果を踏まえ、自分のテーマについて掘り下げ、修士論文の完成をめざします。途中経過とその時点での課題を発表によって、確認しながら論文作成を進めていきます。発表を踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料への理解もさらに深めていきます。				
評価方法・基準	学習到達度 60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点 40%（演習への積極性）で評価します。				
履修上の注意事項等	授業での発表や議論のなかで適宜問題点や課題などコメントします。レポートを課した場合にはコメントをつけて返却します。履修人数によっては合間に講義や学外講義が追加されることもあります。発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし。				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古学の研究方法を学ぶ				
到達目標	考古学の研究方法を学びながら、学位論文の主題を探す				
授業概要	遺構や遺物から人間の過去を解明する考古学では、あらゆる時代・地域の考古資料が研究対象となる。この演習では、各自が興味をもつ分野を探し、対象とする考古資料の概要を把握する。また、研究史を調べて課題を抽出し、独自の研究方法を探る。発表担当者は事前に1枚程度の資料を作成する。主題となる論文がある場合は事前に提示し、参加者は読んでおくこと。発表に基づき全員で議論し、考古学の研究方法を身に付ける。遺跡や博物館の見学も行い、考古資料の見方を学ぶ。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A41枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古学の研究方法を習得し、学位論文に備える				
到達目標	考古学の研究方法を学びながら、学位論文の主題を決定する				
授業概要	考古学の研究を進めるためには、まず文献を参照して資料を集めなくてはならない。その方法を学び、実践する。集成が進めば、独自の観点から分析が可能となる。発表と議論を通じて分析の方法を探す。なお、新たな分析方法は実物資料を見なければ見いだせない場合が多い。遺跡や博物館見学を行い、モノを見る目を養う。発表は1回に2名ずつ行う。事前に資料を作成し、それに基づいて議論する。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A41枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	2
テーマ	学位論文の作成				
到達目標	学位論文を軌道に乗せる				
授業概要	考古学の論文は文章と図版から成り立っている。この演習では、1年間かけて学位論文を完成できるよう、論文の書き方と図版の作り方を学ぶ。また、作業の途中経過を発表して相互に議論し、論文の質を高める。発表は1回に2名行う。事前に1枚程度の資料を作成し、それに基づいて全員で議論する。また、遺跡や博物館を見学し、考古資料への理解を深める。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A41枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	2
テーマ	学位論文の作成				
到達目標	学位論文を完成させる				
授業概要	前期の演習Ⅲの成果をもとに、学位論文の完成を目指す。作業の途中経過を発表して相互に議論し、論文の質を高める。文章表現、注と参考文献、図版のキャプションなど論文の細部についても適宜指導する。発表は1回に2名ずつ行う。事前に1枚程度の資料を作成し、それに基づいて全員で議論する。論文提出後には事後指導を行う。また、遺跡や博物館を見学し、考古資料への理解を深める。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A41枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等	口述試問で講評する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	美術工芸史学演習Ⅰ（一）		期間	前期	
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題				
到達目標	日本文化の核となる宗教文化の表象である宗教美術について、多岐にわたる知識を獲得し、残されてきた文化財を通して歴史を読み解く視点を自ら構築する力を習得・確立して、論文・レポート作成に結実させる。				
授業概要	彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅰでは特に日本彫刻史の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。				
評価方法・基準	研究発表(40%)、最終時間に提出された論文またはレポート(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	発表内容は逐次コメントし評価する。学外の見学は、美術工芸史学特殊講義Ⅰと合同で行う場合もある。関連の展覧会情報、社寺の文化財特別公開、関連遺物の出土情報等にも注意を払い、この講義が受講者相互の情報交換の場にもなるよう心得ること。				
テキスト	適宜論文やプリントを配布する。				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅱ（一）		期間	後期	
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題				
到達目標	日本文化の核となる宗教文化の表象である宗教美術について、多岐にわたる知識を獲得し、残されてきた文化財を通して歴史を読み解く視点を自ら構築する力を習得・確立して、論文・レポート作成に結実させる。				
授業概要	彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅱでは工芸や絵画も含めた研究上の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。				
評価方法・基準	研究発表(40%)、提出された小論文(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。				
履修上の注意事項等	発表内容は逐次コメントし評価する。学外の見学は、美術工芸史学特殊講義Ⅱと合同で行う場合がある。関連の展覧会情報、社寺の文化財特別公開、関連遺物の出土情報等にも注意を払い、この講義が情報交換の場にもなるよう心得ること。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅲ（一）		期間	前期	
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題				
到達目標	日本文化の核となる宗教文化の表象である宗教美術について、多岐にわたる知識を獲得し、残されてきた文化財を通して歴史を読み解く視点を自ら構築する力を習得・確立して、論文・レポート作成に結実させる。				
授業概要	彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅲでは特に日本彫刻史の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。				
評価方法・基準	研究発表(40%)、最終時間に提出された論文またはレポート(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	発表内容は逐次コメントし評価する。学外の見学は、美術工芸史学特殊講義Ⅰと合同で行う場合もある。関連の展覧会情報、社寺の文化財特別公開、関連遺物の出土情報等にも注意を払い、この講義が受講者相互の情報交換の場にもなるよう心得ること。				
テキスト	適宜論文やプリントを配布する。				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅳ（一）		期間	後期	
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題				
到達目標	日本文化の核となる宗教文化の表象である宗教美術について、多岐にわたる知識を獲得し、残されてきた文化財を通して歴史を読み解く視点を自ら構築する力を習得・確立して、論文・レポート作成に結実させる。				
授業概要	彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅳでは工芸や絵画も含めた研究上の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。				
評価方法・基準	研究発表(40%)、提出された小論文(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。				
履修上の注意事項等	発表内容は逐次コメントし評価する。学外の見学は、美術工芸史学特殊講義Ⅱと合同で行う場合がある。関連の展覧会情報、社寺の文化財特別公開、関連遺物の出土情報等にも注意を払い、この講義が情報交換の場にもなるよう心得ること。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅰ(二)			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	美術史研究の方法				
到達目標	研究テーマを設定し、研究史を把握する。その問題点を整理しながら、研究方法を修得する。				
授業概要	美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅰ(二)では、各自の研究テーマを設定し、その研究史を把握することに努める。具体的には先行論文を講読し、そこから問題点を抽出し、発表する。この作業を通じて、研究方法を修得する。発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。				
評価方法・基準	授業参加度 40% (出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に詳述する)。 発表と発表資料 60% (評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。				
履修上の注意事項等	授業中の発表と発表資料については、担当教員がその場でコメントし評価する。				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅱ(二)			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	美術史研究の方法：倭絵を例として				
到達目標	研究テーマを設定し、研究史を把握する。その問題点を整理しながら、研究方法を修得する。				
授業概要	美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅱでは、各自の研究テーマを設定し、発表を行い、全員で討議する。討議を通じて、お互いの視野を広げ、研究方法を修得する。				
評価方法・基準	授業参加度 40% (出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に詳述する)。 発表と発表資料 60% (評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントし評価する。期間内にレポートを課し、最終授業内で講評を行う。				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅲ(二)			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	美術史研究の方法				
到達目標	研究テーマを設定し、研究史を把握する。その問題点を整理しながら、研究方法を修得する。				
授業概要	美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅲ(二)では、各自の研究テーマを設定し、その研究史を把握することに努める。具体的には先行論文を講読し、そこから問題点を抽出し、発表する。この作業を通じて、研究方法を修得する。発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。				
評価方法・基準	授業参加度 40% (出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に詳述する)。 発表と発表資料 60% (評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。				
履修上の注意事項等	発表と発表資料については、担当教員がその場でコメントし評価する。				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学演習Ⅳ(二)			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	美術史研究の方法				
到達目標	修士論文の完成に向けて、研究方法を修得する。				
授業概要	美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅳでは、各自の研究テーマを設定し、テーマに相応しい方法論を確立することに努める。具体的には研究の経過を発表し、発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。				
評価方法・基準	11月中旬までに草稿を教員に提出し草稿の添削を受けることとその添削による修正を行うこと 100%				
履修上の注意事項等	草稿を添削する。				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する。				

科目名	保存修復学演習Ⅰ（一）		期間	前期	
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の科学調査と科学的保存処理・修復の実例を講義し、知識の向上と研究の課題を探る。				
到達目標	文化財の保存修復の知識と経験をつみ、自己の研究を深める。				
授業概要	文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。				
評価方法・基準	研究発表の内容（50%）・期末レポートの内容（50%）による評価を行なう。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については、発表直後にコメントすると共に評価する。また、広く関連研究についてアドバイスする。レポートは添削後、個別面談して問題点を指摘する。講義と共に、実際の文化財を対象とした分析・保存修復を行うので連続性が重要になる。段階的な知識と経験が必要になるので、欠席しないこと。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅱ（一）		期間	後期	
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財保存修復の先端的な研究課題				
到達目標	文化財保存修復の現状を理解し、問題意識を持って自己の調査・研究の方法を確立し、自己の研究課題を論文作成に結実させる。				
授業概要	文化財の保存修復の方法と共に、分析・保存修復の先端的な研究方法について学ぶ。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視する。講義を通じて自己の研究課題を明確にすると共に研究者としての自立を促す。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。				
評価方法・基準	評価方法は、課題の充実度やレポートを総合的に評価する。評価基準は質問など平常時の取り組み姿勢（30%）・課題の達成度（30%）・レポートの論理性（40%）を評価して総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	提出されたレポート・レジュメ等は、発表直後にコメントすると共に評価する。また、広く関連研究についてアドバイスする。レポートは添削後、オフィスアワーや次回以降の授業時に返却する。講義と共に、実際の文化財を対象とした分析・保存修復を行うので連続性が重要になる。段階的な知識と経験が必要になるので、欠席しないこと。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅲ（一）		期間	前期	
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財の科学調査と科学的保存処理・修復の実例を講義し、知識の向上と研究の課題を探る。さらに研究成果を自己の研究に応用する。				
到達目標	文化財の保存修復の知識と経験をつみ、自己の研究を深め、自己の研究を発展させる。				
授業概要	文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。				
評価方法・基準	研究発表の内容（50%）・期末レポートの内容（50%）による評価を行なう。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については、発表直後にコメントすると共に評価する。また、広く関連研究についてアドバイスする。レポートは添削後、個別面談して問題点を指摘する。講義と共に、実際の文化財を対象とした分析・保存修復を行うので連続性が重要になる。段階的な知識と経験が必要になるので、欠席しないこと。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅳ（一）		期間	後期	
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財保存修復の先端的な研究課題に触れて、自己の研究に結実させる。				
到達目標	文化財保存修復の現状を理解し、問題意識を持って自己の調査・研究の方法を確立し、自己の研究課題を論文作成に結実させる。				
授業概要	文化財の保存修復の方法と共に、分析・保存修復の先端的な研究方法について学ぶ。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視する。講義を通じて自己の研究課題を明確にすると共に研究者としての自立を促す。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。				
評価方法・基準	評価方法は、課題の充実度やレポートを総合的に評価する。評価基準は質問など平常時の取り組み姿勢（30%）・課題の達成度（30%）・レポートの論理性（40%）を評価して総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	提出されたレポート・レジュメ等は、発表直後にコメントすると共に評価する。また、広く関連研究についてアドバイスする。レポートは添削後、オフィスアワーや次回以降の授業時に返却する。講義と共に、実際の文化財を対象とした分析・保存修復を行うので連続性が重要になる。段階的な知識と経験が必要になるので、欠席しないこと。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅰ（二）		期間	前期	
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする。				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる。				
授業概要	文化財の保存、特に保存環境について、さまざまな事例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的におこないたい。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）、期末レポート（各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。レポートについては添削・評価の後に、オフィスアワーなどで返却する。文化財の保存・修復に関する最新情報を常に注視しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	保存修復学演習Ⅱ（二）		期間	後期	
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする。				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる。				
授業概要	文化財の保存、特に保存環境について、さまざまな事例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的におこないたい。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）、期末レポート（各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。レポートについては添削・評価の後に、オフィスアワーなどで返却する。文化財の保存・修復に関する最新情報を常に注視しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	保存修復学演習Ⅲ（二）		期間	前期	
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする。				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる。				
授業概要	これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。				
テキスト	なし				
参考書	随時紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅳ（二）		期間	後期	
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする。				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる。				
授業概要	これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。				
テキスト	なし				
参考書	随時紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅰ（三）		期間	前期	
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる				
授業概要	文化財の保存について、さまざまな実例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的におこないたい。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）、期末レポート（各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価）などを総合して評価する				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。レポートについては添削・評価の後に、オフィスアワーなどで返却する。文化財の保存・修復に関する最新情報を常に注視しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	保存修復学演習Ⅱ（三）		期間	後期	
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる				
授業概要	文化財の保存について、さまざまな実例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的におこないたい。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）、期末レポート（各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価）などを総合して評価する				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。レポートについては添削・評価の後に、オフィスアワーなどで返却する。文化財の保存・修復に関する最新情報を常に注視しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	保存修復学演習Ⅲ（三）		期間	前期	
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる				
授業概要	これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）などを総合して評価する				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。				
テキスト	なし				
参考書	随時紹介する。				

科目名	保存修復学演習Ⅳ（三）		期間	後期	
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己の研究課題を明確にする				
到達目標	文化財保存の現場における課題を学ぶことによって、自己の研究課題に取り組み論文作成に結実させる				
授業概要	これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。				
評価方法・基準	研究発表の内容（内容の充実度で評価）、日常の研究態度（活発に討論に参加できているかなどを評価）などを総合して評価する				
履修上の注意事項等	講義中の発表については発表直後にコメントする。				
テキスト	なし				
参考書	随時紹介する。				

科目名	文献史学(日本史)特殊講義A(一)	期間	前期		
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『令集解』の研究				
到達目標	日本古代の法制史料を読み、史料読解力の向上を目指す。				
授業概要	法制史料の一つ『令集解』を取り上げます。同書は平安時代に惟宗直本が編纂した養老律令の注釈書の集成で、古代史を研究する際の基本的な史料の一つです。戸令部分を継続して読み進めながら、古代史料の読解力を深めていきます。戸令部分を読み終えたら、引き続き賦役令部分を読み進める予定ですが、受講生の希望があれば、相談の上、読む篇目を決めます。				
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントします。日本古代史以外を専攻する大学院生の履修も可とします。テキストはプリントを配布します。また、必要な関連史料をその都度配布する予定です。				
テキスト					
参考書					

科目名	文献史学(日本史)特殊講義A(二)	期間	後期		
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『令集解』の研究				
到達目標	日本古代の法制史料を読み、史料読解力の向上を目指す。				
授業概要	法制史料の一つ『令集解』を取り上げます。同書は平安時代に惟宗直本が編纂した養老律令の注釈書の集成で、古代史を研究する際の基本的な史料の一つです。賦役令部分を継続して読み進めながら、古代史料の読解力を深めていきます。なお、受講生の希望があれば、相談の上、読む篇目を決めます。				
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントします。日本古代史以外を専攻する大学院生の履修も可とします。テキストはプリントを配布します。また、必要な関連史料をその都度配布する予定です。				
テキスト					
参考書					

科目名	文献史学(日本史)特殊講義A(三)	期間	前期		
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『類聚三代格』を読む				
到達目標	8～9世紀の法政史料の読解力を身につける				
授業概要	『類聚三代格』は律令支配体制およびその変容を研究するための基礎史料の一つである。授業では発表担当者を割り当てて輪読する。発表者には単に割り当てられた史料を読解するだけでなく、参考文献や関連史料を読み進めながら、史料に関する歴史事象を考察して発表することを課す。				
評価方法・基準	発表内容(40%)と期末レポート(60%)で評価する。いずれも史料読解と先行研究の把握、独自視角からの考察ができていないかを評価する。				
履修上の注意事項等	毎回、発表に対する指導を行う。レポートにコメントをつけて返却する。輪読史料は、履修者の研究課題に即して相談の上で割り当てる。発表者以外も必ず当該史料を予習し、履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	文献史学(日本史)特殊講義A(四)	期間	後期		
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	『小右記』を読む				
到達目標	貴族が記した古記録を読み、摂関期の貴族社会について理解を深める。				
授業概要	『小右記』は藤原実資が10～11世紀に記した日記で、摂関政治全盛期の貴族社会の様相が詳細に記されている。これを講読することで、貴族社会の政治・有職故実・文化・宗教などの実態に触れることができる。また、『小右記』は他の古記録に比べて文体も整っており、古記録の学習を始めるに相応しいテキストである。授業では、学生に輪読部分を割り当てて、輪読しその内容に沿ってディスカッションしながら摂関期の貴族社会について理解を深める。				
評価方法・基準	発表内容(40%)と期末レポート(60%)で評価する。いずれも史料読解と先行研究の把握、独自視角からの考察ができていないかを評価する。				
履修上の注意事項等	毎回、発表に対する指導を行う。レポートにコメントをつけて返却する。摂関期についての基礎的な知識と漢文の知識が必要である。不安がある場合は、概説書などであらかじめ学習しておくこと。文献史学(日本史)特殊講義A(三)とあわせて履修するのが望ましい。テキストは必要に応じてプリントを配付する。履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	プリント配付。				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	文献史学(日本史)特殊講義B(一)	期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	西園寺公衡の日記を読む		
到達目標	鎌倉時代の公家日記の写本(宮内庁書陵部所蔵)を素材に、筆写本の読解力を向上させること。		
授業概要	同日記のなかからとくに鎌倉幕府との交渉にかかる記事を中心に抄出しテキストとし、読み込んでいく。		
評価方法・基準	史料読解の精度を各回評点化し、その総合点による。		
履修上の注意事項等	史料講読の授業については、予習が事実上の課題であり、授業がそのフィードバックにあたると思っている。授業内での質疑応答では不十分であれば、オフィス・アワー、その他の時間帯で面談の機会をつくる。研究者としてのプライドを授業のなかで示してほしい。		
テキスト	テキスト資料を配布する。		
参考書	史料纂集古記録編 公衡公記1 橋本義彦・今江廣道 八木書店 2014 978-4-840632881		

科目名	文献史学(日本史)特殊講義B(二)	期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	『吾妻鏡』文永二年条、三年条を読む		
到達目標	中世の記録史料の読解能力を高め、また読解から得た知見を各人の研究資源とする。		
授業概要	国史大系本を輪読していく。		
評価方法・基準	史料読解の精度を各回評点化し、その総合点による。		
履修上の注意事項等	史料講読の授業については、予習が事実上の課題であり、授業がそのフィードバックにあたると思っている。授業内での質疑応答では不十分であれば、オフィス・アワー、その他の時間帯で面談の機会をつくる。独立した研究者としての自覚をもって授業に臨んでほしい。		
テキスト	テキスト資料を配布する。		
参考書	授業中に紹介する。		

科目名	文献史学(日本史)特殊講義B(三)	期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	近世史料の読解と歴史的背景の基礎的研究		
到達目標	近世奈良の未翻刻史料を読み進めていくことで当該期の政治・文化史的理解を深める。		
授業概要	近世の奈良で書かれた史料(『庁中漫録』)を読み進めていく。毎回、担当者を決めて「くずし字」で書かれた史料を順に読み進め、内容について討論をする。特殊講義であるが一方的な講義ではなく、受講生の発表と討論を軸に進めていく。積極的な参加を求める。		
評価方法・基準	報告(70%) 報告内容の充実度を重視する 受講態度(30%) 討論の参加への積極性を重視		
履修上の注意事項等	授業中の発表や討論での発言について、担当教員がその場でコメントをし評価する。毎回、担当者には報告をしてもらい、討論をしながら理解を深めていきたいと考えている。十分時間をかけて準備し読み込むこと。最低限のくずし字読解スキルは必要。		
テキスト	担当者がプリント配布。		
参考書			

科目名	文献史学(日本史)特殊講義B(四)	期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	奈良町触史料の読解と歴史的背景の基礎的研究		
到達目標	18世紀はじめの奈良の町触を読み進めていくことで当該期の政治・文化史的理解を深める。		
授業概要	18世紀に出された奈良の町触れを読み進めていく。毎回、担当者を決めて「くずし字」で書かれた史料を順に読み進め、内容について討論をする。特殊講義であるが一方的な講義ではなく、受講生の発表と討論を軸に進めていく。積極的な参加を求める。		
評価方法・基準	報告(70%) 報告内容の充実度を重視する 受講態度(30%) 討論の参加への積極性を重視		
履修上の注意事項等	授業中の発表や討論での発言について、担当教員がその場でコメントをし評価する。毎回、担当者には報告をしてもらい、討論をしながら理解を深めていきたいと考えている。十分時間をかけて準備し読み込むこと。最低限のくずし字読解スキルは必須。		
テキスト	担当者がプリント配布		
参考書			

科目名	文献史学(日本史)特殊講義C(三)		期 間	前期	
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	史料読解にもとづく大正期・昭和初期の総合的基礎研究				
到達目標	当時の史料に即して、政治史、外交史、経済史、社会・文化史の各分野を広く見渡して、時代の全体像に迫る姿勢と作法を高める。				
授業概要	この講義では、対象時期を大正期・昭和初期（1910年代～1930年代初め）に絞り込んだ上で、公文書および個人の日記を読んでいく。毎回、担当者を割り当てて、指定された史料の内容について発表し、参加者全員で討議する。特殊講義ではあるが、発表・討論形式で進めていく。				
評価方法・基準	発表内容と討議への参加度40%、中間レポート30%、期末レポート30%を総合して評価する。発表とレポートいずれも、史料内容の理解度、史料輪読を通じての気づきと発見した問いの妥当性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	日々の発表では教員からコメントすると同時に、中間・期末のレポートには教員からのコメントを記して返却する。この講義では毎回、担当者に発表してもらった上で全員で内容について討議するので、事前に配布する史料を必ず読んでおくこと。				
テキスト	教員が指定・配布する史料。				
参考書	授業中に適宜指示する。				

科目名	文献史学(日本史)特殊講義C(四)		期 間	後期	
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	史料読解にもとづく昭和戦前・戦時期と敗戦後の総合的基礎研究				
到達目標	当時の史料に即して、政治史、外交史、経済史、社会・文化史の各分野を広く見渡して、時代の全体像に迫る姿勢と作法を高める。				
授業概要	この講義では、対象時期を昭和戦前期・戦時期と敗戦後（1930年代・40年代）に絞り込んだ上で、公文書および個人の日記を読んでいく。毎回、担当者を割り当てて、指定された史料の内容について発表し、参加者全員で討議する。特殊講義ではあるが、発表・討論形式で進めていく。				
評価方法・基準	発表内容と討議への参加度40%、中間レポート30%、期末レポート30%を総合して評価する。発表とレポートいずれも、史料内容の理解度、史料輪読を通じての気づきと発見した問いの妥当性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	日々の発表では教員からコメントをすると同時に、中間・期末のレポートには教員からのコメントを記して返却する。この講義では毎回、担当者に発表してもらった上で全員で内容について討議するので、事前に配布する史料を必ず読んでおくこと。				
テキスト	教員が指定・配布する史料。				
参考書	授業中に適宜指示する。				

科目名	文献史学(外国史)特殊講義(一)		期 間	前期	
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	海からみた東アジア				
到達目標	海を通じた交流を鍵として、日本を含む東アジア諸国の歴史に対する理解を深め、世界史上におけるその位置づけを探る。				
授業概要	近代以前の日本と東アジア諸国の関係を主題とする学術論文を精読し、主要学説を体系的に紹介・検討する。前期は東アジア国際関係の枠組みと具体的な外交に焦点を当て、東アジアからみた世界史、そして世界史からみた日本という多角的な考察の視点を提供する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)特殊講義(二)		期 間	後期	
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	海からみた東アジア				
到達目標	海を通じた交流を鍵として、日本を含む東アジア諸国の歴史に対する理解を深め、世界史上におけるその位置づけを探る。				
授業概要	近代以前の日本と東アジア諸国の関係を主題とする学術論文を精読し、主要学説を体系的に紹介・検討する。後期は海賊や戦乱など軍事的側面に焦点を当て、東アジアからみた世界史、そして世界史からみた日本という多角的な考察の視点を提供する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学(外国史)特殊講義(五)	期 間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2
		配当年次	1・2
テ ー マ	グローバルヒストリーとユーラシア大陸近現代史		
到達目標	①グローバルヒストリー、比較史、関係史における学術アプローチを理解する。 ②授業テーマに関する英語研究文献を読解できる。		
授業概要	近現代世界史の展開とその結果として存在する現在の世界が、ユーラシア大陸における様々な帝国建設、国家建設、文化建設の競合のなかでつくられてきたことを論じるテキスト（ジョン・ダーウィン『ティムール以後』）を手掛かりに、15～18世紀の世界史を検討してゆきます。		
評価方法・基準	・各回ともテキストをまとめた「レジュメ」を作成して授業に臨むこと。「レジュメ」の準備度合いと適切さを評価する。 ・各回授業後、「授業まとめ」を作成すること。「授業まとめ」の適切さを評価する。		
履修上の注意事項等	・「レジュメ」については、授業のなかでコメントする。 ・「授業のまとめ」は、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。テキストの入手については授業開始後、指示します。		
テキスト	なし		
参考書	ティムール以後（上） ジョン・ダーウィン 国書刊行会 2020 9784336065742		

科目名	文献史学(外国史)特殊講義(六)	期 間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2
		配当年次	1・2
テ ー マ	グローバルヒストリーとユーラシア大陸近現代史		
到達目標	①グローバルヒストリー、比較史、関係史における学術アプローチを理解する。 ②授業テーマに関する英語研究文献を読解できる。		
授業概要	近現代世界史の展開とその結果として存在する現在の世界が、ユーラシア大陸における様々な帝国建設、国家建設、文化建設の競合のなかでつくられてきたことを論じるテキスト（ジョン・ダーウィン『ティムール以後』）を手掛かりに、19、20世紀の世界史を検討してゆきます。		
評価方法・基準	・各回ともテキストをまとめた「レジュメ」を作成して授業に臨むこと。「レジュメ」の準備度合いと適切さを評価する。 ・各回授業後、「授業まとめ」を作成すること。「授業まとめ」の適切さを評価する。		
履修上の注意事項等	・「レジュメ」については、授業のなかでコメントする。 ・「授業のまとめ」は、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。テキストの入手については授業開始後、指示します。		
テキスト	なし		
参考書	ティムール以後（下） ジョン・ダーウィン 国書刊行会 2020 9784336065759		

科目名	考古学特殊講義A（一）	期 間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2
		配当年次	1・2
テ ー マ	考古学研究の実践		
到達目標	日本を中心として先史以降の建築表現及びそれにかかわる考古資料を通じて建築の表象性の変遷について理解する		
授業概要	建物のうち最もよく目立つ屋根部分には古くからその建物が帯びる性格を表す記号が付されてきました。発掘調査では検出されることが極めて稀な屋根ですが、考古資料に加えて絵画資料や工芸資料もあわせて援用することで、その表象性の変遷を追求し、その歴史的背景について考えます。		
評価方法・基準	毎回記入してもらうコメントシートや小レポートで理解度や授業への積極性を測り、評価する。		
履修上の注意事項等	コメントシートや小レポートに適宜コメントするほか、次回の授業にて補足説明するなど対応します。		
テキスト	なし		
参考書	『建築を表現する—弥生時代から平安時代まで—』 岩戸晶子 奈良国立博物館 2008		

科目名	考古学特殊講義B（一）	期 間	前期
担当教員	小林 青樹	単位数	2
		配当年次	1・2
テ ー マ	先史・古代の紡錘車、繊維・布・織物・編物に関する研究について、諸外国(欧米)の外国語文献を購読し、当該研究の方法や世界における繊維・布・織物・編物の変遷の歴史を学ぶ。		
到達目標	先史・古代の紡錘車、繊維・布・織物・編物に関する諸外国(欧米)の研究について理解し応用力を養う。		
授業概要	人類は、誕生以来、身に衣をまとい、あるいは生活のなかでものの保管や移動のためなどに繊維・布・織物・編物を利用してきた。こうした繊維・布・織物・編物という物質文化は、世界に普遍的に見られるものであり、我が国の先史時代や古代においても同じであった。授業では、こうした繊維・布・織物・編物に関する世界の研究に目を向け、研究方法や歴史について概観する。そして、実施に、分析機器を用いて布資料の観察と分析を行う。		
評価方法・基準	小レポート 60%、レポート 40%（講義を通じて学んだ内容について段階を踏んで理解できているか）。特にオリジナリティを評価する。		
履修上の注意事項等	レポートの課題は、講義の途中で詳しく説明する。博物館や実習室などで作業を行う場合がある。また、授業内容は変更する場合がある。なお、後期の特殊講義B(二)を続けて履修することが望ましい。また、英語の文献購読が中心になるので、英語の辞書類は必ず持参すること。また、基本的に受講者は毎回日本語訳を行うので、講義までに各自の分担部分の日本語訳を作成し、配布資料を準備しておくこと。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	考古学特殊講義B(二)		期間	後期	
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	先史・古代の紡錘車、繊維・布・織物・編物に関する研究について、諸外国(アジア)の外国語文献を購読し、当該研究の方法や世界における繊維・布・織物・編物の変遷の歴史を学ぶ。				
到達目標	先史・古代の紡錘車、繊維・布・織物・編物に関する諸外国(アジア)の研究について理解し応用力を養う。				
授業概要	人類は、誕生以来、身に衣をまとい、あるいは生活のなかでものの保管や移動のためなどに繊維・布・織物・編物を利用してきた。こうした繊維・布・織物・編物という物質文化は、世界に普遍的に見られるものであり、我が国の先史時代や古代においても同じであった。授業では、こうした繊維・布・織物・編物に関する世界のなかでも日本を含めたアジアの研究に目を向け、研究方法や歴史について概観する。そして、実施に、分析機器を用いて布資料の観察と分析を行う。				
評価方法・基準	小レポート60%、レポート40%(講義を通じて学んだ内容について段階を踏んで理解できているか)。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	レポートの課題は、講義の途中で詳しく説明する。博物館や実習室などで作業を行う場合がある。また、授業内容は変更する場合がある。なお、後期の特殊講義B(二)を続けて履修することが望ましい。また、中国語の文献購読も行うので、中国語の辞書類は必ず持参すること。また、基本的に受講者は毎回日本語訳を行うので、講義までに各自の分担部分の日本語訳を作成し、配布資料を準備しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する。				

科目名	考古学特殊講義C(一)		期間	前期	
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東アジア世界から見た弥生時代社会の成立				
到達目標	国際的な視点から弥生文化の成立を見直す				
授業概要	弥生文化の成立には、朝鮮半島や中国からの影響が大きく作用した。その実態を、遺跡と遺物から検証する。				
評価方法・基準	講義の内容に関するレポート(A4・1枚程度)に、授業中の質問・発言等を加味する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特殊講義C(二)		期間	後期	
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東アジア世界から見た古墳時代社会の成立				
到達目標	国際的な視点から古墳時代の成立を見直す				
授業概要	古墳時代の成立には、朝鮮半島や中国からの影響が大きく作用した。その実態を、遺跡と遺物から検証する。				
評価方法・基準	講義の内容に関するA4・1枚程度のレポートに、授業中の質問・発言等を加味する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特殊講義C(三)		期間	前期	
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	飛鳥・藤原の王宮・王都・寺院・古墳から探る律令国家の形成過程(1)				
到達目標	飛鳥・藤原地域の研究から、考古学における歴史研究の方法論を理解する。				
授業概要	考古資料を素材に多面的な検討を行い、総合的に飛鳥の王宮・王都を解明することにより、律令国家の形成過程を解明する。また、多方面からアプローチするこの研究法は、考古学における歴史研究の方法論を模索するモデルケースとなる。				
評価方法・基準	不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。				
履修上の注意事項等	授業中にレポートの成果と課題についてコメントする。様々なアプローチ法による、研究の進め方を学ぶことが重要である。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	古代飛鳥の都市構造 相原嘉之 吉川弘文館 2017 飛鳥・藤原の宮都を語る 相原嘉之 吉川弘文館 2019 飛鳥・藤原京と古代国家形成 相原嘉之 吉川弘文館 2023				

科目名	考古学特殊講義C (四)		期間	後期	
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	飛鳥・藤原の王宮・王都・寺院・古墳から探る律令国家の形成過程(2)				
到達目標	飛鳥・藤原地域の研究から、考古学における歴史研究の方法論を理解する。				
授業概要	考古資料を素材に多面的な検討を行い、総合的に飛鳥の王宮・王都を解明することにより、律令国家の形成過程を解明する。また、多方面からアプローチするこの研究法は、考古学における歴史研究の方法論を模索するモデルケースとなる。				
評価方法・基準	不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。				
履修上の注意事項等	授業中にレポートの成果と課題についてコメントする。様々なアプローチ法による、研究の進め方を学ぶことが重要である。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	古代飛鳥の都市構造 相原嘉之 吉川弘文館 2017 飛鳥・藤原の宮都を語る 相原嘉之 吉川弘文館 2019 飛鳥・藤原京と古代国家形成 相原嘉之 吉川弘文館 2023				

科目名	美術工芸史学特殊講義(二)		期間	後期	
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本美術史研究				
到達目標	高度な美術史研究に資する専門知識、方法論及び、作品の精査と、それに基づく研究法を習得する。				
授業概要	作品に関する様々なアプローチを可能とするための方法を習得する。彫刻史と地域史という観点を念頭において考察を進めるが、最終的には履修者との相談で内容の修正を行ったうえで決定する。				
評価方法・基準	課題発表の内容(50%)、研究状況報告(50%)によって評価する。各自が取り上げた作品について、問題点を設定し、実証的・論理的に解決への道筋が付けられているかを評価の重要ポイントとする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	発表内容は逐次コメントし評価する。論文は別途時間を設け、個別相談により進める。博士論文の完成が目標である。可能な限り目標に近づくよう、日々資料を収集し、論文内容の向上をはかること。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書					

科目名	美術工芸史学特殊講義(一)		期間	前期	
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本美術史研究				
到達目標	高度な美術史研究に資する専門知識、方法論及び、作品の精査と、それに基づく研究法を習得する。				
授業概要	作品に関する様々なアプローチを可能とするための方法を習得する一環として、前期は主として彫刻作品を念頭において考察を進めるが、最終的には履修者との相談で内容の修正を行ったうえで決定する。				
評価方法・基準	課題発表の内容(50%)、研究活動の報告(50%)によって評価する。各自が取り上げた作品について、問題点を設定し、実証的・論理的に解決への道筋が付けられているかを評価の重要ポイントとする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	発表内容は逐次コメントし評価する。論文は別途時間を設け、個別相談により進める。博士論文の完成が目標である。可能な限り目標に近づくよう、日々資料を収集し、論文内容の向上をはかること。				
テキスト	適宜、プリントを配布する。				
参考書	その都度、指示する。				

科目名	美術工芸史学特殊講義(三)		期間	前期	
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本絵画の技法について				
到達目標	日本絵画の技法に関する知識を得、各人の専攻に応用できるようにする。				
授業概要	対面講義を行う。日本美術史上の代表的な作品の内容、様式、制作の状況などを復習し、それぞれの作品のもつ研究課題を講説する。各人の研究課題を持ち寄り、技法上の問題を検討することも予定している。順番は見学すべき展覧会の状況によって入れ替わる可能性がある。				
評価方法・基準	授業参加度40%(出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に配付する)。レポート60%(評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。				
履修上の注意事項等	課題評価は次回講義中にコメントする。内容については受講者の専攻分野によって若干変更する場合がある。				
テキスト	プリント配布。				
参考書	日本画 名作から読み解く技法の謎 東京藝術大学大学院保存修復日本画研究室 武蔵野美術大学出版局 2015 9784418142330 宗達の謎:「たらし込み」はどのように生まれたか 大竹卓民 日貿出版社 2021 9784817021632 雪舟展 https://www.kyohaku.go.jp/jp/exhibitions/special/sesshu_2024/ 京都国立博物館特別展 空海展 https://www.narahaku.go.jp/exhibition/special/special_exhibition/202404_kukai/ 奈良国立博物館特別展				

科目名	美術工芸史学特殊講義（四）			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	説話画とテキスト				
到達目標	絵巻物のように詞書に依拠する絵画であっても、絵画特有の論理がある。大画面説話画も含むナラティブペインティングとテキストの関係についての理解を深める。				
授業概要	絵巻物や大画面説話画の代表的な作品の内容、絵画様式、制作の状況などを講説する。				
評価方法・基準	授業参加度 40%（出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に配付する）。レポート 60%（評価基準については講義中にチェックリストを配付する）。				
履修上の注意事項等	レポートは、添削指導を行う。特に無し。				
テキスト	なし				
参考書	適宜指示する。				

科目名	保存修復学特殊講義（一）			期間	前期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の保存修復				
到達目標	文化財保存環境の研究、さまざまな文化財の保存修復と科学分析の諸例を概観し、文化財の研究と未来への伝承の方法・理念を構築する。				
授業概要	文化財保存環境のさまざまな要因ごとの研究、文化財の種別ごとに保存修復、科学分析の実例を講義し、文化財保存・継承のあるべき姿を探究する。現地見学もおこなう。				
評価方法・基準	日常の研究態度（授業に対する積極性、講義中の質問などを重視）、期末レポート（各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。実習をともなう連続した内容の講義なので欠席しないこと。保存修復学特殊講義（二）とともに履修することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	保存修復学特殊講義（二）			期間	後期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財の保存修復				
到達目標	文化財保存環境の研究、さまざまな文化財の保存修復と科学分析の諸例を概観し、文化財の研究と未来への伝承の方法・理念を構築する。				
授業概要	文化財保存環境のさまざまな要因ごとの研究、文化財の種別ごとに保存修復、科学分析の実例を講義し、文化財保存・継承のあるべき姿を探究する。				
評価方法・基準	日常の研究態度（授業に対する積極性、講義中の質問などを重視）、期末レポート（各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。実習をともなう連続した内容の講義なので欠席しないこと。保存修復学特殊講義（一）とともに履修することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	文化財史料学特殊講義（一）			期間	前期
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財防災論—社会環境と法制度、および防災対策の基本				
到達目標	災害から文化財をまもるための課題について学ぶ。①地域文化財の災害から守るための社会環境の構築と法制度への理解を深め②災害への備えとしての防災対策を作成する能力を身につける				
授業概要	文化財は、歴史的にさまざまな環境変化の中で存在し、今日に伝えられたものであるが、自然災害の発生は一瞬にして歴代の人びとの努力を打ち砕き、文化財を喪失する可能性を持っている。人びとが被災し、人命さえ失われ、社会が「文化財どころではない」という状況においても、文化財の専門家としての決心を持ち、救済・復旧活動を実施できる人材となる。本講座は、大学院に進み諸分野の専門家を目指す諸君を対象として、自然災害についての知識と対応のための判断力を身に付け、確固たる理念を培うことを目的とする。				
評価方法・基準	数回程度課題についてのレポートを課す。6回以上欠席した者、最終の成績判定レポートの提出を怠った者には単位を認めない。				
履修上の注意事項等	提出された課題レポートに対しては、ポータルサイトやメールでの応答を行う。文化財防災はただ被災文化財の救出活動のことを言うのではない。文化財保護制度、地域社会の課題、人びとの暮らしなど、すべてを理解している必要がある。個別のテーマに偏った理解とならないよう、欠席せずに聴講し、成績判定レポートを提出してもらいたい。				
テキスト	毎回、資料を配布する。				
参考書	随時、講義で紹介する。 独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターに関する情報 https://ch-drm.nich.go.jp/				

科目名	文化財史料学特殊講義（二）		期間	後期	
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	実学の文化財				
到達目標	文化財はほんらい極めて制度的なものである。それを社会のために活かすには①文化財は総合の学である②文化財は人びとがひとしく親しむものであるという観点が必要である。このことを理解し、その具体的な方法を知ること目標とする。				
授業概要	社会が変わり、人びとのライフスタイルが変わるとき、文化財のあり方、その保護のされ方も変わる。また地域の風土や習慣によって、文化財そのものに対する人びとの捉え方は異なる。文化財学は、文化財の歴史に止まらず、文化財の価値観が変遷した理由を知り、その未来を考え、実践的な活用を図るための学問である。本講座は、大学院に進み諸分野の専門家を目指す諸君を対象として、社会のための文化財学の方法について考える。長年にわたる文化財学の実践的経験をもとに授業を行う。				
評価方法・基準	数回程度課題についてのレポートを課す。6回以上欠席した者、最終の成績判定レポートの提出を怠った者には単位を認めない。				
履修上の注意事項等	提出された課題レポートに対しては、ポータルサイトやメールでの応答を行う。文化財学についての総合的な授業を行う。将来において必ず役に立つ内容である。個別のテーマに偏った理解にならないよう、欠席せずに聴講してほしい。				
テキスト	毎回、資料を配布する。				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	情報処理特殊講義（一）		期間	前期	
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財を対象とした画像計測方法、レーザ計測方法、図面化方法について学ぶ。				
到達目標	デジタルアーカイブの基礎知識や応用例、図面化方法を学び、各種計測装置の原理やソフトウェアの操作、3Dプリンタの原理を理解する。				
授業概要	講義形式では、国内外で行われている大型遺跡を対象としたデジタルアーカイブについて、映像を交えて紹介する。また、大型遺跡などを対象にした画像計測、3次元スキャナの原理について概説する。実習形式では、図面化、文化遺産の画像計測、レーザ計測の原理と操作方法、3Dプリンタについて学ぶ。				
評価方法・基準	成績は、レーザ計測課題（30点）、図面化課題（30点）、最終レポート課題（40点）により評価する。各課題は、計測原理を理解し、文化財のデジタル化の課題が明らかにされているかを評価する。				
履修上の注意事項等	提出されたレポート課題に対して、授業中に解説や添削を行う。パソコンの基本操作は、学部で習得しておくこと。				
テキスト	illustratorトレーニングブック CC2018/2017/2015/2014/CC/CS6 対応 広田正康 ソーテック社 018				
参考書	文化財のための三次元計測 金田明大、木本拳周、川口武彦、佐々木淑美、三井猛 岩田書院 2010年 奈良大学 e-learning システム https://e-ln.nara-u.ac.jp/				

科目名	情報処理特殊講義（二）		期間	後期	
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	情報技術を活用した有形・無形文化財のデジタル化に関する基礎知識の習得と応用力を養う。				
到達目標	有形・無形文化財に対するデジタル化に関する基礎知識を学び、様々な画像処理方法や展示パネルの作成方法を学ぶ。				
授業概要	デジタルアーカイブの基本となるカメラの原理の違いについて紹介する。次に、カラーマネジメントについて解説し、さらに、画像処理や展示パネル作成に必要な各種ソフトウェアの操作方法について説明する。最後に、展示パネルの作成方法を解説する。				
評価方法・基準	成績は、カメラの原理に関する課題（20点）、画像処理に関する課題（30点）、カラーマネジメントに関する課題（20点）、展示パネル作成に関する課題（30点）で評価する。各課題は、基本用語の理解、問題点、操作方法、デザイン性などが正しく理解できているかを評価する。				
履修上の注意事項等	レポート内容については、授業内で必要に応じて解説を行う。パソコンの基本操作は、学部で習得しておくこと。				
テキスト	プリント配布。				
参考書	奈良大学 e-learning システム https://e-ln.nara-u.ac.jp				

科目名	情報処理特殊講義（三）		期間	前期	
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財を対象とした画像計測方法、レーザ計測方法、図面化方法について学ぶ。				
到達目標	デジタルアーカイブの基礎知識や応用例、図面化方法を学び、各種計測装置の原理やソフトウェアの操作、3Dプリンタの原理を理解する。				
授業概要	講義形式では、国内外で行われている大型遺跡を対象としたデジタルアーカイブについて、映像を交えて紹介する。また、大型遺跡などを対象にした画像計測、3次元スキャナの原理について概説する。実習形式では、図面化、文化遺産の画像計測、レーザ計測の原理と操作方法、3Dプリンタについて学ぶ。				
評価方法・基準	成績は、レーザ計測課題（30点）、図面化課題（30点）、最終レポート課題（40点）により評価する。各課題は、計測原理を理解し、文化財のデジタル化の課題が明らかにされているかを評価する。				
履修上の注意事項等	提出されたレポート課題に対して、授業中に解説や添削を行う。パソコンの基本操作は、学部で習得しておくこと。				
テキスト	illustratorトレーニングブック CC2018/2017/2015/2014/CC/CS6 対応 広田正康 ソーテック社 018				
参考書	文化財のための三次元計測 金田明大、木本拳周、川口武彦、佐々木淑美、三井猛 岩田書院 2010年 奈良大学 e-learning システム https://e-ln.nara-u.ac.jp/				

科目名	情報処理特殊講義（四）		期間	後期	
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	情報技術を活用した有形・無形文化財のデジタル化に関する基礎知識の習得と応用力を養う。				
到達目標	有形・無形文化財に対するデジタル化に関する基礎知識を学び、様々な画像処理方法や展示パネルの作成方法を学ぶ。				
授業概要	デジタルアーカイブの基本となるカメラの原理や違いについて紹介する。次に、カラーマネジメントについて解説し、さらに、画像処理や展示パネル作成に必要な各種ソフトウェアの操作方法について説明する。最後に、展示パネルの作成方法を解説する。				
評価方法・基準	成績は、カメラの原理に関する課題（20点）、画像処理に関する課題（30点）、カラーマネジメントに関する課題（20点）、展示パネル作成に関する課題（30点）で評価する。各課題は、基本用語の理解、問題点、操作方法、デザイン性などが正しく理解できているかを評価する。				
履修上の注意事項等	レポート内容については、授業内で必要に応じて解説を行う。パソコンの基本操作は、学部で習得しておくこと。				
テキスト	プリント配布。				
参考書	奈良大学 e-learning システム https://e-ln.nara-u.ac.jp				

科目名	文化財修復実習		期間	通年	
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文化財保存修復技術の習得				
到達目標	文書・掛け軸などの紙資料文化財の装こう技術を習得する。				
授業概要	奈良大学・京都芸術大学・京都嵯峨美術大学・京都市立芸術大学・東北芸術工科大学が結成する文化財保存修復大学院インターンシップ協議会が国宝装こう師連盟と協定して、同連盟加盟工房にておよそ1か月の研修をおこない、技術と理念を習得する。				
評価方法・基準	国宝装こう師連盟加盟工房での技術習得度、受講態度、熱意などを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	研修報告会での発表後、工房担当者・責任者、担当教員などから講評をおこなう。文化財、特に紙資料の文化財についての知識を深めておくこと。実習実施対象は2年次生であるが、1年次中に受講希望の提出・選考をうけることになるので、1年次の中頃には事前に魚島まで申し出ておくこと。工房への交通費、印刀等の道具類購入費、実習費は自己負担となる。				
テキスト	国宝装こう師連盟より配布される。				
参考書					

科目名	文献史学特論（一）		期間	前期	
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	核時代を検証する：日米関係を中心に				
到達目標	核時代における日米関係を歴史的に理解し、史料の検証方法について学ぶことができる。				
授業概要	本講義では広島・長崎の原爆投下や冷戦下で実施された米核実験について、米公文書（マンハッタン計画文書・米原子力委員会文書・米国務省文書など）と、被ばくした人々による証言に注目して検証する。また2017年に国連で採択された核兵器禁止条約など、核廃絶に向けての具体的な動向について取り上げる。さらに米国における原爆・核関連資料の状況について取り上げ、核の時代における日米関係を理解する。				
評価方法・基準	「核の戦後史」についてのレポート（40%）。「核時代を考える」についてのレポート（40%） そのほかコメント（20%）レポートの評価方法は以下の点を重視する。・課題を読んでいるか・自分の視点で論述しているか・論拠を示し、説得力があるか・歴史的探究心があるか課題のフィードバック方法				
履修上の注意事項等	レポートはコメントをつけて返却する。また質問について回答する。E-learning システムに登録しておくこと。またネット環境を整えておくこと。				
テキスト	核の戦後史 木村朗・高橋博子 創元社 2016年 9784422300542 核に縛られる日本 田井中 雅人 角川書店 2017年 9784040821832 核兵器はなくせる 川崎 哲 岩波書店 2018年 9784005008803				
参考書					

科目名	文献史学特論（二）		期間	後期	
担当教員	★川本 正知	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	中央アジアの歴史-中央アジアにおける国民国家の成立-				
到達目標	この講義は、中央アジアの民族、イスラム教、ロシア、中国による植民地化の諸相などの問題をあつかい、私たち日本人がそれいかにどのように向き合っていかなければならないかを考えるための基礎的な知識や情報を得ることを目標とする。				
授業概要	中央アジアとは歴史的にいかなる地域であるかをさまざまな角度から概説する。特に乾燥地帯としての生活の特徴、オアシスおよびオアシス都市のあり方、山間部および砂漠に住む遊牧民の生活、多くの宗教共同体の存在など、今日の中央アジアとその歴史を考える上において基礎的な知識をまず確認する。次に、それらの基礎的な地理的概念の上に、1991年に独立した5つの「国民国家」について国家、国民、民族、文化、伝統などの内容を明らかにしていく。次にこれらの基礎的知識を前提として、中国に属する新疆ウイグル自治区のウイグル人問題、フェルガナ盆地の原理主義イスラムといったような中央アジアをめぐる今日の問題を解説する。				
評価方法・基準	平常点50%（授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視）学期末のレポートによる学習到達度確認50%（中央アジアとはどういった地域であるかを理解しているかどうかを評価する）				
履修上の注意事項等	期間内にレポートを課し最終授業に講評講義の内容を主体的に考える用意のない人は受講しないこと。講義は単に自らの勉強の入り口にすぎないことを自覚すること。				
テキスト	なし				
参考書	現代中央アジア オリヴィエ・ロワ著（斉藤かぐみ訳）白水社 9784560509111 中央アジアを知るための60章 宇山智彦（編）明石書店 9784750331379 中央アジアのイスラム 濱田正美 山川出版 9784534347007				

科目名	文献史学特論(三)		期間	後期	
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	イギリス帝国史を通して理解する西洋近現代史の諸テーマならびに研究アプローチ				
到達目標	①西洋近現代史における諸テーマについて理解する。 ②歴史学の研究アプローチ・手法を理解する。				
授業概要	16世紀から20世紀末にいたるイギリス帝国史を題材にしながら、西洋近現代史における諸テーマを紹介し、また歴史研究における主要なアプローチ・手法を説明する。				
評価方法・基準	・各回ともテキストをまとめた「レジュメ」を作成して授業に臨むこと。「レジュメ」の準備・適切さを評価する。 ・各回授業後、「授業のまとめ」を作成すること。「まとめ」の適切さを評価する。				
履修上の注意事項等	・「レジュメ」については、授業のなかでコメントする。 ・「授業のまとめ」は、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。 テキストは必ず入手してください。				
テキスト	イギリス帝国の歴史 秋田茂 中央公論新社 2012 9784121021670				
参考書					

科目名	文献史学特論(四)		期間	前期	
担当教員	★久保 利永子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	植物を通してみる人とモノの交流史				
到達目標	近世・近代のヨーロッパにおける人とモノの関りの歴史を通じて、研究対象に対する社会的なアプローチについて学び、各自の研究を進める際に適宜活用できるようになる。				
授業概要	啓蒙の時代(18世紀)のヨーロッパでは科学的関心によって国境を越えて結ばれた人的ネットワークが存在した。スウェーデンのカール・リンネは精力的に植物分類体系の構築に取り組み、彼の弟子たちは植物標本採集のために世界各地へ旅立った。植物園は最先端の科学研究の舞台となり、19世紀になると園芸業者やプラントハンター(植物採集者)が世界を舞台に活躍するようになる。本講義ではヨーロッパ、アジアなど異なる地域の人々が植物を通してつながり、モノやコトの交流が行われる様子を社会的に考察する。				
評価方法・基準	授業毎の課題(70%)と期末レポート(30%)。課題は講義に取り組み姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているかを評価する。				
履修上の注意事項等	毎回講義終了時にコメントカードを回収し、オンライン提出の課題と併せて次週にその内容をまとめたプリントを配布する。質問等については適宜解説もしくは次回以降の授業に反映する。・講義時に配布される教材(プリント)を活用して積極的に予習・復習(授業毎の課題)を行うこと。・e-ラーニング経由で配布される参考資料も自主的に活用すること。・課題の提出期限は厳守すること。				
テキスト	毎回、教材(プリント)を配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				

科目名	文献史学特論(五)		期間	前期	
担当教員	★長澤 一恵	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	国際社会における「平和」の模索と近代日本				
到達目標	①大正デモクラシー期に展開した国際平和主義について、明治憲法体制及び国際社会との関わりをなかで理解すると共に、戦後に継承される民主主義や平和の意義について理解を深める。②主な近現代史資料の所蔵機関を利用しながら、アーカイブ調査についての基礎的な知識と方法を習得する。				
授業概要	20世紀は戦争の時代であったといわれる。戦争ごとに社会は大きく様変わりしたが、同時に国際社会における「平和システム」の構築も飛躍的な発展を遂げる。第一次世界大戦後には「平和14か条原則」提唱にみられるような社会改善や人権保障についての議論が世界的規模で進展するが、これと期を同じくして展開した大正デモクラシー期の日本社会ではどのような「社会」が目指されたのかを、明治憲法体制および日本をとりま(国際社会との関わりから)考察することが講義の課題である。戦争・植民地統治・ナショナリズムといった20世紀が抱えていた諸問題の解決を図るなかでは、様々な国際社会での議論や市民レベルでの取り組みがあったことを学ぶとともに、そこで追求されてきた民主主義や「平和」の価値を見直すことによって、これからの国際社会のありかたを考えた。				
評価方法・基準	学習到達度確認40%(試験を行い、講義内容から知識問題、史料問題、論述問題など多角的に理解度を確認する)、授業中に提出する課題レポート30%(図書館・資料館・博物館およびWebアーカイブ調査などを利用して積極的に学習し幅広い知識と深い理解を得たうえでレポートを作成する)、平常点30%(講義内容をノートに取るなど集中して理解を深めること)を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	期間内に学習到達度確認を行い、最終授業内で講評を行う。課題レポートは、添削のうえ講義時間中に教室にて返却する。授業は幅広い歴史事象を勉強するための入り口に過ぎません。興味を持った事柄や問題は、歴史辞典や参考文庫、博物館などを活用して自分自身でどんどん学習を進めてください。また、世界史年表や地図を用意してこまめに確認することをおすすめします(出版社等の指定はとくにありません)。				
テキスト	教科書は使用せず、授業プリントを配布します。				
参考書	シリーズ日本近現代史 1-10巻 岩波新書(新赤版・1042-1051) 2006-2010 ISBN 9784004310457 ほか 日本近代の歴史 1-6巻 吉川弘文館 2016-2017 ISBN 9784642068123 ほか 日本の歴史 20-25巻 講談社 2000-2003 ISBN 9784062919227 ほか				

科目名	文献史学特論(六)		期間	前期	
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	自治と自律の地域史 - 人びとのつながりの変容 -				
到達目標	私たちが律している秩序意識の歴史の変容を理解するとともに、修士論文の構想を深めるための基礎力をつける。				
授業概要	私たちが法を守るのには処罰を恐れているからか? 違う! 守るべき規範があると理解しているから私たちは秩序に従うのだ。その意識はどこから来るのか。近代を中心に日本社会が維持してきた自治・自律の様相について歴史的に考察するとともに、その行く末について考えてみたい。				
評価方法・基準	質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。				
履修上の注意事項等	コメントシートの内容や質問などは次回以降の授業に反映し、適宜紹介や回答をおこなう。期末レポートについてはオフィスアワーなどで返却し、問題点について指導する。修士論文の構想との関連に留意しながら授業に臨み、積極的に疑義や批判を表明してほしい。なお後期の文献史学特論(九)「差別と排除の地域史」と関連するところが多いので、できれば合わせて履修してください。				
テキスト	担当者から資料を配付する。				
参考書	授業中に適宜示す。				

科目名	文献史学特論（七）		期間	前期	
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	関ヶ原合戦を素材に「人と時代」を考える				
到達目標	われわれが認識している「史実」が、その時、その人、その場において存在した様々な可能性、未来予想図のなかの、きわどく選ばれたひとつの結果であることを、著名な「関ヶ原合戦」を素材に考え、歴史を学ぶ意義を心に刻むこと。				
授業概要	近年の研究によって、その評価が大きく変わろうとしている「関ヶ原合戦」。研究の最前線を見つめながら、合戦にかかわった人々の、その時、その場の選択がどのように収斂して家康勝利という結果が誕生していくのか、講じていく。				
評価方法・基準	対面授業と並行してe-learningに各回（第2講～第14講）を掲示する。その総合点（素点合計）により成績評価する。				
履修上の注意事項等	e-learning上の採点、コメントを通じておこなう。オフィス・アワー、メールを利用した質疑応答も可能にする。各回課題の正答例を時機をみて公開する。授業欠席の場合は原則課題提出を認めないので注意すること。各回課題の素点評価基準や、やむをえない欠席についての対応など、詳細は初回授業日に連絡する（e-learningにも掲示）。				
テキスト	各回PPTデータを用意する。				
参考書	「関ヶ原」を読む 外岡 慎一郎 同成社 2018 9784886217875				

科目名	文献史学特論（八）		期間	後期	
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	近世日本の貧困から現代社会を考える				
到達目標	貧困の問題を歴史的にとらえる視角と発想、実証方法を考えながら、現代社会に対する見方を鍛えあげる				
授業概要	21世紀の日本は、世界に冠たる「自己責任大好き」社会であり、貧困の公的救済に対して非常に冷たい社会となっている。その歴史的背景に何があるのかを、17世紀以来の長期的かつ比較史的な目線で検討し、貧困救済をめぐる現代日本社会の歴史的な位置を考察していきたい。				
評価方法・基準	期末レポート。大学院生らしく、先行研究を十分ふまえたうえで、講義内容に対して批判的な姿勢がとれているか、を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	レポートの講評を、オフィスアワーに研究室でおこなう。				
テキスト	毎回プリントを配布。				
参考書	授業中に紹介。				

科目名	文献史学特論（十）		期間	前期	
担当教員	★安田 真紀子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	交通の発達と近世社会				
到達目標	史料を正確に読み解き、近世社会における交通の役割について問題意識を持って考察する力を修得する。				
授業概要	江戸時代、街道が整備され交通が発達するに伴い、産業・経済・文化が飛躍的に発展する。一方で、交通の発達によって新たな社会問題が生じる。本講義では、江戸時代の陸上交通に焦点を当て、近年掘りかきみせる交通史研究の成果を紹介しながら、史料を用い、近世社会において交通がいかに機能し、庶民生活や地域社会にどのような影響を与えたのかを考察する。				
評価方法・基準	授業期間内に課すレポート70%（講義の内容を正確に把握し、問題意識を持って自分の考えを適切に論じることができているかを総合的に評価する）、授業中随時行う課題30%（基本的な語句の理解、史料内容の理解など講義内容の理解度を確認する）によって評価する。				
履修上の注意事項等	随時行う課題については添削し、次回以降の授業で講評・解説をおこなう。授業期間内にレポートを課し、最終授業時に講評・解説する。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	文献史学特論（十一）		期間	後期	
担当教員	★出水 清之助	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	世近代移行期における政治社会の形成と「政党」				
到達目標	①大学院での研究生活にあたって必要となる、近代日本社会形成についての基本的な知識を獲得できる。②上記を通じて、現在の日本社会を歴史的な視座から考えるための視点を養う。				
授業概要	19世紀後半の日本で起こった明治維新は、身分制社会を解体するとともに、新たな政治社会の形成を促しました。この授業では、近世から近代にかけて、社会のあり方がどのように変容したのか、いかなる政治社会が模索されたのかについて、具体的な事例から検討していきます。その際、特に明治期における「政党」の形成過程に注目していきます。西洋からもたらされた「政党」が、いかなる社会的な軋轢を引き起こしながら、日本社会に定着していくのか。理念と実態の両側面に目を配りながら、その足跡を追っていきます。				
評価方法・基準	①学期末レポートの提出(70%)授業内容を踏まえつつ、自身の考えを論理的に説明できているかが評価のポイントとなります。②コメントペーパーによる意見・質問の提出(30%)興味深かった点、疑問に思った点、考えたことなどを、自身の言葉で書けているかが評価のポイントとなります。				
履修上の注意事項等	提出されたコメントペーパーに寄せられた意見や質問は、適宜、次回以降の授業中で紹介及び講評する。				
テキスト	毎回プリントを配布するため、使用しない。				
参考書	日本政党史 季武嘉也ほか 吉川弘文館 2011 9784642080491 町村合併から生まれた日本近代：明治の経験 松沢裕作 講談社 2013 9784062585668 帝国議会—西洋の衝撃から誕生までの格闘— 久保田哲 中央公論新社 2018 9784121024923				

科目名	文献史学特論（十二）		期間	前期	
担当教員	★吉江 崇	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本古代の国家と政治—律令国家の変化—				
到達目標	日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。				
授業概要	日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。律令国家が変質をはじめめる8世紀後葉から9世紀前葉の政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。				
評価方法・基準	講義内容のまとめを行う小レポートの提出およびその成績40%、講義内容の理解及びそれに関する自身の考えの獲得を論述形式で問う学習到達度確認60%				
履修上の注意事項等	・小レポートは、2回の講義で一度実施し、期間内に評価・講評を行う。 ・期間内に学習到達度確認を実施し、期間内に講評・解説を行う。講義形式で授業を行う。				
テキスト					
参考書	撰 関 政治 古瀬 奈津子 岩波新書 2011 9784004312765				

科目名	文献史学特論（十三）		期間	後期	
担当教員	★山本 祥隆	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	発掘調査や木簡等から読み解く奈良時代史				
到達目標	発掘調査成果や木簡等を中心に据えた考察から、日本史における奈良時代史の位置付けを考え、活きた歴史像の構築を目指す。また、その過程と成果を自身の専門分野の研究にも活用する。				
授業概要	日本史の中において古代、特に奈良時代史はユニークかつ重要な位置を占め、研究対象として好適である。また、奈良時代史を考究することは他の時代や地域の歴史に対する理解の相対化や深化にも資する。本講義では、平城宮・京跡出土木簡や講師が実際に携わった発掘調査の成果や平城宮・京跡出土木簡等に基づき、より生き生きとした歴史像の構築を目指すことにより、奈良時代史に対する理解を深めることを目標とする。また、歴史の舞台となった奈良で学べる利点を活かすため、学外実習も積極的に計画している。				
評価方法・基準	期末に、古代史に関するレポートの提出を課す。自ら課題を設定し必要な情報を収集できているか、自分の考えを展開できているかなど、オリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	講義中および講義前後において、質問等は随時受け付ける。最終授業内で、講義全体の内容を振り返りつつ、質疑応答等を行う。テキストは使用せず、必要に応じて資料を講義の際に配布する。参考書等は下記以外にも適宜紹介するので、予習・復習等に活用すること。学外実習を3回程度予定しているが、必ずしも上記の行に行わなければならない。				
テキスト	なし				
参考書	平城宮—三〇〇年「全検証」 奈良の都を木簡からよみ解く 渡辺晃宏 柏書房 2010 奈良の都の暮らし—平城宮の生活誌— 奈良文化財研究所編 株式会社クパロ 2021 木簡 古代からの便り 奈良文化財研究所編 岩波書店 2020 奈良文化財研究所 https://www.nabunken.go.jp/ 文化財を総合的に研究する機関のホームページ 木簡庫 https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/ 木簡に関する様々な情報が検索できるデータベース 市民参加型 筆順情報取得ウェアリアクション「ナゾルン」 https://nazoru.nabunken.go.jp/enter.html 木簡等の歴史的な文字の筆順情報取得に参加できるウェアリアクション				

科目名	文献史学特論（十四）		期間	後期	
担当教員	★酒匂 由紀子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本中世後期研究の諸問題				
到達目標	中世後期に関する様々な分野の研究を史学史的に捉えて研究史の構造を理解すること。及び、近年の研究動向や研究方法を理解し、修士論文作成に活用できるようになることが目標である。				
授業概要	近年、日本中世後期の研究は目覚ましい進展を遂げている。今そのような状況になっていることについて、この授業では、そうした研究がどのようにして先行研究を乗り越えているのかということを検証する。授業で配布するレジュメには参考文献を記しておくので、復習として読んでおくように。				
評価方法・基準	評価は期末レポートにて行う。レポートの評価基準は以下の通り ・講義の内容を理解しているかどうか ・課題文献を正確に読解できているかどうか ・必要な情報を文献から収集し、自らの意見を表現できているかどうか ◎毎回授業後にコミュニケーションペーパーの提出を課すが、そこで研究史上の大きな問題に繋がる問題提起や考察を論じた者には、期末レポートの点数に加点を行う。				
履修上の注意事項等	期間内にレポートを課し、期間内に講評を行う。コミュニケーションペーパーのフィードバックは次回授業にて行う。6回以上欠席した者には単位を出さない。				
テキスト	なし				
参考書	論点・日本史学 岩城 卓二 他編著 ミネルヴァ書房 2022 9784623093496 日本中世史入門：論文を書く（増補改訂新版） 秋山 哲雄 他編著 勉誠出版 2021 9784585222804 荘園研究の論点と展望：中世史を学ぶ人のために 鎌倉佐保 他編著 吉川弘文館 2022 9784642029780				

科目名	文献史学特論（十五）		期間	前期	
担当教員	★安田 純也	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	麗王朝の歴史を学ぶ				
到達目標	(1) 朝鮮史の研究動向と手法を習得する。(2) 歴史を多角的にとらえる見方を身につける。				
授業概要	この授業では、朝鮮半島の歴史の形成、展開を振り返るが、今年度は高麗王朝を取り上げる。高麗は約500年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、朝鮮の伝統文化と中国から伝来した文化が調和をなした時代である。また、高麗の文化財の多くは日本列島各地に伝存しており、高麗は日本と関わりの深い王朝である。授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、高麗王朝の歴史について論じる。				
評価方法・基準	小テスト40%2回行う。理解度と説明能力を審査するレポート20%1回課す。指定の文献を踏まえ、まとめる能力などを審査する 上記以外40% 質問、宿題など				
履修上の注意事項等	翌週のレジュメに総評を掲載する。必ず初回から受講すること（ノート持参）。教員への連絡方法は、初回のレジュメに掲載する。前年度の東洋史基礎講義IIIを履修した上で受講することが望ましい。未履修の場合には、参考書（田中俊明『朝鮮の歴史』等）を一読した上で受講すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学特論（十六）		期間	前期	
担当教員	★飯田 祥子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	中国古代の王朝交替期における政治と社会				
到達目標	中国古代における、王朝交替期の政治と社会の変動について、史料と研究史に基づいた理解をする。自身の研究課題である王朝や政権について、交替・変動期における政治や社会の動きを、先行研究に基づいて整理できるようになる。				
授業概要	日本の歴史に親んできたものにとって、中国の歴史とは、王朝が興亡することが一つの特徴であるように思える。なぜ中国では、王朝が成立しては滅亡するのだろうか？このような政治や社会の混乱期について考察する場合、どのような問題に注意すべきなのだろうか？この授業では、古代の王朝交替期である、前漢末期から後漢成立期（前1世紀後半～後1世紀前半）、および後漢後期・末期（後2世紀後半～3世紀初）を中心に、『漢書』『後漢書』『三国志』等の歴史書に基づいて、王朝・政権の興亡を担った人の動きに注目して、政治と社会の状況を考察する。中国古代の事例を理解することによって、受講生各自の関心・研究課題への理解を深めてほしい。なお配布資料に掲載する史料は漢文原文と現代日本語訳を用いる。				
評価方法・基準	平常点（授業時提出物）30%…語句クイズ（前回授業の理解度）、コメント（問題意識・意欲）小テスト（第15回実施予定）10%（基本的な語句の理解度）レポート60%（到達目標の達成度）				
履修上の注意事項等	授業時提出物その回または次回の授業時に、解答例を示す、または適宜紹介する。小テスト受講者全員の提出後に解答例を示す。レポート希望者には講評を加えて返却する。初回ガイダンスで、受講における注意事項や、成績評価方法などについて説明する。欠席すると不利益になる可能性がある。板書の撮影は禁止する。なお欠席届を提出しても、評価には影響しない。				
テキスト	なし				
参考書	秦漢帝国 西嶋定生 講談社 1997 4061592734 王莽一儒家の理想に愚かれた男 東晋次 白帝社 2003 4891746351 漢新時代の地域統治と政権交替 飯田祥子 汲古書院 2022 9784762960772				

科目名	文献史学特論（十七）		期間	後期	
担当教員	★阿久根 晋	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東アジア世界をめぐるイエズス会士群像				
到達目標	東アジア各地の政治・社会・交易状況を踏まえつつ、イエズス会のカトリック布教史を俯瞰的かつ多面的に捉える。これをもって、地域横断的な歴史観察能力の獲得も目指す。テキストおよびビジュアル史料の成立背景と特色を学び、両種の史料を相補的に用いたアジア史研究を試みる。				
授業概要	いわゆる「大航海時代」、ポルトガルとスペインがアフリカ・「新世界」（アメリカ）・アジアの各地で勢力拡大を図るなか、カトリックの諸修道会も海外ミッションの推進に努めた。なかでも新興のイエズス会は、活動領域の広がり、先駆的な布教戦略と通信システム、残した記録の豊かさなどの点でユニークな存在であった。本講義では、16-17世紀の東アジア世界におけるイエズス会士の多面的な活動を追いかけて、そこで見られた東西文化の接触・衝突・融和について探究する。				
評価方法・基準	*平常点40%…コメントシートの記入（授業内課題）、授業への積極的参加（発問への応答など）*期末レポート60%…独自のテーマ設定、課題解決に向けた適切な文献の活用、全体の構成・叙述面などの観点から評価				
履修上の注意事項等	*コメントシートの内容を授業中に適宜紹介し、補足説明をおこなう。*レポートの講評を希望する受講者には、メールで個別に対応する。*近世中国・日本・東南アジア史、とくにヨーロッパ勢力との関係史について、既習事項を確認しておくこと。*各回の授業で紹介する参考文献から授業内容の理解を補いつつ、レポート作成の準備を進めること。*4回以上の欠席は成績評価の対象外となる。				
テキスト	配布資料とプレゼンテーションスライドを使用。				
参考書	近世の帝国の繁栄とヨーロッパ（アジア人物史7） 青山亨ほか（編） 集英社 2022 4081571074 イエズス会と中国知識人（世界史リブレ109） 岡本さえ 山川出版社 2008 4634349477 西欧文明と東アジア（東西文明の交流5） 榎一雄（編） 平凡社 1971 「坤輿万国全図」（京都大学所蔵） https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013547 「坤輿万国全図」（京都大学所蔵）のデジタル画像 「坤輿万国全図屏風」（林原美術館所蔵） http://sumiyakeji.nsr.jp/data/konyo-hayashibara-mus/index2.html#pgCV 「坤輿万国全図屏風」（林原美術館所蔵）のデジタル画像				

科目名	文献史学特論（十八）		期間	後期	
担当教員	★谷口 淳一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	13-14世紀の西アジア				
到達目標	政治・軍事、国家体制、社会の諸相に目を配りながら13-14世紀のエジプトとシリアを中心とした西アジア史の流れを把握し、自分の研究対象との比較検討を通して発展的な議論を展開する。				
授業概要	西アジアでは、10世紀にアッバース朝国家が解体した後、新たな国家や社会のしくみが形成されていった。マムルーク朝時代の前半にあたる13世紀後半から14世紀は、その新たな国家体制と社会のしくみが一通り完成をみた時期にあたる。本講義では、この時期におけるエジプトとシリアの歴史を、政治、軍事、国家体制、社会など複数の側面から論じる。ただし、それ以前の時代との関係の理解を深めるために、最初の3回は、イスラームが創始された7世紀から13世紀に至る西アジア史の概略を説明する。				
評価方法・基準	毎回の講義最後の10分間程度で実施する小論述で評価する（100%）。講義内容を正しく理解したうえで、発展的な議論を展開しているか、達意の文章となっているか等を評価する。				
履修上の注意事項等	授業の冒頭において、前回の授業に関する論述ないし質問に言及しつつ、前回の授業内容を確認する。高等学校の「世界史」で学ぶ程度の内容については、説明を省略または簡略化することがある。授業の中で聞き慣れない固有名詞や用語が多いと感じる場合は、参考書などを利用して基礎知識を得るよう努めること。				
テキスト	毎回、授業内容の梗概（レジュメ）を配布する。				
参考書	岩波イスラーム辞典 大塚和夫ほか 岩波書店 2002 4000802011 新イスラーム事典 日本イスラーム協会ほか 平凡社 2002 4582126332				

科目名	文献史学特論（十九）		期間	前期	
担当教員	★坂元 正樹	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	西洋における娯楽の発達 ～大衆化と商業化～				
到達目標	19世紀前後における娯楽の発達と多様化についての知識をひろめながら、多様な娯楽が氾濫する現代に生きる人間として娯楽についての見識を深め、独自の視点からなる意見を持てるようになる。				
授業概要	本講義では、西洋で18世紀後半から20世紀初頭にかけて発達していった各種の娯楽について、それらを成り立たせた社会的背景、技術（テクノロジー）の発達、興行や芸術活動の発展、などのテーマと関連づけつつ、紹介していく。また、講義全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。過去の娯楽について考えることを通して、現代における娯楽について考えを深める力を養う。				
評価方法・基準	レポート：50%（授業内容を踏まえた上で、自分なりの問題意識からテーマを設定して、調査・論述してもらう。）平常点：50%（毎回、授業内容に沿った簡単な課題を提示する。）				
履修上の注意事項等	毎回の課題とあわせて授業への質問や感想を記入する欄をもうける。寄せられた質問や感想等について、課題への回答とともに次回の授業内で紹介しコメントを付す。レポートについても、授業内で講評を行う。特になし				
テキスト	毎回プリントを配布する。				
参考書	適宜授業中に提示する。				

科目名	文献史学特論（二十）		期間	後期	
担当教員	★佐藤 専次	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	中世ヨーロッパにおける誓約団体の展開				
到達目標	誓約団体の展開を通してヨーロッパ中世社会の特質を理解すると同時に自分の研究テーマに役立てる。				
授業概要	ヨーロッパ中世に現れる多様な社会集団は、しばしば誓約を媒介して成立した。その初期においてはフランク王国のギルド、中世盛期以降になると都市・農村のコミュニティ、教師・学生の共同体である大学も誓約団体であり、さらにスイスという国家そのものも誓約団体から始まっている。ヨーロッパ中世では、このような誓約団体（コンユラティオ）の広範囲な展開からギルド、都市共同体、大学、国家など独特な制度が生まれた。講義では、中世における誓約団体の展開について論じ、誓約とはヨーロッパ中世の人々にとって、どのような意味を持っていたのかについて述べる。				
評価方法・基準	学習到達度確認 80% 講義内容を的確に理解し、かつそれを正確に文章化できるかで判断する。小テスト 20% ほぼ毎回、講義内容について感想・質問を書いてもらう。これによって、いかに講義を理解したか判断する。				
履修上の注意事項等	ほぼ毎回、講義に関する質問・感想を書いてもらう。それに関するコメントを次回の講義のときにおこなう。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う予定。高等学校の世界史 B の知識が前提になる。				
テキスト	なし				
参考書	教養のための西洋史入門 中井義明・他 ミネルヴァ書房 2016 978-4-623-04909-7				

科目名	文献史学特論（二十一）		期間	後期	
担当教員	★久保 利永子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	イギリスにおける近代スポーツ文化の形成				
到達目標	社会全体の近代化の進展とともに民俗文化が変容し新しい文化の形成に至る経緯の社会史的分析を通じて、様々な史資料の分析・読解の力を身につけ、自分の研究に活かせるようになる。				
授業概要	"sport"とは何だろうか。英語のsportは「スポーツ」という日本語の単語から連想されるような競技種目のみを指す言葉ではない。今日身近な競技スポーツの多くは19世紀のイギリスで成立し、その後世界中へ伝播した歴史的経緯を持つが、近代以前にもsportsは存在した。本講義では18, 19世紀のイギリスにおける多様な「スポーツ」の在り方とその社会的意味を考察し、「スポーツ」というひとつの文化が同時代の多様な社会的要因とのせめぎあいの中で変容するメカニズムについても理解を深める。				
評価方法・基準	授業毎の課題（70%）と期末レポート（30%）。課題は講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているか評価する。				
履修上の注意事項等	毎回講義終了時にコメントカードを回収し、オンライン提出の課題と併せて次週にその内容をまとめたプリントを配布し、質問等については適宜解説もしくは次回以降の授業に反映する。講義時に配布される教材（プリント）を活用して積極的に予習・復習（授業毎の課題）を行うこと。e-ラーニング経由で配布される参考資料も自主的に活用すること。課題の提出期限は厳守すること。				
テキスト	毎回、教材（プリント）を配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				

科目名	文献史学特論（二十二）		期間	前期	
担当教員	★山内 暁子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	古代ギリシアにおける「身分」と社会				
到達目標	古代ギリシア社会を学ぶことで自らを客観視する視座を獲得し、史料に基づいた歴史像を持つようになること				
授業概要	本講義では、古代ギリシアの市民社会における様々な儀式や祭典について考察を試みる。歴史学の基本である文献史料だけでなく、遺物や遺跡、また画像などの「モノ」資料も使用する。それによって現段階で史料から読み取れることを考察し、さらなる展望について検討する。歴史学の基本的な史料解釈に始まり、現代的・学際的な研究手法についても目を向けながら、様々な歴史考察の可能性を考えてみたい。				
評価方法・基準	授業中に出される課題2回（25点×2）と、最終課題（30点）を評価の中心とします。最終課題については、提出していない受講者は単位取得意思がないものとみなしますので、提出をお願いします。Google Classroomで質問や感想を受け付け、私が回答しつつ、ディスカッションになるようにしたいと考えています。Google Classroomへの「質問・感想」の書き込みも評価の対象（20点）となるので、頑張ってください。				
履修上の注意事項等	最終課題以外は、学期内に採点して返却します。それぞれの課題については、評価のポイントについて口頭または掲示資料によって解説します。テキストは指定しませんが、参考文献は適宜紹介します。また、PDFにリンクされている画像や動画などの関連資料を見ることで、学習内容を定着させるようにして下さい。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文献史学特論（二十三）		期間	前期	
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本古代の後家				
到達目標	本授業では、積極的に歴史上の問題点を見出し、史料に基づき、考える力を身につける。				
授業概要	古代史上、有名な女性の多くは後家で、女帝の多くも夫を喪った後に即位している。何故、後家が活躍することになるのかの理由を現在の価値観だけで考えることはできない。本授業科目では、史料を読み解きながら1人1人の後家の足跡をたどり、その作業を通して古代の支配体制、社会、ジェンダーなどを考える。				
評価方法・基準	期末レポートで評価する。授業内容の理解度、レポートの課題設定の着眼、課題解決のための史料分析への取り組み、合理的な考察、文章表現の正しさを評価対象とする。				
履修上の注意事項等	レポートはポータルを用いた提出とする。提出されたレポートにはポータルを用いて各自にコメントする。日本古代史の講義であり、史料読解を踏まえたレポートを課す。そのため、履修者は漢文の基礎知識を持つことが望ましい。授業の進捗によりスケジュールに変更が生じる場合は、授業時に知らせる。				
テキスト	なし				
参考書	授業で紹介。				

科目名	考古学特論（三）			期間	後期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	倭人の祭祀考古学				
到達目標	縄文・弥生時代を中心とした時代における祭祀考古学の基本的な方法について考える。				
授業概要	縄文時代と弥生時代における人々の祭祀・儀礼・宗教・信仰といった精神世界、心の世界を研究する認知考古学や祭祀考古学の基本的な方法について解説する。そして、古墳時代にいたる日本の先史時代の祭祀・儀礼の意味を考える。				
評価方法・基準	小レポート30%（毎回の講義内容を把握しているか）、レポート70%（学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。毎回、事前に講義連絡を確認すること。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する。				

科目名	考古学特論（四）			期間	前期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	縄文文化と弥生文化				
到達目標	縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から当時の人々生活や社会を復元する基本的な方法について考える。また自らの修士論文などの研究を進める上で、先史時代の祭祀に関する知識の向上を目指す。				
授業概要	縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から、どのように縄文人の生活や社会の復元ができるのか。土器の見方、縄文施文法、植物考古学、動物考古学など、縄文文化と弥生文化に関する基本的な方法について取り上げる。				
評価方法・基準	小レポート30%（毎回の講義内容を把握しているか）、レポート70%（学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	レポートは、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。博物館や実習室などで作業を行う場合がある。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する。				

科目名	考古学特論（五）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	弥生・古墳時代鉄製武器の研究				
到達目標	鉄製武器を通じて弥生・古墳時代の政治、社会を理解する				
授業概要	弥生時代と古墳時代の遺跡から出土した鉄製武器を手がかりに、当時の政治と社会を考える				
評価方法・基準	講義の内容に関するA4・1枚程度のレポートに、授業中の質問・発言等を加味する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特論（六）			期間	後期
担当教員	★寺沢 薫	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	ヤマト王権成立史の諸問題				
到達目標	いわゆる「ヤマト王権」の成立過程や実像に焦点を当ててその理解を深める。考古学資料と文献史料の双方から歴史を組み立てる実践的方法を学びとる。				
授業概要	日本列島の王権形成の時期やプロセスについては諸説がある。講義では三世紀初めの奈良県桜井市纏向遺跡の出現がヤマト王権の誕生であるとの立場から、その形成過程や権力系譜、東アジア世界との関わりについて考究する。また、ヤマト王権の成立は古代史上の重大な画期でもあるから、講義では「魏志倭人伝」全文を配布して、考古学で読み解く。邪馬台国論や都市、国家形成の問題についても取り上げる。講義はテキストに沿って進めるので、講義予定の部分の事前の熟読は必須である。また、必要に応じて資料を配布する。				
評価方法・基準	講義内容は一般の概説書の内容とは異なる部分が多いので、必ず事前に目を通し、授業に集中することが大切である。従って、学習到達度確認やレポートも講義内容にそくした理解が求められる。小レポートやアンケートなども当然評価の対象となる。				
履修上の注意事項等	毎回、前回の講義の根幹を再度確認しながら進める。授業中の小レポートやアンケートで理解度を確認し、次回に集計結果や理解度等について講評する。「魏志倭人伝」は順番に指名して講読しながら進めるので、相応の準備が必要である。毎回の講義での集中が第一である。よりスキルを高めたい人は講義で出てきた研究者などを図書館やネットで検索することも重要である。もし興味や余裕があれば、参考図書の本を読むと、講義以上のこともわかり理解もしやすい。				
テキスト	王権誕生 寺沢 薫 講談社（学術文庫）2008 978-4-06-291902-9				
参考書	卑弥呼とヤマト王権 寺沢 薫 中央公論新社 2023 978-4-12-110135-8 王権と都市の形成史論 寺沢 薫 吉川弘文館 2011 978-4-642-09324-8				

科目名	考古学特論（八）		期間	前期	
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	考古学と文化財保護行政				
到達目標	総合的な文化財保護行政の基礎と文化財専門職員の役割を理解する。				
授業概要	文化財調査機関や文化財保護行政に携わってきた実績を活かして、都道府県・市町村の専門職員の人材として期待されている考古学・文化財学を学ぶ学生を対象として、文化財保護行政の現状や、文化財を活かした街づくりなどについて学ぶ。				
評価方法・基準	不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。				
履修上の注意事項等	授業中のレポートの成果と課題についてコメントする。本講座は、文化財の専門職を目指す学生を対象とする。学外授業も重要であり、必ず参加すること。				
テキスト	プリントを配布。				
参考書	入門 埋蔵文化財と考古学 水之江和同 同成社 2020 遺跡保護の制度と行政 和田勝彦 同成社 2015 文化遺産の保存と活用 小松弥生 クバプロ 2021				

科目名	美術工芸史学特論（一）		期間	後期	
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	絵巻物の研究				
到達目標	伝記や説話を絵画化した作品の調査研究方法を体得し、その作品についての理解を深める。				
授業概要	絵巻物の代表的な作品の内容、絵画様式、制作の状況などを講説する。順番は入れ替わる可能性がある。e-learningにより資料配付、参考サイトの掲示も行う。e-learningの登録コードは講義開始前にポータルで掲示する。				
評価方法・基準	平常 e-learning 課題 60% レポート 40%（レポートの評価基準は、講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」の基準に従う）。				
履修上の注意事項等	課題評価は、e-learningでコメントする。質問は対面のほか e-learning のメッセージも利用できる。参考書の1つは2年次配当選択科目「日本絵画史」の教科書であるが、履修していない場合には購入する必要はない。				
テキスト	なし				
参考書	日本美術史ハンドブック 辻維雄・泉武夫編 新書館 2009 978-440325098-9 源氏絵の系譜 稲本万里子 森話社 2018 978-4864051323 かわいい絵巻 上野友愛・岡本麻美 東京美術 2015 978-4808710385				

科目名	美術工芸史学特論（二）		期間	前期	
担当教員	★関根 俊一	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	正倉院と正倉院宝物				
到達目標	・正倉院および宝物の伝来や由緒・歴史等を理解する ・様々な工芸技法、加飾技法を理解する ・宝物の源流、制作地および「世界性（国際性）」を理解する ・「正倉院」を文化財の保存という視点で理解する				
授業概要	正倉院の歴史、建物（校倉）を概観し、ここに伝来した宝物について様々な視点から考察する。テキストやパワーポイントで画像を提示しながら、講義形式で進めるが、随時、コメントシートの提出によって受講者の理解度を確認する。必要に応じて正倉院宝物以外の工芸品についても言及する。「モノ」から情報を読み取る力が身につくよう配慮しながら進める。				
評価方法・基準	定期試験（60%）、学習到達度確認（コメントシート等）（20%）、レポート（20%）で総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	随時提出を求めるコメントシートは、添削のうえ次回の講義時に返却する。学習到達度確認試験は、解答を当該時間内に示す。また期末試験は45分とし、15分で解答を示し解説を行う。定期試験（16週目）では、テキスト・配布プリント・自筆ノート持ち込み可とするので、毎回の講義が終了後、配布プリントを参考にして、足りないところはノートにしっかりと整理し、疑問点は必ず質問すること。出欠不問（自由参加）の学外見学を行うので積極的に参加すること。				
テキスト	正倉院宝物 181点鑑賞ガイド 杉本一樹 新潮社 2016 978-4-10-602272-2				
参考書	その都度指示する。				

科目名	美術工芸史学特論（三）		期間	後期	
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東アジアの仏教彫刻—中国美術の展開〈仏教彫刻編〉				
到達目標	以下の2点を目標とする。①中国の各地でそれぞれに展開・発展した仏教彫刻の多彩な状況を理解する。②日本及び朝鮮半島を包含する東アジアの美術史として仏教彫刻を理解する。				
授業概要	広大な中国大陸では、古くから各地に多様な文化が育まれ、多くの民族の往来があった。西域を通じてもたらされた仏教とその美術は、おのずからさまざまな様相を呈してそれぞれの地域で展開・発展した。その中には仏教東漸の最終地点である日本も含まれる。この講義では、国立博物館及び文化財研究所の研究者として実施した中国各地での調査、欧米・日本に所蔵される作品調査をもとに、東アジアという大きな視点から、中国仏教彫刻の全体像をつぶさに見る。				
評価方法・基準	期末レポートによって成績を評価する。全15回のうち、6回以上の欠席、あるいは期末レポートが未提出の場合は評価できない。				
履修上の注意事項等	ポータルサイトやメールでの応答とともに進める。仏像の種類などの説明は省く。大学院生として受講する場合は、これまでに日本の仏教美術についての授業を受けていることが前提である。				
テキスト	毎回資料を配付する。				
参考書	北魏仏教造像史の研究 石松日奈子 ブリュッケ 2005 世界美術全集（東洋編）3/三国・南北朝 曾布川寛 / 岡田健監修 小学館 2000 仏像の鑑賞基礎知識 光森正士 / 岡田健 至文堂 1993				

科目名	美術工芸史学特論（四）		期間	前期	
担当教員	★宮崎 もも	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	江戸のやまと絵・住吉派について				
到達目標	主に以下の三点を目標にします。 ①江戸時代の絵画史についての基礎知識を身につけること。 ②やまと絵についての理解を深めること。 ③住吉派についての理解を深めること。				
授業概要	江戸時代のやまと絵系の流派である住吉派を中心にとりあげる授業です。江戸時代の絵画史の概要をおさえつつ、住吉派の絵師たちの代表的作品を詳しく観察し、その表現の特色や制作背景について考察します。 住吉派はこれまで注目度の低い流派でしたが、近年論考や展覧会も増加傾向にあり、その特徴・魅力を紐解きます。 授業は、配布プリント、パワーポイントを用いて行います。				
評価方法・基準	平常点30%（毎回の授業で、簡単な質問を出します。その答えの内容を重視します） 定期試験70%（授業の内容を理解できているか、論理的な記述であるかを重視します）				
履修上の注意事項等	授業ごとの簡単な質問に関しては、次の授業でその答え、考え方などを紹介します。定期試験については、模範解答をポータルサイトにて公開します。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	美術工芸史学特論（五）		期間	前期	
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	東アジアの壁画—中国美術の展開〈壁画編〉？				
到達目標	以下の2点を目標とする。 ①東アジア全域を包含する美術史として壁画芸術を理解する。②壁画材料と絵画技法に関するアプローチによって、文化財を構造的・復元的に見る方法を理解する。				
授業概要	従来の壁画研究は、考古学・美術史・宗教学・歴史学・保存科学・修復技術の各分野が個別にその成果を出してきた。しかし壁画芸術がその主題を図像と様式によって表現できるのは、それを実現するための壁画材料と絵画技法があったからである。いっぽう古代の壁画はすべてが著しく劣化しており、これを復元的に見ることができなければ、壁画の真の姿に迫ることができない。本講義では、長年にわたる敦煌壁画の調査研究や高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復事業に関わった経験等を活かし、文化財学としての総合的な視点を持って壁画芸術を見ることを論じる。				
評価方法・基準	最終的にレポートによって成績を評価する。出席数が不足していたり（6回以上の欠席）、レポートの未提出がある場合は評価できない。				
履修上の注意事項等	ポータルサイトやメールでの応答とともに行なう。				
テキスト	毎回資料を配付する。				
参考書					

科目名	保存修復学特論（一）		期間	後期	
担当教員	★岡田 文男	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	埋蔵文化財ならびに伝世文化財のなかで、劣化して保存が困難となった木や繊維等の有機質について材質調査と保存処理法を学ぶ。				
到達目標	埋蔵文化財の発掘調査員や博物館・資料館の学芸員として、有機質を主とした脆弱遺物を保存管理するための基本的な知識を習得し、適切な対処法を選択できるようになる。				
授業概要	本講義では、発掘調査で出土した埋蔵文化財のなかの木製品や漆製品、繊維製品などの脆弱遺物の保存処理、ならびにそれらの材質調査の実践を通して得た知見を主に扱う。講義では日本国内をはじめ、中国陝西省や四川省から出土した漢代・唐代の遺物、韓半島から出土した原三国・三国時代の遺物を取り上げる。あわせて、近年取り組んでいる奈良時代の仏像の材質調査、平安時代の建造物塗装調査について取り上げる。本講義では毎回、パワーポイントを用いて講義を行い、PDF資料を事前に配布する。				
評価方法・基準	15回の講義の前半（8回）、後半（7回）において各1回、レポート提出を課す（前半・後半とも課題は授業中に提示する）。レポートの内容および平常点を勘案して総合評価とする。				
履修上の注意事項等	毎回の講義において提出された質問については内容を整理したうえで、次回の講義の冒頭において回答する。毎回配布するPDF資料については受講生の学習目的での利用を認めるが、他者への供与、転用は厳禁とする。				
テキスト	なし				
参考書	木の考古学 伊東隆夫・山田昌久編 海青社 2012 978-4-86099-911-7 絹文化財の世界 奈良文化財研究所編 角川学芸出版 2005 4-04-651973-8 文化財のための保存科学入門 京都造形芸術大学編 角川書店 2002 4-04-651503-1				

科目名	保存修復学特論（三）		期間	後期	
担当教員	★横山 操	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化財保全のための基礎として、さまざまな文化財資料に生じうる劣化現象について、自然科学の視点で講義を行います。				
到達目標	文化財を構成する材料と、材料に特徴的な劣化について知識を深め、文化財の劣化現象に対する観察力を養う。また、修理報告書における客観的記述の基本を身につけることを目標とする。				
授業概要	各回の講義では、劣化した文化財資料の画像を示しながら、資料を構成するそれぞれの材料に、どのような劣化が生じているのか、その要因について考えます（講義中の質疑は歓迎します）。そしてレポート課題を通じ、劣化の分析に必要な思考力・判断力、また自ら観察した内容を客観的に記述して第三者と共有する力、周りとの協力して問題解決する力を身につけることを目指します。文化財保存修復、文化財保存環境、文化財保存科学の基礎学として相互の充実を図ります。				
評価方法・基準	レポート課題を提出いただきます（全3回を予定）。各回のレポートは、文化財の材料と劣化現象の要因について、適切かつ簡潔に自然科学的（客観的）な記述ができているか、また理解到達度について評価します。				
履修上の注意事項等	提出いただいたレポートは、それぞれ個別に採点・講評し、次回の講義の際に返却します。また、返却時に質疑応答時間を設け、受講生と課題を共有します。自然科学の基礎学力について、高校での履修は不問です。				
テキスト	文化財と標本の劣化図鑑 朝倉書店 2023 978-4-254-10301-4				
参考書					

文化財史料学専攻博士後期課程

履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に3年以上在学し、下記の授業科目の中から指導教員が担当する特殊研究を含め**12単位以上**修得し（12単位中には、原則として指導教員が担当する科目を複数年にわたって履修した単位を含むものとする）、博士学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
* 研究指導は、指導教員が担当する特殊研究の中で行う。
2. 履修に際しては博士学位取得のためのガイドライン〔課程博士〕（P18）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。

2024年度 開講科目一覧表

曜 日 限 時	科 目 名	担 当 者	開 講 期 間	配 当 年 次	単 位 数	聴 講 等 可 否	N コード	履 修 上 の 注 意 事 項
月・3	日本史特殊研究Ⅰ	外岡慎一郎	前期	1・2・3	2	×	CHJH-701G	
月・3	日本史特殊研究Ⅱ	外岡慎一郎	後期	1・2・3	2	×	CHJH-702G	
水・5	日本史特殊研究Ⅲ	河内 将芳	前期	1・2・3	2	×	CHJH-703G	
水・5	日本史特殊研究Ⅳ	河内 将芳	後期	1・2・3	2	×	CHJH-704G	
水・1	日本史特殊研究Ⅴ	渡辺 晃宏	前期	1・2・3	2	×	CHJH-705G	
水・1	日本史特殊研究Ⅵ	渡辺 晃宏	後期	1・2・3	2	×	CHJH-706G	
金・5	美術工芸史特殊研究Ⅰ	大河内智之	前期	1・2・3	2	×	CHAH-701G	
金・5	美術工芸史特殊研究Ⅱ	大河内智之	後期	1・2・3	2	×	CHAH-702G	
金・3	美術工芸史特殊研究Ⅲ	原口志津子	前期	1・2・3	2	×	CHAH-703G	
金・3	美術工芸史特殊研究Ⅳ	原口志津子	後期	1・2・3	2	×	CHAH-704G	
火・2	考古学特殊研究Ⅰ	相原 嘉之	前期	1・2・3	2	×	CHAR-701G	
火・2	考古学特殊研究Ⅱ	相原 嘉之	後期	1・2・3	2	×	CHAR-702G	
水・3	考古学特殊研究Ⅲ	豊島 直博	前期	1・2・3	2	×	CHAR-703G	
水・3	考古学特殊研究Ⅳ	豊島 直博	後期	1・2・3	2	×	CHAR-704G	
月・2	保存修復学特殊研究Ⅰ	今津 節生	前期	1・2・3	2	×	CHPS-701G	
月・2	保存修復学特殊研究Ⅱ	今津 節生	後期	1・2・3	2	×	CHPS-702G	
火・1	史料学特殊研究Ⅰ	吉川 敏子	前期	1・2・3	2	×	CHHS-701G	
火・1	史料学特殊研究Ⅱ	吉川 敏子	後期	1・2・3	2	×	CHHS-702G	
月・3	国際史料学特殊研究Ⅰ	山崎 岳	前期	1・2・3	2	×	CHIH-701G	
月・3	国際史料学特殊研究Ⅱ	山崎 岳	後期	1・2・3	2	×	CHIH-702G	
※	国際史料学特殊研究Ⅲ	—	—	1・2・3	2	—	CHIH-703G	
※	国際史料学特殊研究Ⅳ	—	—	1・2・3	2	—	CHIH-704G	
集中	学 位 論 文	共 同	集中	3	0		CHDT-701G	

※本年度開講せず。

研究指導は、指導教員による特殊研究などにおいて行う。したがって、12単位中には、原則として指導教員が担当する科目を複数年にわたって履修した単位を含むものとする。

科目名	日本史特殊研究Ⅰ			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	中世社会の構造をとらえる				
到達目標	中世社会を様々な切り口から分析した論文を読んで、中世社会の構想的特質とその変動について理解を深める。				
授業概要	岩波講座日本歴史（2013年～）に収録された論文を各回1本読み、議論していく。				
評価方法・基準	期末レポート（詳細は授業中に指示）による。レポートの評価については、日本中世史研究の現状と課題について、どの程度理解を深めているか、自らの研究課題との関係性について十分把握しているかを特に重視することになる。				
履修上の注意事項等	授業中に対話討論の場が設けられる。研究指導はオフィス・アワーでも対応する。各回の論文テーマにかかる周辺の論文も読んで授業に臨んでほしい。				
テキスト	指定しない。				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	日本史特殊研究Ⅱ			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本中世の法と社会を考える				
到達目標	法と社会の連動性を日本中世という場で確認することを通じて、現代社会の課題に向き合う足場を構築する。				
授業概要	日本中世の社会と法の連動性について論じた重要論文の輪読。各回担当者を決め、報告と討論により進めていく。				
評価方法・基準	課題論文にかかる論文評（2本）と平常点（論文の理解力を評価）による。				
履修上の注意事項等	各回の討議のなかでフィードバックが可能であるが、時間の都合などあればオフィスアワーなどで対応する。各回コメントを求め討議に参加してもらうので、指定論文は言うまでもなく関連論文についても参照しておくことを期待する。				
テキスト	指定しない。				
参考書	講義中適宜紹介する。				

科目名	日本史特殊研究Ⅲ			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本中世史料の研究				
到達目標	日本中世の史料の読解とともに、博士論文作成の能力を高める。				
授業概要	受講生による研究報告と史料の読解をまじえて授業を展開する。研究報告では、博士論文作成に資する発表とそれに対する質疑応答のくり返しをおこなう。また、史料の読解でも、博士論文作成に資する史料の読解をとおして、その理解を深めるとともに、議論を重ねて、研究の段階へとすすめるように鍛錬していく。				
評価方法・基準	研究報告の内容（100%）（報告内容の充実度を重視する）				
履修上の注意事項等	授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。査読誌などへの投稿を目標とする内容をそなえた研究報告がもとめられる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	日本史特殊研究Ⅳ			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本中世史料の研究				
到達目標	日本中世の史料の読解とともに、博士論文作成の能力を高める。				
授業概要	受講生による研究報告と史料の読解をまじえて授業を展開する。研究報告では、博士論文作成に資する発表とそれに対する質疑応答のくり返しをおこなう。また、史料の読解でも、博士論文作成に資する史料の読解をとおして、その理解を深めるとともに、議論を重ねて、研究の段階へとすすめるように鍛錬していく。				
評価方法・基準	研究報告の内容（100%）（報告内容の充実度を重視する）				
履修上の注意事項等	授業中の報告については、担当教員がその場でコメントし評価する。査読誌などへの投稿を目標とする内容をそなえた研究報告がもとめられる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	日本史特殊研究V			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本古代史料の研究				
到達目標	日本古代の史料を熟読しながら、関連する諸問題について考え、博士論文作成の能力を鍛える。				
授業概要	<p>次の2点を行う。</p> <p>1、受講生による研究発表を、半期に一人2～4回行い、その内容について、質疑応答を繰り返しながら、研究を深める。</p> <p>2、受講生の研究分野に近い史料をとりあげ、一緒に読み進めながら、論点を掘り下げてゆく。したがって、受講生が決まっていない段階では、どの史料を読むかは未定である（以下では、仮に賦役令集解を読む場合を例示する）。</p> <p>1の研究発表の合間に2の史料研究を挟んでゆく。</p>				
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントする。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	日本史特殊研究VI			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本古代史料の研究				
到達目標	日本古代の史料を熟読しながら、関連する諸問題について考え、博士論文作成の能力を鍛える。				
授業概要	<p>次の2点を行う。</p> <p>1、受講生による研究発表を、半期に一人2～4回行い、その内容について、質疑応答を繰り返しながら、研究を深める。</p> <p>2、受講生の研究分野に近い史料をとりあげ、一緒に読み進めながら、論点を掘り下げてゆく。したがって、受講生が決まっていない段階では、どの史料を読むかは未定である（以下では、仮に賦役令集解を読む場合を例示する）。</p> <p>1の研究発表の合間に2の史料研究を挟んでゆく。</p>				
評価方法・基準	報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、その都度その場でコメントする。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	美術工芸史特殊研究 I			期間	前期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	熊野信仰の美術				
到達目標	日本文化の核となる宗教文化の表象である宗教美術について、熊野信仰を軸にすることで、仏像・神像・仏画・工芸品など多岐にわたる資料に関する知識を獲得し、美術資料を通して歴史を読み解く視点を構築できるようにする。				
授業概要	熊野信仰とは、紀伊半島南部の熊野地域で発生したローカルな神祇信仰をもとに、平安時代後期に仏教・山岳信仰と接近する中で阿弥陀信仰と融合して神々の性格が変わり、多数の院の御幸（熊野詣）などを経て全国に爆発的に広まった、日本文化史上に注目される信仰の枠組みである。熊野信仰との関わりのなかで生み出された美術資料を一望しながら、信仰の表象としての美術資料を歴史の中に位置づけ、また美術資料から読み解くことのできる歴史について考える。				
評価方法・基準	講義時に実施する学習到達度確認 50%、レポート 50%。				
履修上の注意事項等	課題等は、次回以降の授業時までに添削し返却する。博物館での展覧会状況、社寺の文化財特別公開、最新の発掘情報などにも常に注意をはらい、この講義が情報交換の場にもなるように心得ること。				
テキスト	適宜論文やプリントを配布する。				
参考書	その都度、指示する。				

科目名	美術工芸史特殊研究 II			期間	後期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	仏像と地域史				
到達目標	仏像（神像を含む）の情報（作風・形状・構造・銘記・修理情報）を把握し、そこから制作年代を読み取ったうえで、地域（中央・地方を含む）の歴史の中に資料を位置づけ、仏像から読み解く地域史という視点を構築できるようにする。				
授業概要	仏像（神像を含む）は、信仰の場と密接に結びつきながら、それを必要とした人・集団・地域の画期において制作され、また維持されてきた。仏像がいつ造像され、どのように伝来したのかを追求することで、仏像はそれが伝来してきた地域の歴史の一断面を語りかけてくれる。この授業では仏像が持つ情報を分析する方法を検討し、そこから地域の歴史を叙述する手法について検討する。				
評価方法・基準	講義時に実施する学習到達度確認 50%、レポート 50%。				
履修上の注意事項等	課題等は、次回以降の授業時までに添削し返却する。博物館での展覧会状況、社寺の文化財特別公開、最新の発掘情報などにも常に注意をはらい、この講義が情報交換の場にもなるように心得ること。				
テキスト	適宜論文やプリントを配布する。				
参考書	その都度、指示する。				

科目名	美術工芸史特殊研究Ⅲ		期間	前期	
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本美術史研究・日本工芸史研究				
到達目標	<p>・高度な美術・工芸史研究に資する専門知識、方法論を習得する。</p> <p>・作品の精査と、それに基づく研究法を習得する。</p>				
授業概要	<p>作品に関する様々なアプローチを可能とするための方法を習得する一環として、前期は主として経典に基づく儀礼に関連する絵画と説話画の作品を念頭において考察を進めるが、最終的には履修者との相談で若干の修正を行ったうえで決定する。</p>				
評価方法・基準	課題発表の内容(50%)、小論文(50%)によって評価する。				
履修上の注意事項等	<p>提出された課題・レポート等は、添削・コメントを付したうえで、次回以降の授業時に返却する。論文は別途時間を設け、個別相談により進める。博士論文の完成が目標である。可能な限り目標に近づくよう、日々資料を収集し、論文内容の向上をはかること。</p>				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	別途指示する。				

科目名	美術工芸史特殊研究Ⅳ		期間	後期	
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本絵画史・日本工芸史				
到達目標	<p>・高度な美術・工芸史研究に資する専門知識、方法論を習得する。</p> <p>・作品の精査と、それに基づく研究法を習得する。”</p>				
授業概要	<p>経典や説話を論文へ応用する場合の方法と注意事項を確認する。作品に関する様々なアプローチを可能とするための方法を習得する一環として、様々なモチーフや構図、先行図像の把握を目標として考察を行う。最終的には履修者との相談で若干の修正を行ったうえで決定する。</p>				
評価方法・基準	課題発表の内容(50%)、小論文(50%)によって評価する。				
履修上の注意事項等	<p>提出された課題・レポート等は、添削・コメントを付したうえで、次回以降の授業時に返却する。論文は別途時間を設け、個別相談により進める。博士論文の完成が目標である。可能な限り目標に近づくよう、日々資料を収集し、論文内容の向上をはかること。必要に応じてPCを持参すること。</p>				
テキスト	適宜、プリントを配布する。				
参考書	その都度、指示する。				

科目名	考古学特殊研究Ⅰ		期間	前期	
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	考古学研究の深化。				
到達目標	受講生がそれぞれの分野を前進させる、すぐれた研究実践能力を身につける。				
授業概要	<p>この特殊研究は、受講生の学術研究テーマに従って指導をしていきます。考古学を中心にした研究を前進させ、すぐれた博士論文をまとめられるように、資料の取り扱い、分析方法を点検し、先行研究を越える研究の達成を目指します。</p>				
評価方法・基準	平常点50%(講義への取り組み、講義中のディスカッションへの積極的な参加)、学習到達度50%(歴史考古学の理解度と学融合的な研究の技法の理解度)にもとづいて評価します。				
履修上の注意事項等	<p>講義中に指示した課題への発表内容に関して、担当教員からいねいに解説し、疑問を解決していきます。発表は、研究状況を勘案して行います。</p>				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特殊研究Ⅱ		期間	後期	
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	考古学研究の深化。				
到達目標	受講生がそれぞれの分野を発展させるすぐれた研究を達成し、学界に貢献していく能力を身につける。				
授業概要	<p>この特殊研究は、受講生の学術研究テーマに従って指導をしていく。考古学研究を前進させ、すぐれた研究論文をまとめられるように、資料の取り扱い、分析方法を点検し、先行研究を越える研究の達成を目指す。</p>				
評価方法・基準	平常点50%(講義への取り組み、講義中のディスカッションへの積極的な参加)、学習到達度50%(歴史考古学の理解度と学融合的な研究の技法の理解度)にもとづいて評価します。				
履修上の注意事項等	<p>受講生の演習発表に対して、担当教員が毎回、内容を点検し、課題や改善点をフィードバックします。受講生の研究状況を見極めて、適切な発表計画を立て、学習内容を定めていきます。</p>				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特殊研究Ⅲ			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本と海外の考古学の比較研究				
到達目標	研究論文の執筆				
授業概要	イギリス考古学の影響を受けて発展した日本考古学は、詳細な観察、記録作成技術の高さにおいて、世界でも高い評価を得ている。一方では、理論研究の低調さや国際的視野の不足などの課題も指摘されている。この演習では、学位論文の成果を受けて独自の研究を進展させるとともに、外国の考古学についても成果を学び、新たな研究視点の開拓を目指す。具体的には、各自の作業を継続してその成果を発表し、外国考古学については個別論文を読んで内容を議論する。				
評価方法・基準	学生自身の研究内容をまとめた期末レポートと、発表時に作成した資料を加味する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特殊研究Ⅳ			期間	後期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	日本と海外の考古学の比較研究				
到達目標	研究論文の執筆				
授業概要	イギリス考古学の影響を受けて発展した日本考古学は、詳細な観察、記録作成技術の高さにおいて、世界でも高い評価を得ている。一方では、理論研究の低調さや国際的視野の不足などの課題も指摘されている。この演習では、学位論文の成果を受けて独自の研究を進展させるとともに、外国の考古学についても成果を学び、新たな研究視点の開拓を目指す。具体的には、各自の作業を継続してその成果を発表し、外国考古学については個別論文を読んで内容を議論する。				
評価方法・基準	学生自身の研究内容をまとめた期末レポートと、発表時に作成した資料を加味する。				
履修上の注意事項等	レポートにコメントを付して返却する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	保存修復学特殊研究Ⅰ			期間	前期
担当教員	今津 節生	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	文化財の科学調査と科学的保存処理・修復の実例を講義し、知識の向上と研究の課題を探る。				
到達目標	文化財の保存修復の知識と経験を積み、自己の研究を深め、研究者として独立できることを目標とする。				
授業概要	文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。				
評価方法・基準	研究発表の内容(50%)・期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については、発表直後にコメントすると共に評価する。また、広く関連研究についてアドバイスする。レポートは添削後、個別面談して問題点を指摘する。講義と共に、実際の文化財を対象とした分析・保存修復を行うので連続性が重要になる。段階的な知識と経験が必要になるので、欠席しないこと。				
テキスト	なし				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	保存修復学特殊研究Ⅱ			期間	後期
担当教員	今津 節生	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	文化財の科学調査と科学的保存処理・修復の実例を講義し、知識の向上と研究の課題を探る。				
到達目標	文化財の保存修復の知識と経験を積み、自己の研究を深め、研究者として独立できることを目標とする。				
授業概要	文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。前期の講義よりも、さらに実務の習得を重視し、論理性を高める。				
評価方法・基準	研究発表の内容(50%)・期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。特に発表・レポートの論理性やデータの蓄積を評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の発表については、発表直後にコメントすると共に評価する。また、広く関連研究についてアドバイスする。レポートは添削後、個別面談して問題点を指摘する。講義と共に、実際の文化財を対象とした分析・保存修復を行うので連続性が重要になる。段階的な知識と経験が必要になるので、欠席しないこと。				
テキスト	なし				
参考書	随時、講義で紹介する。				

科目名	史料学特殊研究Ⅰ			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	古代氏族の系譜				
到達目標	古代氏族の系譜や系図を読み解き、古代社会の根底にある族意識や古代人のアイデンティティについて考えることを通して、論理的な思考力を修得する。				
授業概要	「円珍俗姓系図」「海部氏系図」などを研究対象とする。史料を読解した上で、先行研究を読んで論旨を整理し、系図が持つ問題点を抽出する。その問題点について各自で検討し、発表し、ディスカッションする。それぞれの系譜・系図についてこれを繰り返す中で、史料に込められた古代人の認識を各自で考え、学期末に研究レポートを作成する。				
評価方法・基準	授業中の発表（40％）とレポート（60％）とで評価する。先行研究の理解、史料の分析・洞察、論理的な考察・論証などの達成度を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	各回の授業での発表や発言について指導する。レポートについてはコメントをつけて返却する。テキストや参考文献は授業にて紹介、配布する。古代氏族の系譜意識についての理解を深めるために、史料学特殊研究Ⅱと合わせて履修することが望ましい。				
テキスト	プリント配付。				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	史料学特殊研究Ⅱ			期間	後期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	古代氏族の系譜				
到達目標	古代氏族の系譜や系図を読み解き、古代社会の根底にある族意識や古代人のアイデンティティについて考えることを通して、論理的な思考力を修得する。				
授業概要	「上官記逸文」「賀茂県主系図」などを研究対象とする。史料を読解した上で、先行研究を読んで論旨を整理し、系図が持つ問題点を抽出する。その問題点について各自で検討し、発表し、ディスカッションする。それぞれの系譜・系図についてこれを繰り返す中で、史料に込められた古代人の認識を各自で考え、学期末に研究レポートを作成する。				
評価方法・基準	授業中の発表（40％）とレポート（60％）とで評価する。先行研究の理解、史料の分析・洞察、論理的な考察・論証などの達成度を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	各回の授業での発表や発言について指導する。レポートについてはコメントをつけて返却する。テキストや参考文献は授業にて紹介、配布する。古代氏族の系譜意識についての理解を深めるために、史料学特殊研究Ⅰと合わせて履修することが望ましい。				
テキスト	プリント配付。				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	国際史料学特殊研究Ⅰ			期間	前期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	東洋史学研究指導				
到達目標	東洋史の文献を、自分の関心にしがって網羅的に収集・読解し、博士論文作成の基礎を築く。				
授業概要	博士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	国際史料学特殊研究Ⅱ			期間	後期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1・2・3
テーマ	東洋史学研究指導				
到達目標	東洋史の文献を、自分の関心にしがって網羅的に収集・読解し、博士論文作成の基礎を築く。				
授業概要	博士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	授業中あるいは時間外に適宜対応する。報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

地理学専攻修士課程

履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、次頁の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に次頁の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。
2. 演習は、4科目8単位を履修すること。
* 研究指導は、指導教員が担当する演習の中で行うので、指導教員が担当する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必ず履修すること。
3. 特殊講義は、「自然地理学分野」「人文地理学分野」「地誌学分野」の各分野からそれぞれ2科目ずつ、合計6科目12単位を選択履修すること。
4. 残りの6科目12単位は、指導教員以外の演習（事前に担当教員の了解を得ること。単位として認定する。）、上記3で選択した以外の特殊講義、及び「共通分野」の科目（ただし、特論の履修は4科目8単位までとし、履修に際しては事前に指導教員と相談すること。）から選択履修できる。各分野の特殊講義及び共通分野の科目については、担当者の変更があれば重複履修を認める。2科目4単位については、文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる。
5. 履修に際しては、修士論文提出要領（P14）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。
6. 専修免許状「社会」「地理歴史」を希望する学生は、P21「専修免許状の取得について」を、「GIS専門学術士」を希望する学生は、P23「GIS専門学術士取得について」を確認すること。

2024年度 地理学専攻 開講科目一覧表

曜 日 時 限	科 目 名	担当者 ★は非常勤講師	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項	
金・5	自然地理学分野	自然地理学演習Ⅰ(一)	羽佐田絃大	前期	1	2	×	GEPH-601S	
金・5		自然地理学演習Ⅱ(一)	羽佐田絃大	後期	1	2	×	GEPH-602S	
金・5		自然地理学演習Ⅲ(一)	羽佐田絃大	前期	2	2	×	GEPH-603S	
金・5		自然地理学演習Ⅳ(一)	羽佐田絃大	後期	2	2	×	GEPH-604S	
水・4		自然地理学演習Ⅰ(二)	木村 圭司	前期	1	2	×	GEPH-601S	
水・4		自然地理学演習Ⅱ(二)	木村 圭司	後期	1	2	×	GEPH-602S	
水・4		自然地理学演習Ⅲ(二)	木村 圭司	前期	2	2	×	GEPH-603S	
水・4		自然地理学演習Ⅳ(二)	木村 圭司	後期	2	2	×	GEPH-604S	
金・4		自然地理学(地形)特殊講義(一)	羽佐田絃大	前期	1・2	2	○	GEPH-501L	
金・4		自然地理学(地形)特殊講義(二)	羽佐田絃大	後期	1・2	2	○	GEPH-501L	
水・5		自然地理学(気候)特殊講義(一)	木村 圭司	前期	1・2	2	○	GEPH-502L	
水・5		自然地理学(気候)特殊講義(二)	木村 圭司	後期	1・2	2	○	GEPH-502L	
※		自然地理学(環境)特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	GEPH-503L	
※		自然地理学(環境)特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	GEPH-503L	
月・5	人文地理学分野	人文地理学演習Ⅰ(一)	古関 喜之	前期	1	2	×	GEHG-601S	
月・5		人文地理学演習Ⅱ(一)	古関 喜之	後期	1	2	×	GEHG-602S	
月・5		人文地理学演習Ⅲ(一)	古関 喜之	前期	2	2	×	GEHG-603S	
月・5		人文地理学演習Ⅳ(一)	古関 喜之	後期	2	2	×	GEHG-604S	
火・3		人文地理学演習Ⅰ(二)	土平 博	前期	1	2	×	GEHG-601S	
火・3		人文地理学演習Ⅱ(二)	土平 博	後期	1	2	×	GEHG-602S	
火・3		人文地理学演習Ⅲ(二)	土平 博	前期	2	2	×	GEHG-603S	
火・3		人文地理学演習Ⅳ(二)	土平 博	後期	2	2	×	GEHG-604S	
月・3		人文地理学(農村)特殊講義(一)	古関 喜之	前期	1・2	2	○	GEHG-501L	
月・3		人文地理学(農村)特殊講義(二)	古関 喜之	後期	1・2	2	○	GEHG-501L	
金・1		人文地理学(歴史)特殊講義(一)	土平 博	前期	1・2	2	○	GEHG-502L	
金・1		人文地理学(歴史)特殊講義(二)	土平 博	後期	1・2	2	○	GEHG-502L	
火・2		人文地理学(文化)特殊講義(一)	★岡橋 秀典	前期	1・2	2	○	GEHG-503L	
火・2		人文地理学(文化)特殊講義(二)	★岡橋 秀典	後期	1・2	2	○	GEHG-503L	
水・1		人文地理学(都市)特殊講義(一)	★根田 克彦	前期	1・2	2	○	GEHG-504L	
水・1		人文地理学(都市)特殊講義(二)	★根田 克彦	後期	1・2	2	○	GEHG-504L	
火・2	地誌学分野	地域・地誌学演習Ⅰ(一)	酒井 高正	前期	1	2	×	GETS-601S	
火・2		地域・地誌学演習Ⅱ(一)	酒井 高正	後期	1	2	×	GETS-602S	
火・2		地域・地誌学演習Ⅲ(一)	酒井 高正	前期	2	2	×	GETS-603S	
火・2		地域・地誌学演習Ⅳ(一)	酒井 高正	後期	2	2	×	GETS-604S	
火・3		地域・地誌学演習Ⅰ(二)	三木 理史	前期	1	2	×	GETS-601S	
火・3		地域・地誌学演習Ⅱ(二)	三木 理史	後期	1	2	×	GETS-602S	
火・3		地域・地誌学演習Ⅲ(二)	三木 理史	前期	2	2	×	GETS-603S	
火・3		地域・地誌学演習Ⅳ(二)	三木 理史	後期	2	2	×	GETS-604S	
月・4		地域・地誌学演習Ⅰ(三)	稲垣 稜	前期	1	2	×	GETS-601S	
月・4		地域・地誌学演習Ⅱ(三)	稲垣 稜	後期	1	2	×	GETS-602S	
月・4		地域・地誌学演習Ⅲ(三)	稲垣 稜	前期	2	2	×	GETS-603S	
月・4		地域・地誌学演習Ⅳ(三)	稲垣 稜	後期	2	2	×	GETS-604S	
水・3		地域・地誌学(日本)特殊講義(一)	稲垣 稜	前期	1・2	2	○	GETS-501L	
水・3		地域・地誌学(日本)特殊講義(二)	稲垣 稜	後期	1・2	2	○	GETS-501L	
火・1		地域・地誌学(先進地域)特殊講義(一)	酒井 高正	前期	1・2	2	○	GETS-502L	
火・1		地域・地誌学(先進地域)特殊講義(二)	酒井 高正	後期	1・2	2	○	GETS-502L	
火・4		地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(一)	三木 理史	前期	1・2	2	○	GETS-503L	
火・4		地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(二)	三木 理史	後期	1・2	2	○	GETS-503L	
※		共通	地理情報学特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	GECO-501L
※			地理情報学特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	GECO-501L
※	自然地理学特論(一)		—	—	1・2	2	—	GECO-502L	
水・1	自然地理学特論(二)		木村 圭司	後期	1・2	2	○	GECO-502L	
※	人文地理学特論(一)		—	—	1・2	2	—	GECO-503L	
火・2	人文地理学特論(二)		土平 博	後期	1・2	2	○	GECO-503L	
※	人文地理学特論(三)		—	—	1・2	2	—	GECO-503L	
火・3	地域・地誌学特論(一)		酒井 高正	後期	1・2	2	○	GECO-504L	
火・1	地域・地誌学特論(二)		三木 理史	後期	1・2	2	○	GECO-504L	
月・1	地域・地誌学特論(三)		稲垣 稜	前期	1・2	2	○	GECO-504L	
その他	国内巡検計画法Ⅰ		土平 博	他	1・2	1	○	GECO-505P	
その他	国内巡検計画法Ⅱ		土平 博	他	1・2	1	○	GECO-506P	
その他	外国巡検計画法Ⅰ	木村 圭司	他	1・2	1	○	GECO-507P		
その他	外国巡検計画法Ⅱ	木村 圭司	他	1・2	1	○	GECO-508P		
集中	学位論文	共同	集中	2	0		GEDT-601G		

※本年度開講せず

科目名	自然地理学演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1
テーマ	自然地理学、特に地形学に関する修士論文作成に向けての準備（前半）				
到達目標	地形学の修士論文を作成するための知識・技能を体得する。				
授業概要	地形学に関する論文を読み込んで従来の研究動向を理解するとともに、テーマや調査対象地域の設定方法や資料収集方法を学ぶ。				
評価方法・基準	作業状況・発表・討論を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表に対しては改善点等を口頭で指摘し、提出物については必要に応じて添削し返却する。特に指示がない限りは【ノートPC】を持参する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	自然地理学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1
テーマ	自然地理学、特に地形学に関する修士論文作成に向けての準備（後半）				
到達目標	地形学の修士論文を作成するための知識・技能を体得する。				
授業概要	地形学の研究に関する、データの分析方法、図表による表現方法、論文の執筆方法、研究発表方法を学ぶ。				
評価方法・基準	作業状況・発表・討論を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表時は改善点等を口頭で指摘し、提出物については必要に応じて添削し返却する。特に指示がない限りは【ノートPC】を持参する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	自然地理学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の作成（前半）				
到達目標	修士論文作成に必要な資料等を収集する。				
授業概要	自然地理学、特に地形学に関する修士論文の作成を目指す。				
評価方法・基準	授業への参加状況（出席状況、中間発表の内容、議論への参加の程度など）で評価する。				
履修上の注意事項等	発表に対してコメントする。また、提出物については添削・評価し返却する。特に指示がない限りは【ノートPC】を持参する。スケジュールに沿って着実に取り組むことが重要である。				
テキスト	適宜紹介する。				
参考書	なし				

科目名	自然地理学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の作成（後半）				
到達目標	自然地理学演習Ⅲで収集した資料等に基づき、修士論文を作成する。				
授業概要	夏休みまでに収集した各種資料・データを分析し、その結果を図表にまとめ、最終的に修士論文を完成させる。				
評価方法・基準	授業への参加状況（出席状況、中間発表の内容、議論への参加の程度など）で評価する。				
履修上の注意事項等	発表に対してコメントする。また、提出物については添削・評価し返却する。特に指示がない限りは【ノートPC】を持参する。スケジュールに沿って着実に取り組むことが重要である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	自然地理学演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1
テーマ	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修士論文作成に向けての準備				
到達目標	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する研究を進めていく上で必要な調査・解析方法および論文の作成方法を体得する。				
授業概要	自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文作成のための準備を行う。学術論文を輪読して既存研究に関する理解を深め、調査・解析方法を学び、論文の作成方法を体得する。				
評価方法・基準	作業状況・発表・討論を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表時は口頭で指導を行う。レポート提出時は採点を行う。気候学・水文学の研究を進めるには、英語文献の利用が不可欠である。修士論文の作成準備にあたって、受講生が主体的に行動することはもちろんだが、日頃から受講生と教員の間で対話が必要である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	自然地理学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1
テーマ	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修士論文作成に向けての準備				
到達目標	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する研究を進めていく上で必要な調査・解析方法および論文の作成方法を体得する。				
授業概要	自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文作成のための準備を行う。学術論文を輪読して既存研究に関する理解を深め、調査・解析方法を学び、論文の作成方法を体得する。				
評価方法・基準	作業状況・発表・討論を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表時は口頭で指導を行う。レポート提出時は採点を行う。気候学・水文学の研究を進めるには、英語文献の利用が不可欠である。修士論文の作成準備にあたって、受講生が主体的に行動することはもちろんだが、日頃から受講生と教員の間で対話が必要である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	自然地理学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	2
テーマ	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修士論文の作成				
到達目標	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する研究を進め、修士論文を作成する。				
授業概要	自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文の作成を行う。また、修士論文を作成するために、関連する学術論文を輪読し、先行研究で残されている課題などを整理する。				
評価方法・基準	作業状況・発表・討論を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表時は口頭で指導を行う。レポート提出時は採点を行う。気候学・水文学の研究を進めるには、英語文献の利用が不可欠である。修士論文作成にあたって、受講生が主体的に行動することはもちろんだが、日頃から受講生と教員の間で対話が必要である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	自然地理学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	2
テーマ	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修士論文の作成				
到達目標	自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する研究を進め、修士論文を作成する。				
授業概要	自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文の作成を行う。また、修士論文を作成するために、関連する学術論文を輪読し、先行研究で残されている課題などを整理する。				
評価方法・基準	作業状況・発表・討論を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表時は口頭で指導を行う。レポート提出時は採点を行う。気候学・水文学の研究を進めるには、英語文献の利用が不可欠である。修士論文作成にあたって、受講生が主体的に行動することはもちろんだが、日頃から受講生と教員の間で対話が必要である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	自然地理学(地形)特殊講義(一)		期間	前期	
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	地形学の基本的事項				
到達目標	1. 地形の種類とその形成過程についての知識を習得する。 2. さまざまな地形と自然災害、土地利用との関係を把握する。				
授業概要	本講義では、さまざまな地域、規模の地形を対象として、それらの特徴や形成過程、成因などについて解説していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。さらに、地形図などを用いながら、対象地域の地形の特徴と人々の暮らしとの関係を理解していく。				
評価方法・基準	小テスト（基本的な内容を理解しているかを確認）や小課題（講義内容を基に考察できているかを確認）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	小テストや小課題を実施した際は次回の講義で解説する。毎回教材を配布する。ノートPCやタブレット等を持参し、Web地図等を閲覧しながら受講することが望ましい。				
テキスト	毎回教材を配布。				
参考書	適宜紹介。				

科目名	自然地理学(地形)特殊講義(二)		期間	後期	
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	さまざまな地形への理解				
到達目標	1. 地形の種類とその形成過程についての知識を習得する。 2. さまざまな地形と自然災害、土地利用との関係を把握する。				
授業概要	本講義では、さまざまな地域、規模の地形を対象として、それらの特徴や形成過程、成因などについて、多数の空中写真や地形図を基に解説していく。				
評価方法・基準	小テスト（基本的な内容を理解しているかを確認）や小課題（講義内容を基に考察できているかを確認）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	小テストや小課題を実施した際は次回の講義で解説する。毎回教材を配布する。ノートPCやタブレット等を持参し、Web地図等を閲覧しながら受講することが望ましい。				
テキスト	毎回教材を配布。				
参考書	写真と図でみる地形学 増補新装版 貝塚爽平ほか編 東京大学出版会 2019 978-4-13-062730-6 その他適宜紹介				

科目名	自然地理学(気候)特殊講義(一)		期間	前期	
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	自然地理学のうち、水文学・気候学に関する理論を知り、最新の研究結果に触れる。				
到達目標	大気と水は自然環境の重要な要素であり、その変動により人類は大きな影響を受ける。本講義では、大気と水の時空間変動について深い知識を持ち、思考できる能力を持つ。				
授業概要	主に気候学的内容を扱う。さまざまな時間スケールと空間スケールで展開する気候学的内容を多面的に把握し、その相互関係や人間への影響などについて解説・考察する。				
評価方法・基準	小テストと複数回のレポート等により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	レポートを採点し、返却する。気候現象は国境をまたいで生じるため、日本語資料だけでなく英語資料を使用することがある。GISやリモートセンシングの基礎的な内容は理解しているものとして、講義は進められる。				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	自然地理学(気候)特殊講義(二)		期間	後期	
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	自然地理学のうち、水文学に関する理論を知り、最新の研究結果に触れる。				
到達目標	大気と水は自然環境の重要な要素であり、その変動により人類は大きな影響を受ける。本講義では、大気と水の時空間変動について深い知識を持ち、思考できる能力を持つ。				
授業概要	主に水文学的内容を扱う。さまざまな時間スケールと空間スケールで展開する気候学・水文学的内容を多面的に把握し、その相互関係や人間への影響などについて解説・考察する。				
評価方法・基準	小テストと複数回のレポート等により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	レポートを採点して返却する。水文現象は国境をまたいで生じるため、日本語資料だけでなく英語資料を使用することがある。GISやリモートセンシングの基礎的な内容は理解しているものとして、講義は進められる。				
テキスト	使用しない。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	人文地理学演習Ⅰ（一）		期間	前期	
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1
テーマ	修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士での研究基礎を構築する。				
到達目標	1. 修士での研究基礎を構築し、課題を特殊化させるための糸口をつかむことができるようになる。 2. 修士論文作成に資する研究の方法論、論文作成法の学習を通じて、自立的な研究姿勢を身につけることができるようになる。				
授業概要	農村地理学・農業地理学に関する修士論文作成に向け、研究テーマを設定する。具体的には自分の興味関心に沿ったテーマの文献を収集し講読することを通して、自ら研究課題を設定し、資料を収集し、現地調査を実施するための基礎的な調査能力を身につける。そのための指導を行う。				
評価方法・基準	授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論の評価を加える。				
履修上の注意事項等	授業の質疑応答で対応する。演習では、議論や課題などへの主体的な参加が求められる。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅱ（一）		期間	後期	
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1
テーマ	修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士での研究基礎を構築する。				
到達目標	1. 修士での研究基礎を構築し、研究課題と調査方法を明確にすることができる。 2. 修士論文作成に資する研究の方法論、論文作成法の学習を通じて、自立的な研究姿勢を身につけることができるようになる。				
授業概要	人文地理学演習Ⅰの成果をふまえて、農村や農業、農産物流通、フードシステムなどに関して、研究課題を明確にし、調査地域を選定し、研究構想、調査計画について指導する。				
評価方法・基準	授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論の評価を加える。				
履修上の注意事項等	授業の質疑応答で対応する。演習では、議論や課題などへの主体的な参加が求められる。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅲ（一）		期間	前期	
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士での研究基礎を構築する。				
到達目標	1. 修士論文を作成し、地域調査を通じて地域で展開する様々な現象や課題を客観的に考える能力を身につけることができる。 2. 修士論文作成に資する研究の方法論、論文作成法の学習を通じて、自立的な研究姿勢を身につけることができるようになる。				
授業概要	研究や論文執筆の実践力を高めるため、研究および論文執筆の方法論を学習するとともに、それをもとに実際に論文の準備を進め、発表と質疑により、実践的研究指導を行う。				
評価方法・基準	授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論の評価を加える。				
履修上の注意事項等	授業の質疑応答で対応する。演習では、議論や課題などへの主体的な参加が求められる。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅳ（一）		期間	後期	
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士での研究基礎を構築する。				
到達目標	1. 修士論文を作成し、地域調査を通じて地域で展開する様々な現象や課題を客観的に考える能力を身につけることができる。 2. 修士論文作成に資する研究の方法論、論文作成法の学習を通じて、自立的な研究姿勢を身につけることができるようになる。				
授業概要	研究や論文執筆の実践力を高めるため、研究および論文執筆の方法論を学習するとともに、それをもとに実際に論文の準備を進め、発表と質疑により、実践的研究指導を行う。				
評価方法・基準	授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論、課題（成果物）の評価を加える。				
履修上の注意事項等	課題は添削の上、返却する。質問等はその都度対応する。演習では、議論や課題などへの主体的な参加が求められる。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅰ（二）		期間	前期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	1
テーマ	人文地理学に関する資料収集や調査の実施				
到達目標	各自が人文地理的な諸現象をとらえた研究テーマを設定し、資料収集や地域調査を通じて地域の諸問題を客観的にとらえる能力を養う。				
授業概要	人文地理学に関する修士論文を作成するために、地域構造、社会生活、経済活動、歴史的な経緯などにとくに留意し、各自、研究テーマを設定する。地域や空間の諸問題を解き明かすために、指導教員は地図の活用、景観調査の実施方法について一貫して指導する。				
評価方法・基準	資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	課題は添削のうえコメントを付けて授業で返却する。この科目を受講登録する場合、事前に担当者と打ち合わせが必要である。テキストは学内進学者は学部時に使用したものでよい。				
テキスト	ジオ・パル NEO - 地理学・地域調査便利帖 野間晴雄ほか 海青社 2017 978-4-86099-315-3 C0025				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅱ（二）		期間	後期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	1
テーマ	人文地理学に関する資料収集や調査の実施と修士論文の準備				
到達目標	人文地理的な諸現象をとらえた研究テーマを各自が作成し、資料収集や地域調査を通じて地域の諸問題を客観的にとらえる能力を養う。				
授業概要	人文地理学に関する修士論文を作成するために、地域構造、社会生活、経済活動、歴史的な経緯などにとくに留意し、各自、研究テーマを設定する。地域や空間の諸問題を解き明かすために、指導教員は景観調査・聞き取り調査・アンケート調査の実施方法について一貫して指導する。				
評価方法・基準	資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	課題はコメントをつけて授業時に返却する。この科目を受講登録する場合、事前に担当者と打ち合わせが必要である。テキストは学内進学者は学部時に使用したものでよい。				
テキスト	ジオ・パル NEO - 地理学・地域調査便利帖 野間晴雄ほか 海青社 2017 978-4-86099-315-3 C0025				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅲ（二）		期間	前期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文作成にむけた人文地理学に関する演習 - 分析と報告を中心に -				
到達目標	人文地理に関する研究をまとめ、修士論文を作成していく。				
授業概要	各自が人文地理的な研究テーマにそって資料収集や地域調査をおこなって分析し、その結果をまとめていきながら、修士論文の作成を目指す。その際に指導教員は必要な調査方法や分析、まとめ方について一貫して指導する。				
評価方法・基準	資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	課題はコメントをつけて授業時に返却する。この科目を受講登録する場合、事前に担当者と打ち合わせが必要である。テキストは学内進学者は学部時に使用したものでよい。				
テキスト	ジオ・パル NEO - 地理学・地域調査便利帖 野間晴雄ほか 海青社 2017 978-4-86099-315-3 C0025				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	人文地理学演習Ⅳ（二）		期間	後期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文作成にむけた人文地理学に関する演習 - 修士論文の完成にむけて -				
到達目標	人文地理に関する研究をまとめ、修士論文を完成させる。				
授業概要	各自が人文地理的な研究テーマにそって資料収集や地域調査をおこなって分析し、その結果をまとめていきながら、修士論文の作成を目指す。指導教員はその際に必要な調査方法や分析、まとめ方について一貫して指導する。				
評価方法・基準	資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	課題はコメントをつけて授業時に返却する。修士論文の原稿について個別にアドバイスをを行う。この科目を受講登録する場合、事前に担当者と打ち合わせが必要である。テキストについては、学内進学者は学部時に使用したものでよい。				
テキスト	ジオ・パル NEO - 地理学・地域調査便利帖 野間晴雄ほか 海青社 2017 978-4-86099-315-3 C0025				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	人文地理学(農村)特殊講義(一)		期 間	前期	
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	日本農業の存続・発展のための地域農業の戦略について検討する。				
到達目標	1. 修士での研究基礎を構築し、課題を特殊化させるための糸口をつかむことができるようになる。 2. 日本における農業・農村の存立構造と持続可能性を理解することができるようになる。				
授業概要	日本では農業の担い手不足や脱農化傾向が著しくなり、さらに輸入農産物との競争が強まるなど、農業の発展どころか存続さえ危ぶまれるといった危機的状況になっている。本講義では、日本の農業・農村の存続・発展のための戦略とそのための基盤（地域条件）を地域農業を事例に論じる。				
評価方法・基準	授業への参加度、期末のレポートを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	レポートはコメントを付け返却する。質問等はその都度対応する。受講生の興味のある方向性で内容を精選する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	人文地理学(農村)特殊講義(二)		期 間	後期	
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	日本における商品化する農村空間について考える。				
到達目標	1. 修士での研究基礎を構築し、課題を特殊化させるための糸口をつかむことができるようになる。 2. 日本における農村空間の商品化の展開とそれが何を意味しているのか説明できるようになる。				
授業概要	現代の農村空間は、生産空間という性格が相対的に低下し、消費空間という性格が強くなってきている。これを「商品化する農村空間」というが、本講義では、日本において農村空間の商品化がどのような形で、どのようなプロセスで進行し、さらにそれが農村空間をどのように再構築しているのか、それが何を意味しているのかを検討する。				
評価方法・基準	授業への参加度、期末のレポートを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	レポートはコメントを付け返却する。質問等はその都度対応する。受講生の興味のある方向性で内容を精選する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	人文地理学(歴史)特殊講義(一)		期 間	前期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	地域と地誌書				
到達目標	歴史地誌を含む諸地域の地誌について理解を深め、教材作成にも役立つ知識や技術を習得する。				
授業概要	近世や近代に記された地誌書の解説を通じて歴史地誌について関心を深める。その一方で現代の地理的諸現象をとらえながら、地域の深層に迫っていく。受講生の関心によって地域を設定し、また境界の問題についてとりあげ、討論していく。そのうえで指定地域の地誌書をまとめる。				
評価方法・基準	研究に取り組む姿勢、授業内容に関する討論、課題の内容によって評価する。				
履修上の注意事項等	提出された課題は評価をつけて各自に返却し、受講者全体に講評する。この科目を受講登録する場合、事前に担当者と打ち合わせが必要である。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	人文地理学(歴史)特殊講義(二)		期 間	後期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	地籍資料と景観				
到達目標	土地の履歴を通じて、過去から現代のさまざまな土地管理の問題について把握し、また、地籍資料を通じて土地の管理の重要性について理解できるようになること。				
授業概要	近世・近代の地籍資料をもとに、土地の丈量や帳簿、絵図・地図について説明していく。一見、数字と文字の羅列にすぎない管理帳簿であるが、それは土地の状態を知ることができる貴重な資料である。土地の所有関係や履歴といった本来の作成の目的にあった情報が得られるだけでなく、地理学の景観研究では有用な資料となり、土地の変化にとどまらず景観の変化を追い求めることができる可能性を秘めている。そのようなユニークな地籍資料についてさまざまな角度から解説をしていく。				
評価方法・基準	研究に取り組む姿勢、授業内容に関する討論、課題の内容によって評価する。				
履修上の注意事項等	課題レポートは添削のうえ次回以降の授業で返却する。各地の博物館や資料館には地籍資料がさまざまなテーマで展示されていることが多い。展示されている地籍資料に関心をもっていただくと授業の理解度が深まっていくであろう。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	人文地理学(文化)特殊講義(一)		期間	前期	
担当教員	★岡橋 秀典	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	我々の生活は様々な地域と深い関わりをもっている。急速に過疎化する山村もその一つである。国民から見えにくくなっている現代の山村の特徴、課題、その将来像を検討する。				
到達目標	日本における山村の諸問題とその持続可能性を理解する。				
授業概要	過疎化が進む日本の山村について、地理学的な視点からその存立構造を論ずる。さらに、その将来像についても検討する。				
評価方法・基準	授業への参加度、期末のレポートによる。				
履修上の注意事項等	レポートはコメントをつけ、返却する。質問等はその都度対応する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	人文地理学(文化)特殊講義(二)		期間	後期	
担当教員	★岡橋 秀典	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	我々の生活は様々な地域と深い関わりをもっている。急速に過疎化する山村もその一つである。国民から見えにくくなっている現代の山村の特徴、課題、その将来像を検討する。				
到達目標	日本における山村の存立構造と持続可能性を理解する。				
授業概要	過疎化が進む日本の山村について、地理学的な視点からその存立構造を論ずる。山村のむらおこし、山村問題の構造などから、日本の山村の存立構造を総合的に考察する。				
評価方法・基準	授業への参加度、期末のレポートによる。				
履修上の注意事項等	レポートはコメントをつけ、返却する。質問等はその都度対応する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	人文地理学(都市)特殊講義(一)		期間	前期	
担当教員	★根田 克彦	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	都市地理学の立場から、都市と都市システム空間構造の解明の仕方を理解する。				
到達目標	都市と都市システムの空間構造を把握する理論、知識と、分析手法を理解する。				
授業概要	この授業では、都市と都市システムの空間構造を理解するために講義を行う、さらに講義を理解するためにそれに関係する論文を紹介し、その分析手法を理解し、論文の分析方法を用いて、いかなる分析が今後可能となるかを議論する。				
評価方法・基準	試験を行わない。レポートの内容と授業における討議により評価する。				
履修上の注意事項等	最終授業でレポートと研究案を講評する。授業では次の授業で持ちいる論文等を指示するので、それらを読むこと。				
テキスト	まちづくりのための中心市街地活性化 根田克彦編著 古今書院 2016				
参考書					

科目名	人文地理学(都市)特殊講義(二)		期間	後期	
担当教員	★根田 克彦	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	都市地理学の立場から、大都市における都市再生を理解し、その分析に必要な研究論文を読み発表する。				
到達目標	大都市における都市再生とは何かを理解し、それを分析するための分析方法を体得する。				
授業概要	イギリスにおける都市再生に関する研究論文を読み、大都市における都市再生とは何かを理解し、それを分析するための概念、分析手法を理解して、実際に分析して発表する。				
評価方法・基準	試験を行わない。レポートの内容（ロンドンの都市再生を理解しているかどうか）により評価する。				
履修上の注意事項等	最終授業でレポートと研究案を講評する。授業で使う論文はそのつど指示するので、読むこと。				
テキスト					
参考書					

科目名	地域・地誌学演習Ⅰ（一）		期間	前期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地誌学分野の修士論文の作成に向けて（前半）				
到達目標	地理的方法論とGISによる分析の基本を確認するとともに、地誌学分野の修士論文の課題設定の準備を行う。				
授業概要	GIS利用を含む地域分析の様々な手法を学びながら、地誌学的な視点で地域課題を解明する方法を考える。例題で基本的知識を確認したのち、自分で用意したデータに手法を適用し、自主的な運用能力を養う。				
評価方法・基準	平常点100%（発表および提出課題の内容の適切性と充実度、質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料はeラーニングシステムを通じて提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。毎回PC（実習室の端末）を使用する。eラーニングシステムを使用するので、操作を確認しておくこと。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	必要に応じて紹介する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅱ（一）		期間	後期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地誌学分野の修士論文の作成に向けて（後半）				
到達目標	地理的方法論とGISによる分析の関係を考察するとともに、地誌学分野の修士論文の課題やフィールドの設定を行う。				
授業概要	地誌学分野の修士論文のテーマや研究対象地域の絞り込みを行いながら、関連する重要文献を講読する。これまでに学んだGIS利用を含む地域分析の様々な手法を用いて、予定となる研究対象についての予察的分析も行う。				
評価方法・基準	平常点100%（発表および提出課題の内容の適切性と充実度、質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料はeラーニングシステムを通じて提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。毎回WindowsPCを持参すること。Word、Excel、PowerPointを使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。eラーニングシステムを使用するので、操作を確認しておくこと。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	必要に応じて紹介する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅲ（一）		期間	前期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地誌学分野の修士論文の作成の実践（前半）				
到達目標	地理的方法論とGISの関係を理解し、GISを活用した地域的課題の解析技術を習得し、地誌学分野の修士論文作成の前半を実践する。				
授業概要	地誌学分野の修士論文に関する文献解題をし、GISをいかに活用するかを討議する。各自が、修士論文に関する研究成果を発表する。グループディスカッションを通じて、GIS原理を習熟させ、GISの応用力を養う。				
評価方法・基準	平常点100%（発表および提出課題の内容の適切性と充実度、質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料をeラーニングシステムにて提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。毎回PC（実習室の端末）を使用する。eラーニングシステムを使用するので、操作を確認しておくこと。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅳ（一）		期間	後期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地誌学分野の修士論文の作成の実践（後半）				
到達目標	地理的方法論とGISの関係を理解のもとに、GISを活用した地域的課題の解析技術を用いて、地誌学分野の修士論文の作成の後半を実践する。				
授業概要	地誌学分野の修士論文の作成過程に即して、GISをいかに活用するかを討議する。各自が、修士論文に関する研究成果を発表する。グループディスカッションを通じて、GIS原理を習熟させ、GISの実践力を養う。				
評価方法・基準	平常点100%（発表および提出課題の内容の適切性と充実度、質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料をeラーニングシステムにて提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。毎回WindowsPCを持参すること。Word、Excel、PowerPointを使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。eラーニングシステムを使用するので、操作を確認しておくこと。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅰ（二）		期間	前期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	1
テーマ	修士論文作成に向けた地誌学に関する卒業演習を通じて、コミュニケーション能力を養えるように努める。				
到達目標	フィールドワークの企画、文献・地図・史資料の収集整理、調査項目の検討、フィールドワークを通じ、自立的で意欲的な研究姿勢を身につけ、倫理観・規範性にも配慮できるようになる。				
授業概要	地誌学（特に人文分野）に関する修士論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。				
評価方法・基準	報告・討論を平常点（50%）として評価し、それにレポートの評価（50%）を加えて評価する。				
履修上の注意事項等	レポートや図版などは添削のうえで返却するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。演習とはあくまで学生が「主体的に行動する」ことを基本とした授業形式であることを認識したうえで受講すること。				
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康 講談社 2018 9784065135020 ジオ・パル NEO—地理学・地域調査便利帖 野間 晴雄ほか 海青社 2012 9784860992651				
参考書					

科目名	地域・地誌学演習Ⅱ（二）		期間	後期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	1
テーマ	修士論文作成に向けた地誌学に関する卒業演習を通じて、コミュニケーション能力を養えるように努める。				
到達目標	研究の企画、文献・地図・史資料の収集整理、調査項目の検討、フィールドワークの実施とまとめの習得を通じ、自立的・意欲的な研究姿勢を身につけ、倫理観・規範性にも配慮できるようになる。				
授業概要	地誌学（特に人文分野）に関する修士論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。				
評価方法・基準	報告・討論を平常点（50%）として評価し、それにレポートの評価（50%）を加えて総合評価する。				
履修上の注意事項等	レポートや図版などは添削のうえで返却するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。演習とはあくまで学生が「主体的に行動する」ことを基本とした授業形式であることを認識したうえで受講すること。				
テキスト	なし				
参考書	ジオ・パル NEO — 地理学・地域調査便利帖 野間 晴雄ほか 海青社 2012 9784860993153 最新版 大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康 講談社 2018 9784065135020				

科目名	地域・地誌学演習Ⅲ（二）		期間	前期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本植民地としての樺太に関する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを考える。				
到達目標	系統地理学と地誌を両輪に研究内容のみならず、体系的な地理的認識と教材作成にも役立つ知識や技能の修得と同時に、知識や技能の理解と活用はもとより、倫理観・規範性についても考える。				
授業概要	樺太の植民地形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。				
評価方法・基準	レポート（50点）と平常点（出席、討論など50点）を合計して100点で評価する。レポートは基本概念の確認を中心として講義内容が正確に理解できているかを検証し、討論ではコミュニケーション能力を高めると同時に自分の意見を主張できるかどうかを評価基準とする。				
履修上の注意事項等	小レポートは翌時間に紹介するよう配慮するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。大学院の講義は受け身ではなく、自主学習の姿勢で臨むことを期待する。				
テキスト	なし				
参考書	移住型植民地樺太の形成 三木理史 塙書房 2012年 9784827312553 国境の植民地・樺太 三木理史 塙書房 2006年 9784827331042				

科目名	地域・地誌学演習Ⅳ（二）		期間	後期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	2
テーマ	日本植民地としての樺太に関する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを考える。				
到達目標	系統地理学と地誌を両輪に、研究内容のみならず、体系立てた地理的認識と教材作成にも役立つ知識や技能を修得し、知識や技能の理解と活用はもとより、倫理観・規範性についても考える。				
授業概要	樺太の植民地形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。				
評価方法・基準	レポート（50点）と平常点（50点）を合計して100点で総合評価する。レポートは基本概念の確認、討論ではコミュニケーション能力を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	小レポートは翌時間に紹介するよう配慮するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。大学院の講義は受け身ではなく、自主学習の姿勢で臨むことを期待する。				
テキスト	なし				
参考書	移住型植民地樺太の形成 三木理史 塙書房 2012年 9784827312553 国境の植民地・樺太 三木理史 塙書房 2006年 9784827331042				

科目名	地域・地誌学演習Ⅰ（三）		期間	前期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地域・地誌学に関する資料文献収集や調査の実施				
到達目標	地域・地誌学の諸現象に関する研究テーマを作成し、資料や文献の収集や地域調査を通じて地域の諸問題を客観的に考えることができる能力を養う。				
授業概要	地域・地誌学に関する修士論文を作成するために、空間構造、経済活動、文化活動などにとくに留意し、研究テーマを設定する。さまざまな地域の諸問題を解明するため、地図の活用、データ収集、文献資料の読み方について指導する。				
評価方法・基準	発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業の質疑応答で対応する。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅱ（三）		期間	後期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地域・地誌に関する文献収集や調査の実施				
到達目標	地理的な諸現象に関して自ら考え、文献収集や現地調査を通じて地域の諸問題を客観的に考えることができるようにする。				
授業概要	都市構造、地域形成、空間構造などに関して、研究テーマを設定する。それらの諸問題を解き明かすために、聞き取り調査・アンケート調査の実施方法について指導する。				
評価方法・基準	発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の質疑応答で対応する				
テキスト	なし				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅲ（三）		期間	前期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地域・地誌学に関する修士論文の資料文献収集や調査の実施				
到達目標	地域・地誌学の諸現象に関する修士論文を作成し、資料や文献の収集や地域調査を通じて地域の諸問題を客観的に考えることができる能力を養う。				
授業概要	地域・地誌学に関する修士論文を作成するために、空間構造、経済活動、文化活動などにとくに留意し、研究テーマを設定する。さまざまな地域の諸問題を解明するため、地図の活用、データ収集、文献資料の読み方について指導する。				
評価方法・基準	発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業の質疑応答で対応する。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	地域・地誌学演習Ⅳ（三）		期間	後期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地域・地誌に関する修士論文の完成				
到達目標	地理的な諸現象に関して修士論文を作成し、文献収集や現地調査を通じて地域の諸問題を客観的に考えることができるようにする。				
授業概要	都市構造、地域形成、空間構造などに関して、修士論文を作成する。そのために、聞き取り調査・アンケート調査の実施方法について指導する。				
評価方法・基準	発表、討論を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の質疑応答で対応する。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	地域・地誌学(日本)特殊講義(一)		期 間	前期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	都市の人口、就業、居住について、これまでの研究成果をふまえ、現代の都市がどのように変化してきたかを検討する。				
到達目標	都市の形成を通じて、現代の都市の状況を理解できるようにする。これを通じて、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	過去から現在までの都市について、幅広く考察する。近世から近代初期における都市形成を、居住、就業、人口移動などの観点から紹介した後、現代にいたるまでの都市の変化についても取り上げる。大都市圏は、中心都市と郊外から成るが、その両面において変化が生じていることを紹介する。具体的には、我々の身近な地域である京阪神圏や、他の大都市圏である名古屋圏を事例に考察する。				
評価方法・基準	授業への参加の仕方をもとに評価する。単に聞くというだけでなく、質疑応答に積極的に参加し、自らの考えを表明することができるかを評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントし評価する。				
テキスト	なし				
参考書	プリントを配布。				

科目名	地域・地誌学(日本)特殊講義(二)		期 間	後期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	地誌の観点から、日本の主要な都市の変化を紹介する。現在だけでなく、過去から現在にかけての変化に焦点を当てる。				
到達目標	都市で生起しているさまざまな現象に対し、地誌的な考察力を身につけることを目標とする。都市のさまざまな側面を理解し、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	日本では、人口の7～8割が都市に居住しているといわれる。そのため、日本の地域構造を理解するために、都市への着目は不可欠である。この授業では、いくつかの都市を取り上げ、その具体的な変化の様子を議論する。				
評価方法・基準	授業への参加の仕方をもとに評価する。単に聞くというだけでなく、質疑応答に積極的に参加し、自らの考えを表明することができるかを評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントし評価する。参考資料は授業中に指示する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	地域・地誌学(先進地域)特殊講義(一)		期 間	前期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	先進地域における人口動態および人口移動における転換現象の現代的意義				
到達目標	先進地域における人口動態転換および人口移動転換の歴史的な生起過程と現代における意義を、内外の先行研究のレビューとデータによる分析を通じて理解する。				
授業概要	日本や欧米の先進地域における共通の人口現象として、人口動態や人口移動における「転換」がある。本科目では、これらに関する内外の諸先行研究の講義を行いながら、それらの研究で扱われているデータの分析を並行して行う。				
評価方法・基準	平常点100%（提出課題の内容の適切性と充実度、授業内での発言や質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料をeラーニングシステムから提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。統計やGISの処理、情報検索、プレゼンテーションに毎回パソコン実習を併用する。実習室の端末を使用する。英文を含む文献の輪読を併用する。eラーニングシステムを使用する。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地域・地誌学(先進地域)特殊講義(二)		期 間	後期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	カナダの人口動向とデータ分析				
到達目標	カナダの人口動向について、先進国における人口動向や多民族国家における人口事情を理解しつつ、統計分析やGIS処理の能力を高める。				
授業概要	カナダの人口動向を扱った、和文および英文の既存文献をレビューするとともに、国勢調査をはじめとする統計データ分析を行い、カナダの人口動向や多民族国家特有の人口事情を検討する。広域的視野では国土全体を、地方の視野ではトロント大都市圏をとりあげる。				
評価方法・基準	平常点100%（提出課題の内容の適切性と充実度、授業内での発言や質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料をeラーニングシステムから提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。統計やGISの処理、情報検索、プレゼンテーションにパソコン実習を併用する。毎回WindowsPCを持参すること。Word、Excel、PowerPointを使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。英文を含む文献の輪読を併用する。eラーニングシステムを使用する。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(一)		期 間	前期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	日本植民地としての樺太に関する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを考える。				
到達目標	系統地理学と地誌を両輪に、研究内容のみならず、体系的認識と教材作成にも役立つ知識や技能を修得し、知識や技能の理解と活用はもとより、倫理観・規範性についても考える。				
授業概要	樺太の植民地形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。				
評価方法・基準	レポート(50点)と平常点(50点)を合計して100点で総合評価する。レポートは基本概念の確認と講義内容の正確な理解の検証し、討論ではコミュニケーション能力を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	小レポートは翌時間に紹介するよう配慮するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。大学院の講義は受け身ではなく、自主学習の姿勢で臨むことを期待する。				
テキスト	なし				
参考書	移住型植民地樺太の形成 三木理史 塙書房 2012年 9784827312553 国境の植民地・樺太 三木理史 塙書房 2006年 9784827331042				

科目名	地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(二)		期 間	後期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	日本植民地としての樺太に関する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを考える。				
到達目標	系統地理学と地誌を両輪に、体系立てた地理的認識と教材作成にも役立つ知識や技能を修得すると同時に、知識や技能の理解と活用はもとより、倫理観・規範性についても考える。				
授業概要	樺太の植民地形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。				
評価方法・基準	レポート(50点)と平常点(討論など50点)を合計して100点で評価する。レポートは基本概念の確認をと講義内容の正確な理解の検証、討論ではコミュニケーション能力を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	小レポートは翌時間に紹介するよう配慮するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。大学院の講義は受け身ではなく、自主学習の姿勢で臨むことを期待する。				
テキスト	なし				
参考書	移住型植民地樺太の形成 三木理史 塙書房 2012年 9784827312553 国境の植民地・樺太 三木理史 塙書房 2006年 9784827331042				

科目名	自然地理学特論(二)		期 間	後期	
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	ArcGIS pro を使った、高度な GIS 技術の修得				
到達目標	ArcGIS pro を用いて、GIS の基礎から応用まで使えるようにする。				
授業概要	各自が所有する Windows ノートパソコンを持参し、ArcGIS pro をインストールした後、GIS を使いこなせるようにしていく。毎回の授業で、課題が与えられ、期日までに提出することで、授業の理解を深め、技術を定着させる。GIS 解析に関して、実践的で、かなり高度な内容を含む。				
評価方法・基準	毎回だされる課題を期日までに Google Classroom に提出(50%)と、期末レポート(50%)を合算して評価する。毎回の課題提出者を出席者とし、出席が8回以下の受講生は評価の対象としない。				
履修上の注意事項等	毎回の課題は、講義中にフィードバックを行う。期末レポートは15回目の授業時に解説を行う。受講生各自の Windows のノートパソコンに ArcGIS pro をインストールし、作業を行う。一部、クレジットを消費する作業があるので、教員の注意事項は厳守してもらいたい。				
テキスト	特になし。				
参考書	六訂版 GIS と地理空間情報 橋本雄一(編) 古今書院 2022 9784772242295				

科目名	人文地理学特論(二)		期 間	後期	
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	1・2
テ ー マ	近世城下町と「陣屋町」				
到達目標	近世城下町と陣屋町を対比しつつ、その類似点や相違点について理解する。				
授業概要	江戸期の城下町は全国各地に建設された代表的な近世都市といえる。まずは、城下町の成立、形態と構造に関する先行研究の成果を紹介していく。その一方で城下町に類似した陣屋町について紹介していく。その後、城・城下町ならびに陣屋・陣屋町を比較しながら、その相違を明らかにしていく。その際、とくに陣屋・陣屋町の特徴を見いだすことを目標とする。また、「陣屋町」の概念規定に取り組んできた先行研究をふまえて問題点を整理し、今後の研究課題についても検討する。さらに、町並み保存の対象になっている城下町や陣屋町についても紹介していく。以下の通り実施する。				
評価方法・基準	学習到達度確認(講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う)60%と平常授業時の課題(授業に対する積極性ならびに基本的な語句の理解度等講義内容の理解度を確認する)40%によって評価する。				
履修上の注意事項等	提出された課題はコメントをつけて返却する。授業の前後で受講者全体に対して講評する。期間内に学習到達度確認を実施し、最終授業内で講評を行う(オンラインで実施する場合がある)。前期の「歴史地理学」とあわせて履修することをおすすめする。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	地域・地誌学特論（一）		期間	後期	
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	人口法則と人口統計データの応用論				
到達目標	人口地理学分野の研究遂行のため、統計データ利用と各種モデルを中心とする人口地理学の各領域についての知識を深め、先行研究の理解や自身の研究の深化に役立てる。				
授業概要	人口地理学の基礎を既に学んでいる者のための応用編として、人口法則や人口移動法則について詳しく学び、現代との整合性について、実際に統計データ計算も含めて検証してみる。また、人口統計データの歴史や現況についても詳しく学び、実際に入手して運用するための知識や技術を習得する。その過程で、統計分析のおもな手法についても学んでいく。				
評価方法・基準	平常点100%（提出課題の内容の適切性と充実度、授業内での発言や質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	課題や報告資料をeラーニングシステムから提出してもらったうえで、講評を行ったり、受講生で共有したりする。毎回 WindowsPC を持参すること。Word、Excel、PowerPoint を使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。受講生の関心や予備知識などの状況を勘案して、授業内容を調整することがある。				
テキスト	大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる(角川文庫) 倉田博史 KADOKAWA 2019 978-4-04-604316-0 必要に応じてハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地域・地誌学特論（二）		期間	後期	
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本植民地としての樺太に関する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを考える。				
到達目標	系統地理と地誌を両輪に、研究内容のみならず、体系立てた地理的認識と植民地の取り上げ方、地誌学との関係も視野に入れつつ多様な学際的思考を身につけるようにする。				
授業概要	樺太の植民地形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。				
評価方法・基準	レポート（50点）と平常点（50点）を合計して100点で総合評価する。レポートは基本概念の確認と講義内容の正確な理解の検証、討論ではコミュニケーション能力を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	小レポートは翌時間に紹介するよう配慮するが、質問等は mikim@daibutsu.nara-u.ac.jp へ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。大学院の講義は受け身ではなく、自主学習の姿勢で臨むことを期待する。				
テキスト	なし				
参考書	移住型植民地樺太の形成 三木理史 塙書房 2012年 9784827312553 国境の植民地・樺太 三木理史 塙書房 2006年 9784827331042				

科目名	地域・地誌学特論（三）		期間	前期	
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本の都市の特徴の考察				
到達目標	日本の地誌として、全国の主要都市の形成、現状、将来像を理解し、今後のあるべき姿を考えられるようにする。				
授業概要	現代の日本では、全人口の7～8割が都市に居住している。それゆえ、都市は、日本全体の中でもきわめて重要な位置にあるといえる。この授業では、都市の経済社会的な状況を理解したうえで、さまざまな地域の特性が把握できるようになることを目的とする。				
評価方法・基準	授業内での小課題により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中に実施する小課題について、答え合わせを行う。				
テキスト	日本の都市百選 第1集 牛垣雄矢ほか 古今書院 2023年 9784772261227				
参考書					

科目名	国内巡検計画法Ⅰ		期間	その他	
担当教員	土平 博	単位数	1	配当年次	1・2
テーマ	指導者として国内巡検を実施するために必要な準備を学ぶ				
到達目標	指導者として国内巡検を実施するために必要な準備を学び、参加者の健康に配慮し、安全で、十分な学びが期待できる巡検を計画できるようにする				
授業概要	日帰りの小巡検、3～4泊の国内大巡検の計画を実際に行う。そしてその計画について受講生で議論を行って修正を重ね、実際の巡検に取り入れていく				
評価方法・基準	計画された巡検案の完成度により評価を行う。				
履修上の注意事項等	巡検案について、常にコメントを返していく。本講義では、地理学科の教員が引率する小巡検と大巡検の両方に実際に参加することが必要条件となる。				
テキスト	指定しない。				
参考書	特になし。				

科目名	国内巡検計画Ⅱ			期間	その他
担当教員	土平 博	単位数	1	配当年次	1・2
テーマ	指導者として国内巡検を実施するために必要なまとめ方を学ぶ				
到達目標	指導者として国内巡検を実施するために必要な後処理を学び、現地での学びを十分な理解の定着にむすびつけていく				
授業概要	日帰りの小巡検、3～4泊の国内大巡検の計画を実際に行ったあと、まとめ方の指導ができるようにする				
評価方法・基準	計画されたまとめ方の完成度により評価を行う。				
履修上の注意事項等	出された案について、常にコメントを返していく。本講義では、国内巡検計画Ⅰを受講した者のみ受講できる。地理学科の教員が引率する小巡検および大巡検に実際に参加することが必要条件となる。				
テキスト	指定しない。				
参考書	特になし。				

科目名	外国巡検計画Ⅰ			期間	その他
担当教員	木村 圭司	単位数	1	配当年次	1・2
テーマ	イタリアを訪問し、日本と異なる自然・人文・社会・文化を実体験する。				
到達目標	事前学習・現地調査・事後学習を通してイタリアと日本との違いを実体験し、国際的視野を身につける。				
授業概要	イタリアの多くの地理的事象を観察する予定である。これらを現地で実体験し、国際社会への視野を広げる。				
評価方法・基準	事前学習への取り組み、報告書の内容などから総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の質疑応答で対応する。				
テキスト	随時配布する。				
参考書	随時指示する。				

科目名	外国巡検計画Ⅱ			期間	その他
担当教員	木村 圭司	単位数	1	配当年次	1・2
テーマ	イタリアを訪問し、日本と異なる自然・人文・社会・文化を実体験する。				
到達目標	事前学習・現地調査・事後学習を通してイタリアと日本の都市との違いを実体験し、国際的視野を身につける。				
授業概要	イタリアの多くの地理的事象を観察する予定である。これらを現地で実体験し、国際社会への視野を広げる。				
評価方法・基準	事前学習への取り組み、報告書の内容などから総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の質疑応答で対応する。				
テキスト	随時配布する。				
参考書	随時指示する。				

社会学研究科

※各科目の担当者のうち、担当者名の前に★のついている担当者は、非常勤講師です。

※臨床心理学コースは、他専攻・コース、科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生の履修は認めていません。

社会学専攻修士課程 社会文化研究コース

履修について

1. 社会学専攻には、「社会文化研究コース」と「臨床心理学コース」がある。コース決定後は、コースの変更はできない。
コースにより履修科目が異なるため、科目履修に際しては充分注意すること。
2. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、所定の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に所定の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。

「社会文化研究コース」の履修方法

①演習科目は、「社会文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の4科目8単位を修得すること。

*研究指導は、指導教員が担当する演習において行う。主研究指導者は演習担当教員とし、他に2名の大学院担当教員を充てる。

研究指導者は入学年度の4月の教員ガイダンスにて決定する。

②選択必修科目は、A群から10科目20単位以上、B群から2科目4単位以上を選択履修すること。

③「専門社会調査士」の資格を希望する学生は、P24「専門社会調査士取得について」を確認すること。

④社会文化研究コース生で、社会心理学特論Ⅰ・Ⅱの履修を希望するものは、選択A群の社会心理学特論Ⅰ・Ⅱを履修すること。

臨床心理学コースで開講される選択必修C群の社会心理学特論の履修は認めない。もし、履修して合格しても社会文化研究コースの選択A群の科目として認めない。

2024年度 社会学専攻 社会文化研究コース 開講科目一覧表

曜日 時限	科目名		担当者	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項
火・3	必修	社会文化研究演習Ⅰ(一)	吉村 治正	前期	1	2	×	SOSO-601S	毎年次2科目以上 合計4科目8単位を 修得すること
※		社会文化研究演習Ⅰ(二)	—	—	1	2	—	SOSO-601S	
水・3		社会文化研究演習Ⅰ(三)	村上 史朗	前期	1	2	×	SOSO-601S	
火・2		社会文化研究演習Ⅰ(四)	太田 仁	前期	1	2	×	SOSO-601S	
火・3		社会文化研究演習Ⅱ(一)	吉村 治正	後期	1	2	×	SOSO-602S	
※		社会文化研究演習Ⅱ(二)	—	—	1	2	—	SOSO-602S	
水・3		社会文化研究演習Ⅱ(三)	村上 史朗	後期	1	2	×	SOSO-602S	
火・2		社会文化研究演習Ⅱ(四)	太田 仁	後期	1	2	×	SOSO-602S	
火・3		社会文化研究演習Ⅲ(一)	吉村 治正	前期	2	2	×	SOSO-603S	
※		社会文化研究演習Ⅲ(二)	—	—	2	2	—	SOSO-603S	
水・3		社会文化研究演習Ⅲ(三)	村上 史朗	前期	2	2	×	SOSO-603S	
※		社会文化研究演習Ⅲ(四)	—	—	2	2	—	SOSO-603S	
火・3		社会文化研究演習Ⅳ(一)	吉村 治正	後期	2	2	×	SOSO-604S	
※		社会文化研究演習Ⅳ(二)	—	—	2	2	—	SOSO-604S	
水・3		社会文化研究演習Ⅳ(三)	村上 史朗	後期	2	2	×	SOSO-604S	
※		社会文化研究演習Ⅳ(四)	—	—	2	2	—	SOSO-604S	
火・1	選択 群	社会学特論Ⅰ	吉村 治正	前期	1・2	2	○	SOSO-501L	10科目20単位 以上を修得 すること
火・1		社会学特論Ⅱ	吉村 治正	後期	1・2	2	○	SOSO-502L	
※		文化人類学特論Ⅰ	—	—	1・2	2	—	SOSA-501L	
※		文化人類学特論Ⅱ	—	—	1・2	2	—	SOSA-502L	
火・3		社会心理学特論Ⅰ	村上 史朗	前期	1・2	2	○	SOSP-501L	
火・3		社会心理学特論Ⅱ	村上 史朗	後期	1・2	2	○	SOSP-502L	
金・3		応用社会学特論Ⅰ	尾上 正人	前期	1・2	2	○	SOSO-503L	
金・3		応用社会学特論Ⅱ	尾上 正人	後期	1・2	2	○	SOSO-504L	
※		応用人類学特論Ⅰ	—	—	1・2	2	—	SOSA-503L	
※		応用人類学特論Ⅱ	—	—	1・2	2	—	SOSA-504L	
水・2		応用社会心理学特論Ⅰ	太田 仁	前期	1・2	2	○	SOSP-503L	
火・1		応用社会心理学特論Ⅱ	與久田 巖	後期	1・2	2	○	SOSP-504L	
月・3		情報学特論Ⅰ	正司 哲朗	後期	1・2	2	○	SOSB-501L	
金・4		情報学特論Ⅱ	正司 哲朗	後期	1・2	2	○	SOSB-502L	
※		経済学特論Ⅰ	—	—	1・2	2	—	SOSC-501L	
※		経済学特論Ⅱ	—	—	1・2	2	—	SOSC-502L	
金・2		経営学特論Ⅰ	倉 光巖	前期	1・2	2	○	SOSD-501L	
金・2		経営学特論Ⅱ	倉 光巖	後期	1・2	2	○	SOSD-502L	
水・3	B 群	社会調査法特論	吉村 治正	前期	1・2	2	○	SOSR-501L	2科目4単位以上 修得すること
水・3		多変量解析法特論	吉村 治正	後期	1・2	2	○	SOSR-502L	
月・1		質的調査法特論	中原洪二郎	前期	1・2	2	○	SOSR-503L	
月・1		統計解析法特論	中原洪二郎	後期	1・2	2	○	SOSR-504L	
集中	必修	学位論文	共同	集中	2	0	△	SODT-601G	

※本年度開講せず

科目名	社会文化研究演習 I (一)			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1
テーマ	社会学的思考の修得				
到達目標	修士論文作成のための学問的土壌の理解。				
授業概要	学部の卒論と異なり、修士論文では自らの学問的立脚点を問われる。学問としての立場の不明瞭な論文は、研究論文として認められない。そこで本科目では、社会学という学問の基本的性格を改めて整理・確認する作業を行う。				
評価方法・基準	授業への貢献度ならびに期末レポート。上記授業内容のうち、指示したテーマについてレポートを作成、提出してもらう。				
履修上の注意事項等	提出物の返却を求める者には、次学期開始時以降に返却するので申し出ること。大学院の授業である。よもやとは思いますが、事前の準備を怠る者は退席してもらう。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	社会文化研究演習 I (三)			期間	前期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	1
テーマ	規範の社会心理学				
到達目標	社会心理学を中心とした、規範に関する学際的議論の基礎となる知識や考え方を修得する				
授業概要	社会心理学のみならず、哲学、法学、経済学など社会科学全般において、規範は主要な概念のひとつである。本演習では、議論の基礎となる知見を共有するために、心理学に限らず規範に関する文献を講読する。併せて、それらの知見を批判的に再検討し、各自の研究の視座を確立することを目的とする。				
評価方法・基準	毎回の小レポート (30%：理解度の確認)、演習への取り組み姿勢 (20%：準備や質疑の質を評価)、最終レポート (50%：研究計画書の質を評価) を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	小レポートについては次回授業時に講評する。全体の取り組みについては最終授業時に講評する。最終レポートについては成績評価時に個別に伝える。授業時間以外にも自主的な研究活動を求める。シラバスからわかるとおり、広範な文献にあたることを求めるので準備しておくこと。				
テキスト	資料を配付する。				
参考書	初回授業時に紹介する。				

科目名	社会文化研究演習 I (四)			期間	前期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	1
テーマ	対人関係の心理学				
到達目標	個人内から対人関係へ、そして集団としてのダイナミズムを理解する				
授業概要	個人は対人関係の産物である。したがって、個人の行動を説明する心理過程は対人相互作用の中で生成される。その連鎖と統合が集団力動となることに主眼を置いて、企業や行政に有用な修士論文の計画を作成する。				
評価方法・基準	各講義の課題を誠実にクリアすること 60 点 個人の修士論文の社会的有用性についての視点 40 点				
履修上の注意事項等	講義内および mail または Google classroom にてフィードバックする。本講座では、社会心理学の上級学習者として企業や行政で自らの研究を役立てようとする指向性が求められる。				
テキスト	支え合いからつながる心 太田仁 他 ナカニシヤ出版 2019 978-4-7795-1414-2				
参考書					

科目名	社会文化研究演習 II (一)			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1
テーマ	既存研究レビューの技能修得				
到達目標	修士論文作成のための既存研究レビューの技能の修得。				
授業概要	修士論文をどのようなテーマにするにせよ、修士論文では、そのテーマについてどのような学問的立場からどのような議論が展開されているかを整理し、その上で社会学という自らの学問的立場からどのように議論を展開するかが問われる。本科目では、履修者各自の修士論文テーマについて、他の学問領域を含めた、いわば見取り図を描き、その中で自己の研究を位置づける作業を行う。				
評価方法・基準	学期末に修士論文テーマに関する既存研究をまとめたレポートを作成してもらい、これを評価の主たる対象とする。なお、このレポートは実際に修士論文を作成する際の基礎資料となる。				
履修上の注意事項等	期末レポートは新学期開始時に返却する。本科目の履修に先立ち、同じ担当者の社会文化研究演習 I を履修しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	社会文化研究演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	1
テーマ	研究計画の立案				
到達目標	修士論文作成のための先行研究レビューを含めた研究計画の立案				
授業概要	研究計画立案のためには、(1)テーマ設定、(2)そのテーマの先行研究のレビュー、(3)そのテーマの研究展望と当該研究の学問的意義、等の整理が必要となる。発表と修正を繰り返しつつ、研究計画のブラッシュアップを図る。				
評価方法・基準	毎回の課題（30%：内容を評価）、演習への取り組み姿勢（30%：準備や授業時の発言を評価）、最終レポート（40%：研究計画書を評価）を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	各回の授業時に課題や取り組み姿勢について講評をフィードバックする。最終レポートについては成績評価後に個別にフィードバックする。授業時以外にも自主的な研究活動を求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	社会文化研究演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	1
テーマ	社会心理学の社会適用				
到達目標	社会適用性の高い修士論文の完成				
授業概要	修士論文の作成を通じて、論文が実践の基盤となる高い科学的実証性を求める				
評価方法・基準	データの収集および分析が科学的実証主義に準拠して実行できる70点 結果を科学性の高い記述によりまとめることができる30点				
履修上の注意事項等	講義内、メール、Google classroomにてフィードバックする。 つねに、自身の研究の社会的有用性念頭において、研究をすすめ修士論文に結実すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	社会文化研究演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	2
テーマ	社会調査データの入手計画の立案				
到達目標	修士論文作成に必要な社会調査データの入手・分析計画を立案する。				
授業概要	修士論文では既存研究のレビューだけでなく、新しい発見が求められる。これに必要となる新しい情報を、時間・労力・経費・その他の制約の中でどのように効率的に入手・分析するかを学んでもらう。				
評価方法・基準	学期末に修士論文経過報告を兼ねたレポートを提出してもらい、これを評価の対象とする。				
履修上の注意事項等	学期末レポートは新学期開始時に返却する。本科目を履修する際には、同担当者の社会文化研究演習Ⅰ・Ⅱならびに社会調査法特論を事前に履修済みである事を求める。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	社会文化研究演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文研究の実践				
到達目標	修士論文に必要な研究の遂行とデータの入手				
授業概要	履修生の研究計画に基づき、研究の実践と進捗報告、経過に関する討論を中心に行い、学期内に研究データの収集を完了させる。				
評価方法・基準	演習への取り組み姿勢（50%：課題の準備等を評価）、各回の報告内容（50%：報告内容の質を評価）、を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	各回の授業時に取り組み姿勢や報告内容についてのコメントをフィードバックする。授業時間以外にも自主的な研究活動を求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	社会文化研究演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文作成指導				
到達目標	修士論文の作成の指導。				
授業概要	本科目では、修士論文作成のための具体的な指導（論文構成・既存研究レビューの論点確認・データ処理の内容確認・註および図表の書式指導など）を行う。				
評価方法・基準	提出された修士論文の内容を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	原則として、各回の授業で与えた指示が順守されているかの確認は、翌週の授業で行う。授業時間外の個人指導の要望にはできる限り応じるので、必要に応じて申し出ること。同じ担当者の社会文化研究演習Ⅰ～Ⅲを履修済みであることを履修の条件とする。なお、本科目履修者で時間外に個人指導を求める場合は、事前に連絡し時間等を調整するように。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	社会文化研究演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文研究指導				
到達目標	修士論文の完成				
授業概要	各自が修士論文研究のテーマについて社会心理学的なアプローチから研究を行うとともに、その経過について討論を通じてブラッシュアップを重ね、修士論文としてふさわしい研究成果を得る。				
評価方法・基準	演習への取り組み（50％：課題への準備等を評価）、各回の報告（50％：発表内容の質を評価）、を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	各回の授業時に取り組みや報告へのコメントをフィードバックする。授業時間以外にも自主的な研究活動を求める。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				

科目名	社会学特論Ⅰ			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	コミュニティ調査の方法論に関する専門書（洋書）の輪読				
到達目標	外国語（英語）の専門文献を理解するための基礎的技能の習得				
授業概要	S. Lieberman "Makint It Count"を参加者全員で輪読する。社会科学の専門書の読解法を、一年間の授業を通じて体得してもらう。履修者の能力に合わせてペースを加減するが、一年間で一冊の本を読み切ることを目標とする。				
評価方法・基準	授業への参加度・貢献度を評価の対象とする。学期末にノートの提出を求めることがある。				
履修上の注意事項等	推奨辞書などについては開講時に指示する。また、履修者各自の語学力に関して個別の相談に応じる。大学院の授業である。準備を怠る者は退席してもらう。大学院生であるという自覚をもって授業に臨みたい。				
テキスト	Making It Count: The Improvement of Social Research and Theory Stanley Lieberman University of California Press 1987 978-0520060371				
参考書					

科目名	社会学特論Ⅱ			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	コミュニティ調査の方法論に関する専門書（洋書）の輪読				
到達目標	外国語（英語）の専門文献を理解し、翻訳するための基礎的技能の習得				
授業概要	S. Lieberman "Makint It Count"を参加者全員で輪読する。社会科学の専門書の読解法を、一年間の授業を通じて体得してもらう。履修者の能力に合わせてペースを加減するが、一年間で一冊の本を読み切ることを目標とする。				
評価方法・基準	授業への参加度・貢献度を評価の対象とする。学期末にノートの提出を求めることがある。				
履修上の注意事項等	履修者各自の語学力に関して個別の相談に応じる。本科目は前期開講の「社会学特論Ⅰ」の継続科目である。したがって本科目を履修する者は、これに先立って前期開講科目を履修していることが求められる。				
テキスト	Making It Count: The Improvement of Social Research and Theory Stanley Lieberman University of California Press 1987 978-0520060371				
参考書					

科目名	社会心理学特論Ⅰ		期間	前期	
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	道徳性の社会心理学				
到達目標	道徳性に関する近年の研究動向を理解し、道徳性に関する理性と感情の問題を考察する素地を身につける。				
授業概要	近年の道徳心理学研究で中心的な役割を果たすジョナサン・ハイトの著作の購読を中心に、適宜ディスカッションを行い理解を深める。				
評価方法・基準	発表（内容およびプレゼンテーション：50%）及びディスカッションへの貢献（積極性と建設的批判：50%）を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	各自が用意してきた発表およびコメントに対し、授業中に教員からフィードバックを行う。ディスカッションについては、適宜フィードバックを行う。参考書として、ハイトとは異なる視点で道徳観の問題を論じたヒースの著作を挙げてある。授業では直接取り扱わないが、併せて読むことを強く勧める。				
テキスト	社会はなぜ左と右にわかれるのか：対立を超えるための道徳心理学 ジョナサン・ハイト 紀伊國屋書店 2014 978-4-314-01117-4				
参考書	ルールに従う：社会科学の規範理論序説 ジョセフ・ヒース NTT 出版 978-4-7571-4236-7				

科目名	社会心理学特論Ⅱ		期間	後期	
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	文化的規範と社会的認知				
到達目標	文化と社会的認知に関する近年の研究動向の理解。				
授業概要	文化と社会的認知を中心に、近年の研究論文を輪読し、その内容についてディスカッションする。取り上げる文献は、JPSPをはじめとする社会心理学分野の主要な雑誌論文を中心に選定する。				
評価方法・基準	発表（40%：課題論文の内容の報告）、ディスカッションへの貢献（25%：発言内容と積極性）、授業内課題への取り組み（35%：毎回の提出コメント）を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	各自が用意してきた発表およびコメントに対し、授業中に教員からフィードバックを行う。ディスカッションについては、適宜フィードバックを行う。テキストは指定せず、資料（論文）を配付する。課題文献は受講者の関心も勘案して決定する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	応用社会学特論Ⅰ		期間	前期	
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	本社会の特殊性を、雇用・階層・福祉から見る				
到達目標	日本社会を見る独自の視点を身につけ、文献やデータに基づいて議論ができるようになる。				
授業概要	アバグレンが「日本的経営」を定式化して半世紀以上が経つが、その衰退・崩壊を説く議論が何度も現れた一方で、実態としては根強く存続している。また、日本国民の「中流意識」も、総中流社会の終焉が何度も言われながら、いまだに高い割合を維持している。これらに代表される、日本社会の過去・現在・未来について展望したい。この授業では、日本社会の特殊性について文献講読を中心に授業を進め、折に触れて教員によるレクチャーとディスカッションを行なう形式をとる。				
評価方法・基準	授業中の発表の内容（文献を読みこなした上での確な意見・論点を付け加えているか）60%、授業に対する積極性40%（講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行なっているかどうか）				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントし評価する。特に各回の発表者は、分担箇所について詳細なレジュメを作成してくる。発表が当たっていない者も、必ず該当箇所を読んでくること。				
テキスト	日本社会のしくみ 小熊英二 講談社 2019 4065154294				
参考書					

科目名	応用社会学特論Ⅱ		期間	後期	
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	日本人論を批判的に見る				
到達目標	これまで語られた多くの日本人論を、文献やデータに基づきながら批判的に検証できるようになる				
授業概要	日本人の性質を「集団主義」「恥」「甘え」といった概念で特異的に捉える議論がかつては隆盛していたが、現在ではそれらに対する批判的な論調も勢いを増している。この授業では日本人論についての文献講読を中心に授業を進め、折に触れて教員によるレクチャーとディスカッションを行なう形式をとる。				
評価方法・基準	授業中の発表の内容（文献を読みこなした上での確な意見・論点を付け加えているか）60%、授業に対する積極性40%（講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行なっているかどうか）				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントし評価する。特に各回の発表者は、分担箇所について詳細なレジュメを作成してくる。発表が当たっていない者も、必ず該当箇所を読んでくること。				
テキスト	「日本人」という、うそ 山岸俊男 筑摩書房 2015 448043304X				
参考書					

科目名	応用社会心理学特論 I		期間	前期	
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	援助要請の心理学				
到達目標	たすけを求めにくい人に援助要請を促すために助けられる人の心理を理解し、援助要請を妨げる課題克服のための支援を修得する。				
授業概要	先ず、援助行動の影響過程および被援助行動の影響過程を学ぶ。次に、援助要請行動の過程を各ステージ別の課題と共に支援の方法を学ぶ。				
評価方法・基準	小レポート（40％＝授業課題への適合度、論理的な構成、科学的な記述の3点を評価する）＋各授業での質疑応答（30％＝準備の程度、意見表明の誠実さなどを評価する）＋最終レポート（30％＝テーマ選択の根拠の合理性、キーワードの適正な使用、科学的な記述を評価する）				
履修上の注意事項等	質問については、応答の有無にかかわらず説明し、考え方の助言を与える。レポートについては、提出者については、採点し次回の講義で返却する。出席は単位修得の必須条件とする。対人関係の基礎理論と臨床実践との関連を積極的に考える受講態度を求める。				
テキスト	支え合いからつながる心 太田仁監修 ナカニシヤ出版 2019 978-4-7795-1414-2				
参考書	授業で紹介する。				

科目名	応用社会心理学特論 II		期間	後期	
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	影響力と説得の社会心理学				
到達目標	影響力と説得に関する社会心理学の考え方の1つを理解し、日常生活で活用する素地を身につける。				
授業概要	ロバート・チャルディーニの著作の講読を中心に行い、適宜ディスカッションを通して、影響力と説得についての社会心理学的な理解を深める。				
評価方法・基準	発表 50％：発表内容を評価する。 ディスカッション 30％：発表内容を踏まえた上で自己の見解を論理的に展開しているか評価する。 学期末レポート 20％：自己の見解を論理的に記述しているか評価する。				
履修上の注意事項等	発表とディスカッション：その場でフィードバックを行う。 学期末レポート：成績交付日に来室した者／メールで問い合わせた者には採点結果の開示・講評を行う。 ・発表担当の際、正当な理由なく欠席した場合は、大幅減点する。 ・参考書は授業では取り上げないが、参考書もあわせて読むことことで理解が深まるため、あわせて読むことをすすめる。				
テキスト	PRE-SUATION：影響力と説得のための革命低瞬間 ロバート・チャルディーニ 誠信書房 2017				
参考書	影響力の武器（第三版）：なぜ、人は動かされるのか ロバート・チャルディーニ 誠信書房 2014				

科目名	情報学特論 I		期間	後期	
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	社会調査に必要な Web アンケートの設計と実装を行う。				
到達目標	社会調査を行う上で、必要な調査項目を設計し、Web アンケートを実装する上で必要な基本的な知識を習得することを目標としている。				
授業概要	紙ベースと Web アンケートの違いについて解説する。次に、シンプルな Web アンケートを実装するために必要な技術として、HTML 言語、PHP 言語、SQL 言語に概説する。最後に独自アンケートを設計・実装する方法について説明する。				
評価方法・基準	成績は、HTML に関する課題（20 点）、PHP 言語に関する課題（20 点）、SQL 言語に関する課題（20 点）、Web アンケートに関する課題（40 点）で評価する。各課題では、正しく機能しているかを評価する。				
履修上の注意事項等	HTML、PHP 言語、SQL 言語、および独自 Web アンケートに関する各課題は、授業中に出来ていない部分について、個別に指導しながら、正しく実装できるようにフィードバックする。PC を使って、Web アンケートの実装を行うため、PC の基本操作については、すでに習得済であること。				
テキスト	プリント配布。				
参考書	奈良大学 e-learning システム https://e-ln.nara-u.ac.jp				

科目名	情報学特論 II		期間	後期	
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	社会調査で得られたデータを統計分析するための基礎を学ぶ。				
到達目標	社会調査で得られたデータを分析するため、R 言語を使った統計処理方法を習得する。				
授業概要	R 言語を学び、統計処理の基本について解説し、実際に社会調査で得られたデータを分析し、データを解釈する方法について説明する。				
評価方法・基準	成績は、一変数に関する課題（20 点）、二変数に関する課題（20 点）、検定と推定に関する課題（20 点）、多変数解析に関する課題（20 点）、発表課題（20 点）で評価する。各課題は、正しく統計処理が行われているかどうかを評価基準とする。				
履修上の注意事項等	授業内で課題に関する解答・解説を行う。R 言語を使った統計処理を行うため、PC の基本操作については、すでに習得済であること。				
テキスト	R による統計解析 青木繁伸 オーム社 2009				
参考書	奈良大学 e-learning システム https://e-ln.nara-u.ac.jp				

科目名	経営学特論Ⅰ			期間	前期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	企業が外部の利害関係者に対して、経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計を総合的かつ体系的に講義する。				
到達目標	財務会計の基礎から上級レベルまでを講義して財務諸表を読み解く能力を身につける。企業の経営成績や財政状態を把握できるようにする。				
授業概要	企業と外部の利害関係者との間で行われる情報提供機能や利害調整機能を果たす財務会計とそのルールに則って作成された財務諸表について研究する。本講義においては財務会計の基礎的な知識から上級レベルまでを講義し、企業会計原則、証券取引法、会社法のもとで、企業が財務会計を行う内容や我が国の会計基準を包括的に取り上げる。本講義のテキストには桜井久勝著『財務会計講義』（最新版）を使用する。				
評価方法・基準	講義期間中2～3回行う試験と講義中で行う質問への回答内容を総合的に判断して評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の質問や財務会計の諸テーマについて設けた課題回答に対してフィードバックを行う。本講義のテキストは桜井久勝著『財務会計講義』（第25版）を使用するので、事前に入手しておくことが望ましい。				
テキスト	財務会計講義（第25版） 桜井久勝 中央経済社 2022 9784502500718				
参考書					

科目名	経営学特論Ⅱ			期間	後期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	企業が外部の利害関係者に報告している財務諸表の分析を通じて、企業の諸特性を評価するための手法を体系的に講義する。				
到達目標	財務会計の基礎から上級レベルまでを講義して財務諸表を読み解く能力を身につける。その上で、財務分析を行い、分析を通じて得られたデータにより企業の収益性・安定性・成長性を把握できるようにする。				
授業概要	投資者や債権者をはじめとする外部利害関係者は自己の利益を守るため、投資対象企業に対し、合理的な経済的意思決定を行おうとするが、その際には企業の収益性、リスクの程度、成長性などを判断基準とする。本講義においては企業が公表する財務諸表を情報源泉として企業の収益性・安定性・成長性を評価するための技術を講義する。本講義のテキストには桜井久勝著『財務諸表分析』（第8版）を使用する。				
評価方法・基準	講義期間中2～3回行う試験と講義中で行う質問への回答内容を総合的に判断して評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の質問や財務諸表分析について設けた課題回答に対してフィードバックを行う。本講義の受講者は「経営学特論Ⅰ」を受講のこと。本講義のテキストは桜井久勝著『財務諸表分析』（第8版）を使用するので、事前に入手しておくことが望ましい。				
テキスト	財務諸表分析（第8版） 桜井久勝 中央経済社 2020 9784502342417				
参考書					

科目名	社会調査法特論			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	社会調査の設計				
到達目標	社会調査を計画・実施していく上での実践的な知識・技能を身に付けることを目的とする。				
授業概要	社会調査を計画・実施していくうえでの具体的な知識を教授し、実践的な技能を習得してもらう。				
評価方法・基準	平常点および提出物（期末レポート）。上記内容に関して学期末にレポートの提出を求める。				
履修上の注意事項等	提出された期末レポートの返却を求める者は、次学期の開始時以降に返却するので申し出ること。大学院の授業である。準備を怠った状態で授業に臨む者は退出してもらう。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	多変量解析法特論			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	多変量解析の技法の理解				
到達目標	数理統計学の基礎を踏まえながら多変量解析の技法を理解し、これらを実際に活用できる能力の習得を図る。				
授業概要	社会調査データの分析に必要な多変量解析の技術を、講義と実際の調査データの分析演習を通じて習得してもらう。				
評価方法・基準	学期末にデータファイルを渡すので、これを分析しレポートとしてまとめてもらう。このレポートを評価対象とする。				
履修上の注意事項等	提出された期末レポートの返却を求める者は、次学期の開始時以降に返却するので申し出ること。大学院の授業である。準備を怠った状態で授業に臨む者は退出してもらう。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	質的調査法特論			期間	前期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	質的調査における主観的世界の自己観察				
到達目標	質的調査法の持つ特徴・特性を理解し、データ収集・分析装置としての自己を観察するための理論と方法を習得することを目指す。				
授業概要	とすれば、質的調査は量的調査と対比的に語られ、主観性が高く客観性が低いことが「科学研究」の方法論として不適切であるとの批判を招く。しかし両者の違いは単に主観性／客観性の高低ではなく、観察の中心な対象が分析装置としての自己なのか、あるいは外部装置による分析結果としての他者なのか、という点にある。何を言っているのか分からない諸君は、ぜひこの講義を受講してもらいたい。				
評価方法・基準	総合評価＝毎回の課題評価（100%） 課題の評価基準：（要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している） and（独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている）				
履修上の注意事項等	課題へのコメントおよび講義中のディスカッション。課題提出をおろそかにしないこと。本授業は講義であるが、アクティブラーニングの手法を導入して実施する。				
テキスト	適宜資料を配付する。				
参考書	適宜資料を配付する。				

科目名	統計解析法特論			期間	後期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	社会学的研究における多変量データ解析の理解				
到達目標	社会学的研究において必要とされる統計的手法について、分析課題の設定、分析モデルの構築、測定、分析という一貫した分析計画を構築し、実施することが可能になる理論と方法の習得を目指す。				
授業概要	この講義では、統計的分析の理論的な理解を重視する。その上で、実際に社会学的研究論文で用いられている実例を引きながら、分析結果の意味を読み取るスキルと、実際に分析を行うスキルの両方に関する課題をこなすことで、応用的な力をつける。				
評価方法・基準	総合評価＝毎回の課題評価（100%） 課題の評価基準：（要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している） and（独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている）				
履修上の注意事項等	課題へのコメントおよび講義中のディスカッション。課題提出をおろそかにしないこと。本授業は講義であるが、アクティブラーニングの手法を導入して実施する。				
テキスト	適宜資料を配付する。				
参考書	適宜資料を配付する。				

社会学専攻修士課程 臨床心理学コース

履修について

1. 専攻には、「社会文化研究コース」と「臨床心理学コース」がある。コース決定後は、コースの変更はできない。

コースにより履修科目が異なるため、科目履修に際しては充分注意すること。

2. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、所定の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に所定の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。

「臨床心理学コース」の履修方法

①演習科目は、「臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」及び「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・臨床心理査定演習Ⅱ」の6科目12単位を必修とする。

*研究指導は、指導教員が担当する「臨床心理学演習」において行う。主研究指導者は演習担当教員とし、他に2名の大学院担当教員を充てる。

研究指導者は入学年度の4月の教員ガイダンスで決定する。

②実習科目は、「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習」の2科目4単位を必修とする。

③特論科目は「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」及び「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・臨床心理面接特論Ⅱ」の4科目8単位を必修とする。

④「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・臨床心理面接特論Ⅱ」「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・臨床心理査定演習Ⅱ」「臨床心理基礎実習」の必修科目（14単位）は、1年次で修得すること。

⑤「臨床心理実習」（必修科目2単位）は、「臨床心理基礎実習」を修得した者に限り、2年次で履修することができる。

⑥選択必修科目より4科目8単位以上を選択履修するものとする。

⑦臨床心理学コースにおいて、臨床心理士資格試験及び公認心理師試験の受験資格を取得しようとする場合の履修方法については、『COLLEGE LIFE』の「奈良大学大学院社会学研究科社会学専攻 臨床心理学コースに関する履修内規」を確認すること。

2024年度 社会学専攻 臨床心理学コース 開講科目一覧表

曜日 時限	科目名	担当者 ★は非常勤講師	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の 注意事項	
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(一)	武本 一美	前期	1	2	×	SOCP-601S	必修	
※	臨床心理学演習Ⅰ(二)	—	—	1	2	—	SOCP-601S		
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(三)	磯部美也子	前期	1	2	×	SOCP-601S		
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(四)	今井由樹子	前期	1	2	×	SOCP-601S		
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(五)	林 郷子	前期	1	2	×	SOCP-601S		
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(一)	武本 一美	後期	1	2	×	SOCP-602S		
※	臨床心理学演習Ⅱ(二)	—	—	1	2	—	SOCP-602S		
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(三)	磯部美也子	後期	1	2	×	SOCP-602S		
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(四)	今井由樹子	後期	1	2	×	SOCP-602S		
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(五)	林 郷子	後期	1	2	×	SOCP-602S		
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(一)	武本 一美	前期	2	2	×	SOCP-603S		
※	臨床心理学演習Ⅲ(二)	—	—	2	2	—	SOCP-603S		
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(三)	磯部美也子	前期	2	2	×	SOCP-603S		
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(四)	今井由樹子	前期	2	2	×	SOCP-603S		
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(五)	林 郷子	前期	2	2	×	SOCP-603S		
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(一)	武本 一美	後期	2	2	×	SOCP-604S		
※	臨床心理学演習Ⅳ(二)	—	—	2	2	—	SOCP-604S		
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(三)	磯部美也子	後期	2	2	×	SOCP-604S		
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(四)	今井由樹子	後期	2	2	×	SOCP-604S		
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(五)	林 郷子	後期	2	2	×	SOCP-604S		
水・4	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	鈴木孝・今井由樹子	前期	1	2	×	SOCP-501S		
火・2	臨床心理査定演習Ⅱ	林 郷子	後期	1	2	×	SOCP-502S		
金3・4	臨床心理基礎実習	磯部美也子・今井由樹子	通年	1	2	×	SOCP-503T		
金3・4	臨床心理実習	鈴木孝・林郷子・武本一美	通年	2	2	×	SOCP-605T		
水・2	臨床心理学特論Ⅰ	磯部美也子	前期	1	2	×	SOCP-504L		
水・4	臨床心理学特論Ⅱ	今井由樹子	後期	1	2	×	SOCP-505L		
火・1	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	林 郷子	前期	1	2	×	SOCP-506L		
水・5	臨床心理面接特論Ⅱ	鈴木 孝	後期	1	2	×	SOCP-507L		
火・2	A群 臨床心理学研究法特論	林郷子・村上史朗	前期	1・2	2	○	SOCP-508L		選択必修
水・3	心理統計法特論	中原洪二郎	後期	1・2	2	○	SOSE-501L		
水・1	B群 発達心理学特論	磯部美也子	前期	1・2	2	○	SODP-501L		
火・4	教育心理学特論	林 郷子	後期	1・2	2	○	SOCP-509L		
火・5	C群 社会心理学特論	太田 仁	前期	1・2	2	○	SOSP-501L		
金・1	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	今井由樹子	後期	1・2	2	○	SOCP-510L		
木・1	D群 障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	★加藤 敬	後期	1・2	2	○	SODP-502L		
金・2	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	武本 一美	前期	1・2	2	○	SOME-501L		
その他	心身医学特論	武本 一美	不定期	1・2	2	○	SOME-502L		
木1・2	E群 投映法特論	★井村 修	前期集中	1・2	2	×	SOCP-512L		
土・1	心理療法特論	★前田 泰宏	前期	1・2	2	×	SOCP-515L		
その他	心理実践実習Ⅰ	磯部・林・鈴木・武本	不定期	1	2	×	SOCP-516T		
その他	心理実践実習Ⅱ	磯部・林・鈴木・武本	不定期	2	8	×	SOCP-606T		
その他	F群 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	磯部美也子	後期集中	1・2	2	○	SOCP-513L		
金・2	グループアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	★黒崎 優美	後期	1・2	2	○	SOCP-514L		
金・2	産業・組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	與久田 巖	前期	1・2	2	○	SOSP-503L		
月・2	心理教育特論(心の健康教育に関する理論と実践)	鈴木 孝	後期	1・2	2	○	SOCP-516L		
集中	必修 学位論文	共同	集中	2	0	—	SODT-601G		

※本年度開講せず

【注】

1. 本コースは、(財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院である。

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（一）		期間	前期	
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	1
テーマ	原著論文、レビュー論文（総説）の形式、書き方を学習し、修士論文の助走となる小論文を作ってみる。				
到達目標	論文の外形的な特徴と論理展開を身につけ、そのなかで自分の問題意識を記述してその問いに答えること。				
授業概要	まず学術論文の形式と論理展開を身につける。次いで、精神医学・臨床心理学の中の重要概念の中から、いくつかを選び出して、それらの概念の使われ方を調べ、自分の問題意識に沿った考察をまとめる。本と学術雑誌論文の両方の、検索と読解になじんで行くこと。下記の回ごとの内容の多くは継続的に取り組むべき質のものである。				
評価方法・基準	レビュー小論文を作成する際の各段階での取り組みの内容と、提出された小論文の内容に基づいて評価する。				
履修上の注意事項等	読解論文、作成した小論文について、講評を行う。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。臨床心理学に実践的ななじみながら、論文において自分自身の認識論的立場を考えるという姿勢で多面的に臨んでください。				
テキスト	その都度指示する。				
参考書	その都度指示する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（三）		期間	前期	
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（1）、発達臨床の実践演習				
到達目標	臨床心理学の修士論文を作成するための参考資料を検索し、研究計画を作成する。予備研究のためのデータを取り、まとめて発表する。				
授業概要	発達臨床についての知識の習得のためのワーク。各自の研究テーマに沿って、研究計画を立てる。文献検索と、発表、討議を重ねてテーマを確定する。予備調査、面接などを行い、予備研究Ⅰとして発表する。心理臨床の基礎的研究の方法を身につける。				
評価方法・基準	演習への参加態度（発表内容・討議）と、レポートにより評価する。				
履修上の注意事項等	授業の中で、レポートを供覧し、討議しながらフィードバックする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（四）		期間	前期	
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（1）				
到達目標	臨床心理学に関する修士論文のための研究計画を作成する。				
授業概要	主に先行研究による文献学習を通して、研究テーマや問題意識を明確化する。また、研究目的と方法論について検討し、研究計画を作成する。				
評価方法・基準	演習への参加態度（主体的・積極的取り組み）、発表内容・研究計画書等（必要な資料の収集、適切な問題設定）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表を通して、授業内で討議し、コメントを行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（五）		期間	前期	
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（1）				
到達目標	臨床心理学に関する修士論文のための研究計画を作成する。				
授業概要	主に先行研究による文献学習を通して、研究テーマや問題意識を明確化する。また、方法論についての検討を行い、研究計画を作成する。履修者による発表と討議を中心に進める。				
評価方法・基準	演習への参加態度（主体的・積極的取り組み）、発表内容・研究計画書等（必要な資料の収集、適切な問題設定）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表を通して、授業内で討議し、コメントを行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	1
テーマ	前期にまとめたレビュー論文をもとにして、修士論文執筆の想を練る。				
到達目標	修士論文の概要、構成計画の立案。				
授業概要	レビュー論文で得た、臨床心理学に関する概念の把握に基づいて、修士論文の執筆計画を立てる。レビュー論文で得た概念把握を、修士論文の中にどのように組み込むか、修士論文において調査やインタビューを実施することが必要か、実施する場合にはどのように行うか、などについて考察し、修士論文への展望を形作る。				
評価方法・基準	作業の進展と、予稿の内容に基づいて評価します。				
履修上の注意事項等	次年度の修士論文執筆に向けて、予稿を検討し、展望を考察します。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。臨床心理学演習Ⅰを履修しておくこと。				
テキスト	その都度指示する。				
参考書	その都度指示する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（2） 発達臨床に関する実践演習				
到達目標	臨床心理学の修士論文を作成するための研究計画を確定し、参考資料を検討する。予備研究のためのデータを取り、まとめて発表する。				
授業概要	各自の研究テーマに沿って、研究計画を立てる。文献検索と、発表、討議を重ねてテーマを確定する。予備調査、面接などを行い、予備研究として発表を行う。発達臨床場面で必要な技術・技能について演習する。				
評価方法・基準	演習への参画度（発表・討議）と、レポートにより評価する。				
履修上の注意事項等	授業の中で、レポートを供覧し、討議しながらフィードバックする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（2）				
到達目標	臨床心理学に関する修士論文のための予備研究を行う。				
授業概要	演習Ⅰで作成した研究計画を再検討し、研究方法について探求する。研究計画の問題と目的、方法を作成し、データ収集の準備を行う。				
評価方法・基準	演習への参加態度（主体的・積極的取り組み）、研究（必要な資料の収集、適切な問題意識や方法の設定）の進捗状況により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表（レポートを含む）を通して、授業内で討議し、コメントする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（2）				
到達目標	臨床心理学に関する修士論文のための予備研究を行う。				
授業概要	演習Ⅰで作成した研究計画に基づき、予備研究を行う。その結果を受けて研究計画を再検討し、本研究に向けての準備を行う。履修者の発表と討議を中心として進める。				
評価方法・基準	演習への参加態度（主体的・積極的取り組み）、発表内容・予備研究に関するレポート等（必要な資料の収集、適切な問題意識や方法の設定）により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表（レポートを含む）を通して、授業内で討議し、コメントする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（一）	期間	前期
担当教員	武本 一美	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	修士論文作成準備のための演習		
到達目標	修士論文執筆のための文献的基礎の構築またはデータの収集、専門性への展望の開拓。		
授業概要	段階を追って、修士論文制作の作業を積み上げてゆく。		
評価方法・基準	修士論文の計画が意欲的かつ整合的にまとめられたかどうかを、評価の基準とする。		
履修上の注意事項等	修士論文計画の講評を授業内で行う。他のメンバーの時間を無駄にしないように、しっかり予習し、発表する。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考書	資料などを適宜紹介する。		

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（三）	期間	前期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（3）		
到達目標	修士論文の研究デザインを精査し、データを収集し、解析し、執筆を行う。		
授業概要	各自の研究テーマに沿って研究計画を立案し、文献検索、データ収集、結果、考察を行う。個々の院生の進捗状況に合わせながら、演習を進めていく。また、発達臨床の実践演習を行う。		
評価方法・基準	演習への参画度、レポート、発表で評価する。		
履修上の注意事項等	授業の中で、レポートを供覧し、討議しながらフィードバックする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。		
テキスト	なし		
参考書			

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（四）	期間	前期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（3）		
到達目標	本研究を実施する。研究データの収集および分析を行う。		
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱで作成した研究計画に基づいて、本研究を実施する。研究データを収集・分析し、考察を進める。履修者による発表と討議を中心として進める。		
評価方法・基準	演習への参加態度（主体的・積極的な取り組み）、発表内容・研究の進捗状況等（必要な資料の収集、適切な研究計画）に基づいて、総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表を通して、授業内で討議し、コメントを行う。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。		
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。		
参考書	適宜紹介する。		

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（五）	期間	前期
担当教員	林 郷子	単位数	2
配当年次	2		
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（3）		
到達目標	本研究を実施する。研究データの収集および分析を行う。		
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱで作成した研究計画に基づいて、本研究を実施する。研究データを収集・分析し、考察を進める。履修者による発表と討議を中心として進める。		
評価方法・基準	演習への参加態度（主体的・積極的な取り組み）、発表内容・研究の進捗状況等（必要な資料の収集、適切な研究計画）に基づいて、総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表を通して、授業内で討議し、コメントを行う。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。		
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。		
参考書	適宜紹介する。		

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	2
テーマ	修士論文の作成				
到達目標	研究計画を実行し、修士論文を完成させる。				
授業概要	前期に引き続き、各自の研究を進める。おおむね前期に立てた研究計画に沿って進めるが、当然修正はあり得る。最終的に、修士論文としてまとめる。				
評価方法・基準	完成した修士論文と、取り組み中になされた作業を評価の対象とする。				
履修上の注意事項等	修士論文作成の段階ごとに、進み具合に応じて、方向を示しアドバイスする。修士論文は、将来にわたって自分の基礎を作る大事な論文ですので、心して取り組んでください。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	資料などを適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（4）				
到達目標	修士論文を完成させ、発表する。				
授業概要	各自の研究テーマに沿って修士論文を完成させるにあたり、個々に進めていく。論文を完成させて発表し、相互に討議する。				
評価方法・基準	演習への参画度、完成した修士論文及び発表で評価する。				
履修上の注意事項等	授業の中で、レポートを供覧し、討議しながらフィードバックする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（4）				
到達目標	臨床心理学に関する修士論文の作成と発表				
授業概要	研究計画に基づいて、修士論文を完成させる。履修生による発表と討議を中心に進める。				
評価方法・基準	演習への参加態度、研究への取り組み状況、発表内容、完成した修士論文の内容等により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業内および発表会において討議し、コメントを行う。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	2
テーマ	臨床心理学に関する修士論文の研究指導（4）				
到達目標	臨床心理学に関する修士論文の作成と発表				
授業概要	研究計画に基づいて、修士論文を完成させる。履修生による発表と討議を中心に進める。				
評価方法・基準	演習への参加態度、研究への取り組み状況、発表内容、完成した修士論文の内容等により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業内および発表会において討議し、コメントを行う。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)		期間	前期	
担当教員	鈴木孝・今井由樹子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理的アセスメントの意義、各心理的アセスメントの理論と実践方法				
到達目標	心理的アセスメントの意義及び、各心理的アセスメント理論を理解し、方法を習得する。心理的アセスメントの結果を心理に関する相談、助言、指導等に活用することができる。				
授業概要	心理的アセスメントは、的確なクライアント理解のために、そして心理学的支援の方針を決定し、その効果を評価するために必要なものである。心理的アセスメントの役割と目的について明確にし、実施する場合の倫理的配慮について学ぶ。心理的アセスメントである観察、面接及び心理検査について、実習をとおして、その実施法、解釈について学ぶ。また、その結果の相談、助言、指導等への応用について学ぶ。				
評価方法・基準	平常の授業への参加状況（態度、発表、ディスカッション等）、レポートの内容等により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業時間内にフィードバックする。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	臨床心理査定学 岡堂哲雄編 誠信書房 臨床心理査定技法1 下仲順子編 誠信書房 臨床心理査定技法2 皆藤章編 誠信書房				

科目名	臨床心理査定演習Ⅱ		期間	後期	
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理的アセスメント、人格検査・知能検査の施行と解釈、相談への応用				
到達目標	心理的アセスメントに関する意義と理論を理解し、基本的な方法を修得する。また、修得したアセスメント技法について、心理相談、助言、指導等に活用する力を養う。				
授業概要	心理的アセスメントの基礎理解を前提として、人格検査（投映法・描画法）や知能検査（ウェクスラー式他）の意義と理論を整理する。その上で各検査の施行と解釈、所見の作成に関する実習を行う。				
評価方法・基準	平常の授業への参加状況（主体的・積極的態度、発表、ディスカッション等）、レポートの内容等により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	期間内にレポートを課し、最終授業内で講評を行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	臨床心理査定学 岡堂哲雄（編） 誠信書房 4-414-41322-2 臨床心理査定技法1 下仲順子（編） 誠信書房 4-414-41326-5 臨床心理査定技法2 皆藤章（編） 誠信書房 4-414-41327-3				

科目名	臨床心理基礎実習		期間	通年	
担当教員	磯部美也子・今井由樹子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けての基礎事項を学ぶ。				
到達目標	臨床心理実習を行うため、そして心理職（臨床心理士等）として将来的に活動するための基本的な態度や技能、倫理等を学習する。				
授業概要	臨床心理実習は、臨床心理士として現場経験の豊富な教員のもと、グループワークや心理面接のロールプレイ、ケース・カンファレンス査定実習等を通じて、臨床心理面接（査定面接を含む）及び臨床心理査定の基本的スタンスと技能の基盤の習得を目指す。学内実習と学外（現場）実習を含む。				
評価方法・基準	平常の学内外の実習授業への参加状況（態度、発表、ディスカッション等）、実習レポートの内容等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業時間内に行う。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	臨床心理学実習論 下山晴彦（編） 誠真書房 子どもの発達と診断1～5 田中昌人 大月書店				

科目名	臨床心理実習		期間	通年	
担当教員	鈴木孝・林郷子・武本一美	単位数	2	配当年次	2
テーマ	臨床心理実習				
到達目標	心理臨床家の基本的態度や臨床実践力の基礎を身につける。				
授業概要	臨床心理面接（査定面接を含む）のロールプレイやグループワーク等を通して、その基本的スタンスと技能の基礎の修得を目指す。本学附属の心理相談施設での担当事例に対するグループ・スーパービジョンおよびケースカンファレンスでの発表・検討を通して、心理臨床の実践力を身につける。ケース担当の際は個別スーパービジョンを受けることを必須とする。				
評価方法・基準	授業への参加状況（主体的・積極的態度、発表、ディスカッション等）、レポートの内容等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	期間内にレポートを課し、最終授業内で講評を行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	臨床心理学実習論 下山晴彦（編） 誠信書房 4-414-41324-9 心理療法の考え方・進め方 竹内健児 創元社 978-4-422-11597-9				

科目名	臨床心理学特論Ⅰ			期間	前期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学原論（定義、歴史、展望、対象論、援助論、倫理の概要）を学ぶ				
到達目標	臨床心理学の固有な学問的位置づけ、歴史、研究分野、心理臨床の場の特徴など、臨床心理学の本質論について学ぶ。				
授業概要	臨床心理学の独自性を学ぶために歴史、対象論や援助論、倫理、法規などについて言及し、事例や研究論文などから臨床心理学の本質論を学ぶ。臨床心理士としての経験、知見を交えて解説をする。				
評価方法・基準	講義への参画状況、講義中の質問、意見発表を評価する、(30%)、レポート(70%) レポートの完成度、発表の充実度を重視)				
履修上の注意事項等	発表形式でレポートを供覧しながら行うので、その場で討議をしながらフィードバックする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみが履修することができる。				
テキスト	なし				
参考書	臨床心理学原論 大塚義孝(編) 誠信書房 4-414-41321-4 研究論文で学ぶ臨床心理学 申崎真志・中田行重 ナカニシヤ出版				

科目名	臨床心理学特論Ⅱ			期間	後期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理的援助論 心理臨床実践モデル 臨床心理学の課題と展望				
到達目標	臨床心理学の課題を理解する。各領域における心理臨床実践モデルについて、意義、役割、課題について知る。				
授業概要	事例や幅広い研究論文に触れることで、臨床心理学の独自性と実証性の重要性を理解する。心理臨床家としての原点を学ぶ。 臨床の学びに重要なスーパービジョン、事例研究の意義について討論により考えを深める。				
評価方法・基準	授業に対する積極性(講義中の質問、討論における参加状況とリーダーシップ)、レポート(課題を正確に理解し、議論を深める)により評価する。				
履修上の注意事項等	授業中にフィードバックする。この科目は、「臨床心理学コース生」のみが履修することができる。				
テキスト	資料を配布する。				
参考書					

科目名	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)			期間	前期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理面接の理論と実際(Ⅰ)				
到達目標	各種心理療法の理論と方法について学び、それらを心理相談、助言、指導等に応用し、心理支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法を選択・調整する力を養う。				
授業概要	臨床心理面接における代表的な心理療法について学修する。受講生による文献講読、レジюме作成、発表、ディスカッション、実習等を通して、各種心理療法の理論と方法について理解を深め、心理臨床家としての基本的スタンスを身に付ける。				
評価方法・基準	授業への参加状況(主体的・積極的態度、発表、ディスカッション等)、レポート等(心理療法理論の理解、実践への適切な活用)により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表については、授業の中で討議し、コメントを行う。レポートは期間内に課し、授業の中でコメントを行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	臨床心理面接技法1, 2, 3 大塚義孝他監修 誠信書房				

科目名	臨床心理面接特論Ⅱ			期間	後期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理面接の理論と技法に関する概説				
到達目標	臨床心理面接の理論と技法に関し理解を深め説明できる。				
授業概要	①臨床心理面接の理論の学習②臨床心理面接の技法学習③臨床心理面接事例の理解と対応				
評価方法・基準	平常点40%(出席率だけでなく、質問やプレゼンテーション、積極的受講態度により評価する)、学習到達度確認60%(臨床心理面接の理論と技法、心理的障害の特性や心理的支援のポイントの理解を評価する)。				
履修上の注意事項等	各授業時間の最後にコメントシートを配布し回収、次回の授業の最初に質問に対するコメントを行う。学習到達度の確認を実施し、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。配布された資料を事前に読み必ず予習をしてもらうこと。資料は適時配布する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	臨床心理学研究法特論	期間	前期
担当教員	林郷子・村上史朗	単位数	2
		配当年次	1・2
テーマ	臨床心理学研究における方法論		
到達目標	臨床心理学に関する主要な研究方法を学修し、研究計画書を作成する。		
授業概要	本講義の前半では、臨床心理学において用いられる主要な研究方法を、研究論文を通して概観する。後半では、例として一つの研究を計画し、仮説を立て、検証方法を検討することまでの研究プロセスを実際に体験しながら、臨床心理学的研究方法について学修する。		
評価方法・基準	授業への積極的な参加、寄与（発表等）、レポート等（適切な研究計画）により総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表については、授業内で討議し、コメントを行う。レポートについては期間内に課し、最終授業でコメントを行う。		
テキスト	必要に応じて配付する。		
参考書	臨床心理学研究法 丹野義彦編 誠信書房 9784414413250		

科目名	発達心理学特論	期間	前期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2
		配当年次	1・2
テーマ	生涯発達の考え方にたったヒトの発達に関する、臨床に結び付く理解と支援		
到達目標	主たる発達理論と生涯発達の考え方について理解し、支援へと繋げる視点をもつ。特に幼児期の特徴・発達課題を理解する。		
授業概要	人間の発達について、生涯発達の視点から包括的に考える。最初に、発達における各時期の課題について学ぶ。特に、臨床心理士として児童の相談にあたってきた知見から、定型発達だけでなく、その阻害要因としての虐待や障害をはじめ、愛着、認知発達、心の理論、ことばの獲得、環境、発達障害等の問題も取り扱う。また、乳児期、幼児期、児童期、青年期のそれぞれの発達の課題と発達支援の在り方について検討する。		
評価方法・基準	平常点、講義への参画状況、講義中の質問、意見発表を評価する。(30%)、レポートの完成度、発表の充実度を重視・テスト発達心理学に関する異本事項の理解度を評価する。(70%)		
履修上の注意事項等	テストについては、事前テスト、到達度テストともに授業内でフィードバックを行う。レポートについては、発表形式で供覧しながら行うので、その場で討議をしながらフィードバックする。現場にて従事した臨床経験に関しても伝えていきたい。今後目指す臨床心理士や公認心理師に必要な知識や臨床を意識して受講してほしい。		
テキスト	なし		
参考書	発達心理学特論 内田伸子・氏家達夫 放送大学教育振興会 9784595135132 発達心理学 水野里恵 講談社 9784065221549		

科目名	心理統計法特論	期間	後期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2
		配当年次	1・2
テーマ	心理学的研究における多変量データ解析の理解		
到達目標	心理学的研究において必要とされる統計的手法について、分析課題の設定、分析モデルの構築、測定、分析という一貫した分析計画を構築し、実施することが可能になる理論と方法の修得を目指す。		
授業概要	この講義では、統計的分析の理論的な理解を重視する。その上で、実際に心理学的研究論文で用いられている実例を引きながら、分析結果の意味を読み取るスキルと、実際に分析を行うスキルの両方に関する課題をこなすことで、応用的な力をつける。		
評価方法・基準	総合評価＝毎回の課題評価（100%） 課題の評価基準：（要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している） and（独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている）		
履修上の注意事項等	課題へのコメントおよび講義中のディスカッション。課題提出をおろそかにしないこと。本授業は講義であるが、アクティブラーニングの手法を導入して実施する。		
テキスト	適宜資料を配付する。		
参考書	適宜資料を配付する。		

科目名	教育心理学特論	期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2
		配当年次	1・2
テーマ	教育と心理臨床		
到達目標	教育臨床心理学的な視点から、子どもの「適応」に関する理解を深める。		
授業概要	教育と心理臨床は密接な関連のある領域で、教育の場において、もしくは教育との連携のもと、さまざまな心理臨床の実践がなされている。本講義では、教育心理学の中でも、子どもの心理臨床と関わりの深い領域を取り上げて、子どもをめぐる課題について検討する。文献講読と発表、討議を中心として行う。		
評価方法・基準	授業への主体的・積極的な参加態度、発表・レポート等（自身の見解を深められているか）により、総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	授業中の発表については、授業内で討議し、コメントを行う。レポートについては期間内に課し、最終授業でコメントを行う。授業には積極的な態度で臨むこと。		
テキスト	プリント配布もしくは適宜指示する。		
参考書	適宜、紹介する。		

科目名	社会心理学特論		期間	前期	
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	援助要請の心理学				
到達目標	たすけを求めにくい人に援助要請を促すために助けられる人の心理を理解し、援助要請を妨げる課題克服のための支援を修得する。				
授業概要	先ず、援助行動の影響過程および被援助行動の影響過程を学ぶ。次に、援助要請行動の過程を各ステージ別の課題と共に支援の方法を学ぶ。				
評価方法・基準	小レポート（40％＝授業課題への適合度、論理的な構成、科学的な記述の3点を評価する）＋各授業での質疑応答（30％＝準備の程度、意見表明の誠実さなどを評価する）＋最終レポート（30％＝テーマ選択の根拠の合理性、キーワードの適正な使用、科学的な記述を評価する）				
履修上の注意事項等	質問については、応答の有無にかかわらず説明し、考え方の助言を与える。レポートについては、提出者については、採点し次回の講義で返却する。出席は単位修得の必須条件とする。対人関係の基礎理論と臨床実践との関連を積極的に考える受講態度を求める。				
テキスト	支え合いからつながる心 太田仁監修 ナカニシヤ出版 2019 978-4-7795-1414-2				
参考書	授業で紹介する。				

科目名	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		期間	後期	
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	非行・犯罪行動に関する理論。加害者と被害者の心理と支援。				
到達目標	非行・犯罪行動と加害者・被害者について心理学的に理解する。支援方法を学ぶ。				
授業概要	少年警察補導職員及び臨床心理士・公認心理師としての経験に基づき授業を展開する。司法犯罪心理学領域における臨床活動と心理専門職の役割を学ぶ。非行・犯罪行動の背景・要因・プロセスを理解し、具体的な介入方法を学ぶ。加害と被害の関係を理解し、支援の実際と課題を考える。				
評価方法・基準	授業への参加状況（積極的な参加、テーマを掘り下げた発表、ディスカッション等）、レポート等により総合的に判断する。レポートでは、課題を正確に捉え、参考資料を確実に読みこなし、考察が論理的な展開となっているかを評価する。				
履修上の注意事項等	発表、ディスカッションについては、担当教員がその場で行う。レポートの講評は、最終回の授業で行う。配布資料は通読すること。犯罪白書は複数回目を通すこと。事件報道や法律改正については、関心を持って記事を視聴・閲覧しておくこと。				
テキスト	なぜ君は絶望と闘えたのか 門田隆将 新潮社文庫 2010 978-4101231426 資料を配布する。				
参考書	司法・犯罪心理学 藤岡淳子 有斐閣ブックス 2020 978-4-641-18451-0 司法・犯罪心理学 原田 隆之 ミネルヴァ書房 2024 978-4-623-08629-0 司法・犯罪心理学 森 文弓 サイエンス社 2021 978-4-7819-1507-4 令和4年版犯罪白書 https://www.moj.go.jp/content/001385160.pdf				

科目名	障害者（児）心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		期間	後期	
担当教員	★加藤 敬	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	発達障害児・者、二次的障害、福祉的心理支援やその政策と法律など発達障害をめぐる包括的な理解				
到達目標	調べ学習、講義を通じて上記のテーマを理解する				
授業概要	公認心理師が制度化され、心理は医療、福祉、教育、産業、司法など様々な領域で活躍しているが、発達障害の方に出会わない日はないほどの現状である。こうした状況に備えるため、発達障害をめぐる様々な知識を調べ学習や講義を通じて学んでいく				
評価方法・基準	平常点50%（講義中の質問や積極的な態度を重視）、学習到達度50%（発達障害を理解するための基本的概念を正しく理解している）発表内容の充実度の重視				
履修上の注意事項等	プレゼンテーションとデモスキャッションの中でフィードバックします。この科目の履修については、具体的臨床事例を扱うため、担当教員に事前に了解をとること				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		期間	前期	
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	精神疾患の中で、身体因の関与が大きいと考えられる諸疾患について、その疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について学ぶ。				
到達目標	身体因の関与が大きいと考えられる精神疾患について、その全体像、疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について理解すること。				
授業概要	身体因の関与が大きいと考えられる精神疾患を、DSM-5に沿って学習する。毎回テーマとする疾患について予習し、それを講義でプレゼンテーションしてもらい、それを共に検討する。精神医学的な知見と心理学的な見方を、対比させ学習する。				
評価方法・基準	毎回の予習とその講義中のプレゼンテーション、受講態度によって評価する。				
履修上の注意事項等	予習とその講義中のプレゼンテーションの講評、補足解説という形でフィードバックする。毎回の予習が必須です。単に精神医学的な用語を学習するのではなく、患者さんにおいて実際はどのような症状であるのか想像しつつ、学習を深めることが肝要です。				
テキスト	適宜資料を配布します。				
参考書	DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 American Psychiatric Association 医学書院 2014 4260019082 WHO「ICD-11 https://icd.who.int/en WHOの診断基準				

科目名	心身医学特論		期間	不定期	
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	精神疾患の中で、心因の関与が大きいと考えられる諸疾患について、その疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について学ぶ。				
到達目標	心因の関与が大きいと考えられる精神疾患について、その全体像、疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について理解すること。				
授業概要	心因の関与が大きいと考えられる精神疾患を、DSM-5に沿って学習する。毎回テーマとする疾患について予習し、それを講義でプレゼンテーションしてもらい、それを共に検討する。精神医学的な知見と心理学的な見方を、対比させ学習する。				
評価方法・基準	毎回の予習とその講義中のプレゼンテーション、受講態度によって評価する。				
履修上の注意事項等	予習とその講義中のプレゼンテーションの講評、補足解説という形でフィードバックする。毎回の予習が必須です。単に精神医学的な用語を学習するのではなく、患者さんにおいて実際はどのような症状であるのか想像しつつ、学習を深めることが肝要です。				
テキスト	適宜資料を配布します。				
参考書	DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 American Psychiatric Association 医学書院 2014 4260019082 WHO「ICD-11」 https://icd.who.int/en WHOの診断基準のサイト				

科目名	投映法特論		期間	前期集中	
担当教員	★井村 修	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	投映法に関する理論と技法の概説				
到達目標	ロールシャッハテストの特性を理解し、その実施、解釈について適切に行うことができる				
授業概要	ロールシャッハテストの理論と実施方法学習し、ロールプレイによるテストの施行、テスト結果の整理と解釈法を学ぶ。また健常者協力者を対象にロールシャッハテストを実施しスコアリングと解釈を行う。事例を取り上げ解釈の練習を行う。				
評価方法・基準	平常点40%（出席率だけでなく、質問や討論への参加などの受講態度により評価する）、レポート60%（スコアリング、テスト結果の解釈の適切性、論理性に関し評価する）。				
履修上の注意事項等	課題のフィードバックは、プレゼンテーションにおける討論・解説とレポートの添削指導による。レポートはオフィスアワーに研究室にて返却する。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。資料は適宜配布する。授業日は4月18日、4月25日、5月9日、5月16日、5月23日、5月30日、6月6日、6月13日とし、6月13日以外は1～2限の2コマ連続の授業とする。				
テキスト	なし				
参考書	改訂 新・心理診断法 片口安史 金子書房 9784760825486				

科目名	心理療法特論		期間	前期	
担当教員	★前田 泰宏	単位数	2	配当年次	1・2
テーマ	心理療法への統合的アプローチ				
到達目標	心理療法統合や統合的心理療法の理念/基本概念/方法について学び、個々のクライアントに適合する臨床実践の基礎を習得する。				
授業概要	近年、心理療法は、単一学派の理論モデル・技法によるアプローチから、諸種の理論や技法を統合的に有効活用する段階に入ったと言われている。本講義では、その基盤となる諸理論やエビデンスを踏まえながら、心理療法統合や統合的心理療法の理念/基本概念/方法について学ぶ。授業では、学んだことの振り返り、提示課題への取り組み、発表、ディスカッション、ロールプレイ等を通して、個々のクライアントに適合する臨床実践の基礎となる知識/態度/方法を身につける。				
評価方法・基準	平常点(授業中の質問や応答、課題への真摯な取り組みなど、積極的な姿勢を重視)+レポート(心理療法統合や統合的心理療法に関する知識や理解度を評価)により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業中の発表・プレゼンテーションについては、担当教員がその場でコメントし評価する。この科目は、「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	なし				
参考書	統合・折衷的心理療法の実践 東齊彰、加藤敬、前田泰宏 金剛出版 2014 4-7724-0657-3 心理臨床への多元的アプローチ ケーバー・マルネオボ 岩崎学術出版社 2015 978-4-7724-1364-0 心理療法統合ハンドブック 日本心理療法統合学会監修 誠信書房 2021 978-4-414-41678-7 日本心理療法統合学会 https://www.japanesesocietyforpsychotherapyintegration.com/ 日本心理療法統合学会HP				

科目名	心理実践実習Ⅰ		期間	不定期	
担当教員	儀部・林・鈴木・武本	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理臨床活動の実践(1)				
到達目標	心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の、心理支援の実践を行うための基本的な知識および技能を修得するとともに、職業倫理や法的義務を理解する。				
授業概要	本学附属の心理相談施設(臨床心理クリニック)および学外実習施設において実習を行う。施設見学や心理面接、チームアプローチ等を通して、心理支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成を行い、心理支援に必要な知識・技能・態度等を修得する。また、多職種連携や地域連携について体験し、その意義を学ぶ。ケース・カンファレンスやスーパーヴィジョンを通して、活動内容について適宜検討を行う。				
評価方法・基準	実習への参加状況や研修記録、カンファレンスへの参加態度等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	研修記録へのコメントやカンファレンス、グループスーパーヴィジョン等を通して行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考書	適宜、紹介する。				

科目名	心理実践実習Ⅱ	期間	不定期
担当教員	礒部・林・鈴木・武本	単位数	8
配当年次	2		
テーマ	心理臨床活動の実践(2)		
到達目標	心理実践実習Ⅰで修得した心理支援実践の基本的知識・技能をもとに、心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等における更に実践に即した技能を得る。		
授業概要	<p>本学附属の心理相談施設(臨床心理クリニック)および学外実習施設において実習を行う。心理検査、心理面接、チームアプローチ等を通して、心理支援を要する者等の理解とニーズの把握、心理面接および支援計画の作成を行い、心理支援に必要な知識・技能・態度等を修得する。また、多職種連携や地域連携について、実践的に学ぶ。ケース・カンファレンスやスーパーヴィジョンを通して、活動内容について適宜検討を行う。</p>		
評価方法・基準	実習への参加状況や研修記録、カンファレンスへの参加態度等により総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	研修記録へのコメントやカンファレンス、グループスーパーヴィジョン等を通して行う。この科目は「臨床心理学コース生」のみ履修することができる。		
テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考書	適宜、紹介する。		

科目名	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	期間	後期集中
担当教員	礒部 美也子	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	学校心理臨床の理論と実際		
到達目標	学校心理臨床の課題や現代的意義、事例の理解、および学校臨床に必要な基本的なシステムについて理解する。		
授業概要	<p>学校におけるいじめ、不登校、発達障害、問題行動、緊急支援など、学校臨床心理士(スクールカウンセラー)が扱う事例は多岐にわたっている。学校臨床の構造の理解や、連携の在り方、事例の展開など、研究や具体的な事例を通して学校臨床について学ぶ。教員がスクールカウンセラーとして実際に経験したことも取り上げる。</p>		
評価方法・基準	授業への参画度・発表・レポート(70% 講義中の質問、意見発表、レポートの完成度を重視)、確認テスト(30% 講義に関する基本的事項の理解度を評価する)。		
履修上の注意事項等	テストについては、授業内でフィードバックを行う。レポートについては、発表形式で供覧しながら行うので、その場で討議をしながらフィードバックする。参考資料を適宜配布する。スクールカウンセリングに関する論文も検索しておくこと。各自文献発表をします。		
テキスト	なし		
参考書	<p>スクールカウンセリングモデル 100 例 かしまえりこ・神田橋條治 創元社 978-4-422-1379-1 学校臨床心理学・入門 伊藤美奈子・平野直己 有斐閣 アルマ 978-4-422-11379-1 生徒指導提要 文部科学省</p>		

科目名	グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	期間	後期
担当教員	★黒崎 優美	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	グループアプローチの理論と実際		
到達目標	<p>①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解し、説明することができる。②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解し、説明することができる。③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用ができる。</p>		
授業概要	<p>グループアプローチとは、集団精神療法をはじめとする集団に焦点を当てた心理学的援助の総称である。本科目では、家族、学校、職場、地域社会等の集団において生じるさまざまな臨床心理学的課題に対するグループアプローチのあり方について、文献講読、素材や事例の検討、討議を通じて修得していく。</p>		
評価方法・基準	平常点(50%)…授業への参加貢献。提出物(30%)…授業レポート。発表(20%)…独創性、論理性。		
履修上の注意事項等	<p>授業レポートの内容は、授業に反映し、適宜紹介する。発表の内容については、その場でコメントをする。主体的に考え言語化する努力をしてください。討議に積極的に参加してください。連絡先メールアドレス:kurosaki@shoin.ac.jp</p>		
テキスト	なし		
参考書	<p>「愚かさ」の精神分析ゼオンの観点からグループの無意識を見つめて メドハフシ ナカニシヤ出版 2004 集団の経験ゼオンの精神分析的集団論 W.R.ゼオン(メドハフシ監訳) 金剛出版 2016 グループサイコセラピー:理論と実践 I.D.ヤーロム(中久喜雅文、川室優監訳) 金剛出版 2012 プシコソシア会 https://naraupps.wixsite.com/psychophilia ビネヤハフシから学び研究や臨床を行うためのグループ</p>		

科目名	産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	期間	前期
担当教員	與久田 巖	単位数	2
配当年次	1・2		
テーマ	公認心理師養成における産業・組織心理学の理解		
到達目標	公認心理師養成における産業・組織の行動と心理、人事・評価に関する理論、知見、課題について理解を深める。		
授業概要	<p>心の専門家養成講座の著作の講読を中心に行い、適宜ディスカッションを通して、公認心理師養成における産業・組織心理学の理解を深める。</p>		
評価方法・基準	<p>発表 50%: 発表内容を評価する。 ディスカッション 30%: 発表内容を踏まえた上で自己の見解を論理的に展開しているか評価する。 学期末レポート 20%: 自己の見解を論理的に記述しているか評価する。</p>		
履修上の注意事項等	<p>発表とディスカッション: その場でフィードバックを行う。学期末レポート: 成績交付日に来室した者/メールで問い合わせた者には採点結果の開示・講評を行う。発表担当の際、正当な理由なく欠席した場合は、大幅減点する。</p>		
テキスト	<p>産業心理臨床実践: 個(人)と職場・組織を支援する 金井篤子、森田美弥子、松本真理子 ナカニシヤ出版 2016 978-4779510649</p>		
参考書	授業で適宜、紹介する。		

科目名	心理教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		期間	後期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次
				1・2
テーマ	心の健康教育の理論 心の健康教育の実践			
到達目標	心の健康に関する知識を身につける。心の健康の普及を図るための教育及び情報の提供方法について理解し、その方法論を習得する。			
授業概要	心の健康とはどのような状態をさすのか、予防とはいかにあるべきかについて、ストレス理論、疾病理論、コミュニケーション理論から学ぶ。子育て支援、学校領域、地域コミュニティにおいて健康を脅かされる事態が発生した場合に、いかに心の健康の普及を図るための教育を行えばよいのか、情報を提供すればよいのかについて学ぶ。			
評価方法・基準	授業への参加状況（積極的な参加、テーマを掘り下げた発表、ディスカッション等）、レポート等により総合的に判断する。レポートでは、課題を正確に捉え、参考資料を正確に読みこなし、論理的な展開となっているかを評価する。			
履修上の注意事項等	授業中に適宜行う。			
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。			
参考書	『ストレスマネジメント入門 - 自己診断と対処法を学ぶ (第2版)』 中野敬子 金剛出版 2016 9784772414722 『こころの病理学』 新宮一成・片田珠美・芝伸太郎・西口芳伯 丸善出版 2010 9784621082423 『コミュニティ心理学ハンドブック』 日本コミュニティ心理学会編 東京大学出版会 2007 978-4-13-016111-4			

奈良大学大学院履修要項・講義要項

2024年3月30日発行

編集 奈良大学
発行 総合研究所・大学院事務室

〒631-8502
奈良市山陵町1500
電話0742-41-9508

印刷 共同精版印刷株式会社

〒630-8013
奈良市三条大路2丁目2-6
電話0742-33-1221

¶